
潮来市
地域福祉に関するアンケート
結果報告書

令和5年10月
潮来市

(裏白)

目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の概要	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査対象者と回収結果	1
1-3 回答者の基本属性	2
第2節 調査結果の概要	5
第2章 アンケート結果	17
第1節 地域とのつながりについて	15
1-1 定住意向	15
1-2 ご近所付き合い	17
1-3 ご近所による支え合いの必要性	19
1-4 気になる地域の課題	21
第2節 ボランティア活動について	22
2-1 地域活動やボランティアの参加経験と関心	22
2-2 『ボランティアセンター』の認知度	24
2-3 ボランティア活動の参加条件	25
2-4 ボランティア団体の活動について	26
2-5 中学生・高校生のボランティア活動について	28
第3節 地域共生社会について	30
3-1 「地域共生社会」の言葉の認知度	30
3-2 困ったときの相談先	32
3-3 困っている家庭に出来そうな手助け	34
3-4 友人・知人に相談先をつないだ経験	35
3-5 福祉の相談窓口がある安心感	36
第4節 地域福祉活動の推進について	37
4-1 地域役員の活動のやりがい	37
4-2 地域役員の活動の負担感	38
4-3 『民生委員・児童委員』の認知度	39
4-4 『社会福祉協議会（社協）』の認知度	41
4-5 『社会福祉協議会』活動の理解	43
4-6 『社会福祉協議会』への期待	44
第5節 安心して暮らせる福祉のまちづくりについて	46
5-1 『福祉』の考え方	46
5-2 福祉関係の就労意向	48
5-3 ヤングケアラーの状況とお世話の内容	49
5-4 障がいのある人への差別や偏見	51
5-5 「成年後見制度」の認知度と利用意向	52

第6節 潮来市の地域福祉の取り組みについて	53
6-1 地域福祉の取組評価（満足度）	53
6-2 地域福祉の重点施策（重要度）	55
資料編	60
アンケート集計表	59
(1) 一般市民アンケート	59
(2) 地域役員アンケート	80
(3) ボランティアアンケート	89
(4) -① 中学生アンケート	96
(4) -② 高校生等アンケート	99

第1章 調査の概要

(裏白)

第1節 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、『第3次潮来市地域福祉計画・第3期潮来市地域福祉活動計画』の策定に向け、地域のつながりやボランティア活動への参加意向、地域福祉活動に対する理解等を把握し、だれもが住み慣れた地域で安心・安全に住み続けられる福祉のまちづくりを推進するための基礎資料とするものである。

1-2 調査対象者と回収結果

本調査は、以下の調査を実施した。

種類	調査対象者	調査方法	有効回答数	前回(R2)有効回答数
① 一般市民アンケート	18歳以上の市民 2,000人を無作為抽出	郵送又はインターネットによる併用	787人 (39.4%)	940人 (47.0%)
② 地域役員アンケート	民生委員児童委員、主任児童委員73人	郵送又はインターネットによる併用	59人 (80.8%)	62人 (87.3%)
	区長67人	郵送又はインターネットによる併用	50人 (74.6%)	57人 (86.4%)
③ ボランティアアンケート	ボランティアセンター 25団体	郵送又はインターネットによる併用	18団体 (72.0%)	33件 (78.6%)
④ 中学生・高校生等アンケート (潮来高校在校生市外含む)	市内中学生 579人	インターネットによる回答	357人 (61.7%)	210人 (中学2年生)
	高校生世代 926人	インターネットによる回答	383人 (41.4%)	362人 (潮来高校生)

【調査期間】令和5年7月24日(月)から8月4日(金)まで(締切日にお礼状兼督促を発送) データの入力最終〆切は9月6日(水)

◆結果報告書を見る際の注意

- ① 各設問の集計は、すべて単純集計、属性別(フェースシート)クロス集計を行った。
- ② 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100%を上下する場合もある。
- ③ 複数回答の設問は、1回答者が2つ以上の回答ができる質問である。このときの回答の計は回答者数(100%)を超える。
- ④ 図表および文章中で、選択肢を一部省略、並び替えをしている。

1-3 回答者の基本属性

① 一般市民アンケート

《性別》

○「女性」の割合が56.4%で高い。

	実数 (人)	構成比 (%)
男性	327	(41.6)
女性	444	(56.4)
その他	0	(0.0)
無回答	16	(2.1)
合計	787	(100.0)

《年齢別》

○「60～69歳」が22.4%、「70～79歳」が26.4%でやや高い。

	実数 (人)	構成比 (%)
18～29歳	47	(6.0)
30～39歳	60	(7.6)
40～49歳	76	(9.7)
50～59歳	134	(17.0)
60～69歳	176	(22.4)
70～79歳	208	(26.4)
80歳以上	80	(10.2)
無回答	6	(0.8)
合計	787	(100.0)

《地区別》

○「日の出地区」が21.7%、「延方地区」が20.2%である。

	実数 (人)	構成比 (%)
潮来地区	157	(19.9)
津知地区	108	(13.7)
延方地区	159	(20.2)
大生原地区	47	(6.0)
日の出地区	171	(21.7)
大洲区、十番区	12	(1.5)
かすみ地区	52	(6.6)
八代地区	70	(8.9)
無回答	11	(1.4)
合計	787	(100.0)

《家族構成別》

○「二世帯世帯」が39.1%、「一世代世帯」が31.1%である。

	実数 (人)	構成比 (%)
ひとり暮らし	128	(16.3)
一世代世帯	245	(31.1)
二世帯世帯	308	(39.1)
三世帯世帯	128	(16.3)
その他	71	(9.0)
無回答	26	(3.3)
合計	787	(100.0)

② 地域役員アンケート

《地域役員別》

- 「区長」が45.9%、「民生委員・児童委員」が54.1%である。

	実数 (人)	構成比 (%)
区長	50	(45.9)
民生委員・児童委員	59	(54.1)
無回答	0	(0.0)
合計	109	(100.0)

《担当地区別》

- 「潮来第一中学校区」が32.1%、「潮来第二中学校区」が28.4%である。

	実数 (人)	構成比 (%)
潮来第一中学校区	35	(32.1)
潮来第二中学校区	31	(28.4)
日の出中学校区	20	(18.3)
牛堀中学校区	23	(21.1)
無回答	0	(0.0)
合計	109	(100.0)

《地域役員の経験年数別》

- 「3年未満」の割合が67.0%で高い。

	実数 (人)	構成比 (%)
1年未満	73	(67.0)
1年以上3年未満	10	(9.2)
3年以上6年未満	19	(17.4)
6年以上9年未満	4	(3.7)
9年以上12年未満	1	(0.9)
12年以上	2	(1.8)
無回答	0	(0.0)
合計	109	(100.0)

③ ボランティアアンケート

《活動対象別》

○「高齢者等」の活動が55.6%で高い。

《複数回答》	実数 (団体)	構成比 (%)
高齢者等	10	(55.6)
障がい者(児)	4	(22.2)
児童	10	(55.6)
その他	5	(27.8)
無回答	0	(0.0)
合計	18	(100.0)

④ 中学生・高校生等アンケート

《学年別》

○“中学生”357人で、“高校生等”が383人である。

	実数 (人)	構成比 (%)
中学1年生	109	(14.7)
中学2年生	106	(14.3)
中学3年生	142	(19.2)
高校1年生	100	(13.5)
高校2年生	159	(21.5)
高校3年生	115	(15.5)
その他	9	(1.2)
無回答	109	(14.7)
合計	740	(100.0)

《居住地別》※高校生等のみ

○「潮来市内」の割合は60.3%である。

	実数 (人)	構成比 (%)
潮来市内	231	(60.3)
潮来市外	152	(39.7)
無回答	0	(0.0)
合計	383	(100.0)

第2節 調査結果の概要

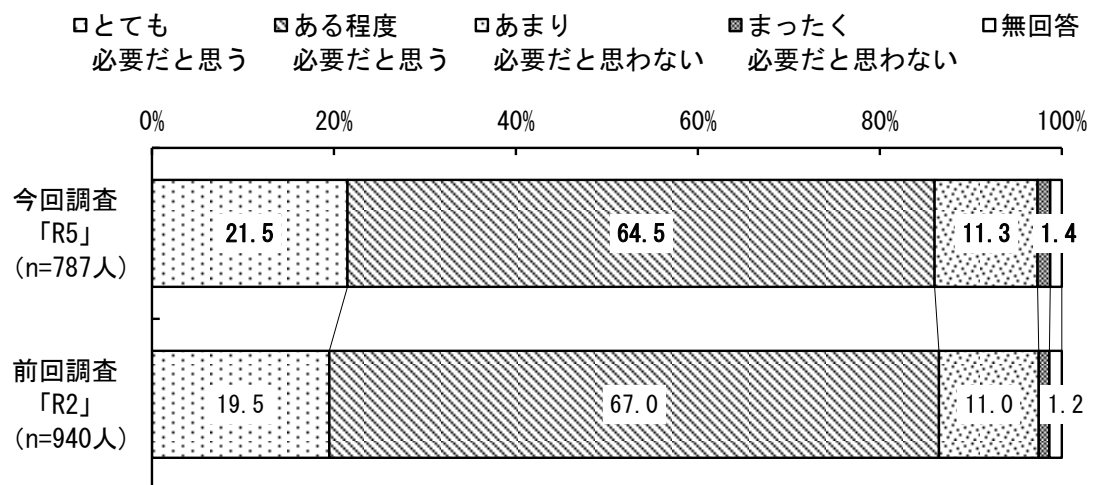
(1) 地域とのつながりの必要性について

ご近所の支え合いは必要と思うが、地域共生社会への理解はまだ不十分。

(主な結果)

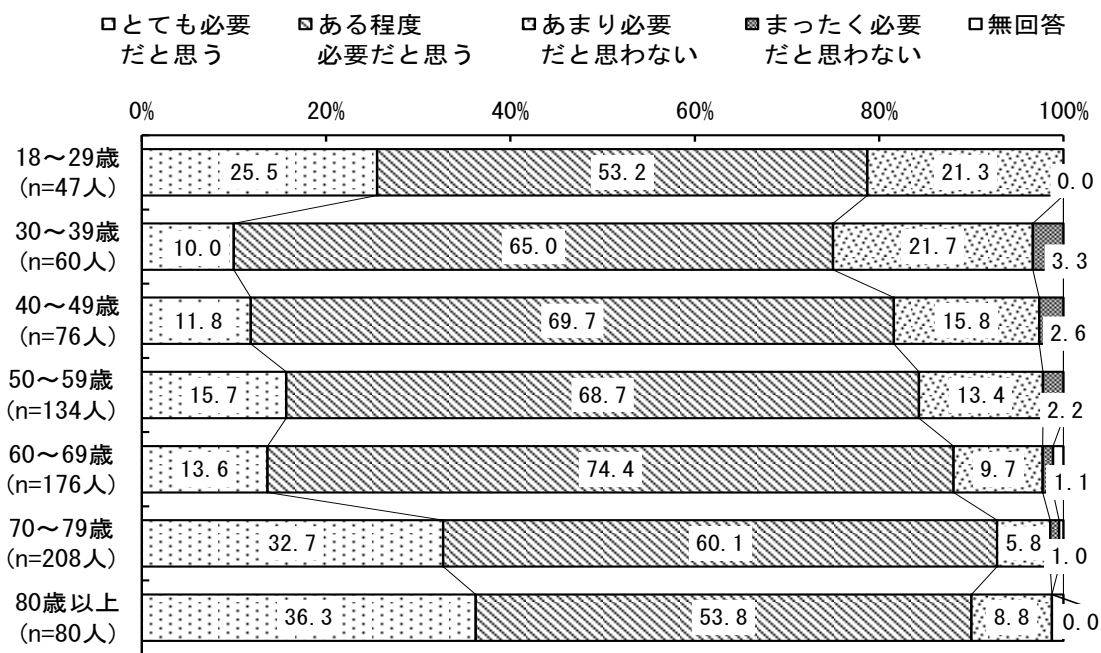
- ・近所付き合いは、「とても親しく」と「ある程度親しく」している人が半数以上を占めている。しかし“40～49歳”の年代は付き合いが薄い。
- ・ご近所による支え合いは、「ある程度必要だと思う」を合わせると86.0%に達しており、前回同様に高い。しかし、こちらも30代や40代は必要性を感じる割合が低いことから、若い年代で地域とのつながりが希薄になっている状況がうかがえる。
- ・地域共生社会について「理解している」市民は14.4%に止まり、「知らなかった」が37.5%で浸透しているとは言えないが、その中でも地域とのつながりが深い地域役員やボランティア団体は、「聞いたことがある」を合わせて約8割と高い。
- ・また、定住意向のある市民のほうが、地域のボランティア活動への関心も高い。
- ・地域役員やボランティアは、地域組織のつながり、後継者不足、住民同士の交流機会の減少などをより現実の問題として感じている。若い世代を中心に地域との関わりを深めていくことで、地域共生社会に対する理解も進んでいくことが考えられる。

図 ご近所による支え合いの必要性（市民：問7）



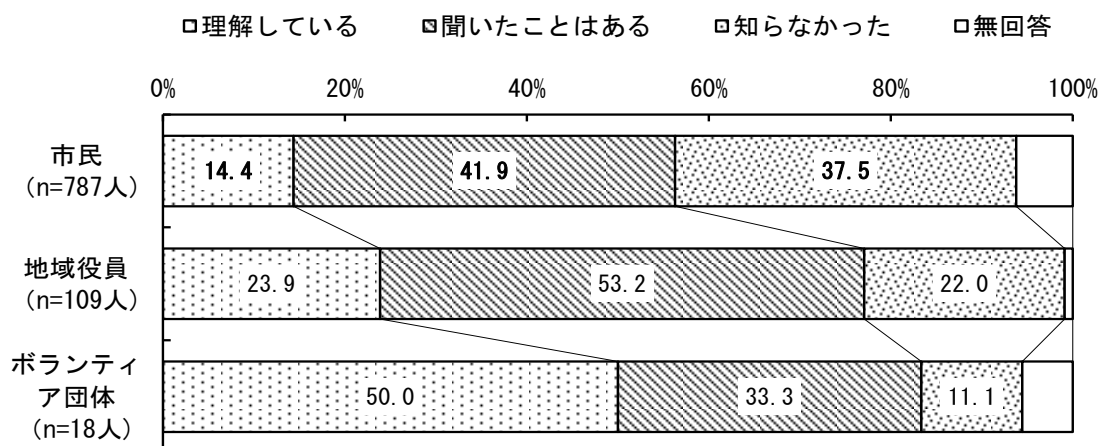
注) 無回答値は省略

図 ご近所による支え合いの必要性【年齢別】（市民：問7）



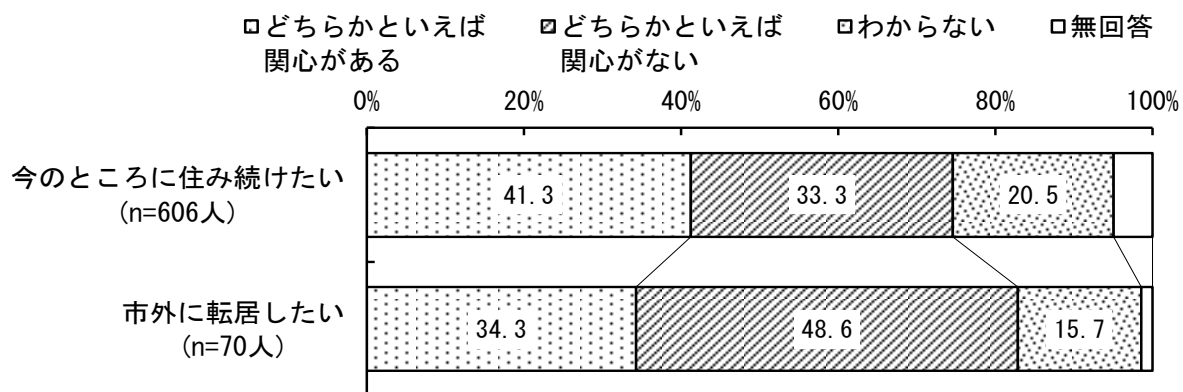
注) 無回答値は省略

図 「地域共生社会」の言葉の認知度（市民：問9、役員：問7、ボラ：問5）



注) 無回答値は省略

図 ボランティア活動の関心（市民：問15）×定住意向（市民：問5）



注) 無回答値は省略

(2) 社会福祉協議会の期待について

「専門的で継続的な相談」や「身近な生活支援サービス」が増えてきた。

(主な結果)

- ・社会福祉協議会（社協）は、「名称は知っている」を含めると、市民の約8割に認知されている。また、「地域福祉活動の中心的組織」や「市と連携・協力して活動」「様々な相談事業」を行っていることが比較的認知されている。
- ・その中でも“40～49歳”の認知度が低いことや、市民の会費等で運営されていること、権利擁護事業を行っていることがあまり知られていない。
- ・今後は、従来からの介護保険や障害福祉の公的サービスの取り組みもさることながら、「専門的で継続的な相談支援」と「身近な生活支援サービス」、地域役員等からは「関係機関とのネットワーク強化」といった、より身近で、より広い市民を対象とした取り組みへの期待が高まっている。

図 『社会福祉協議会』への期待（市民：問21）

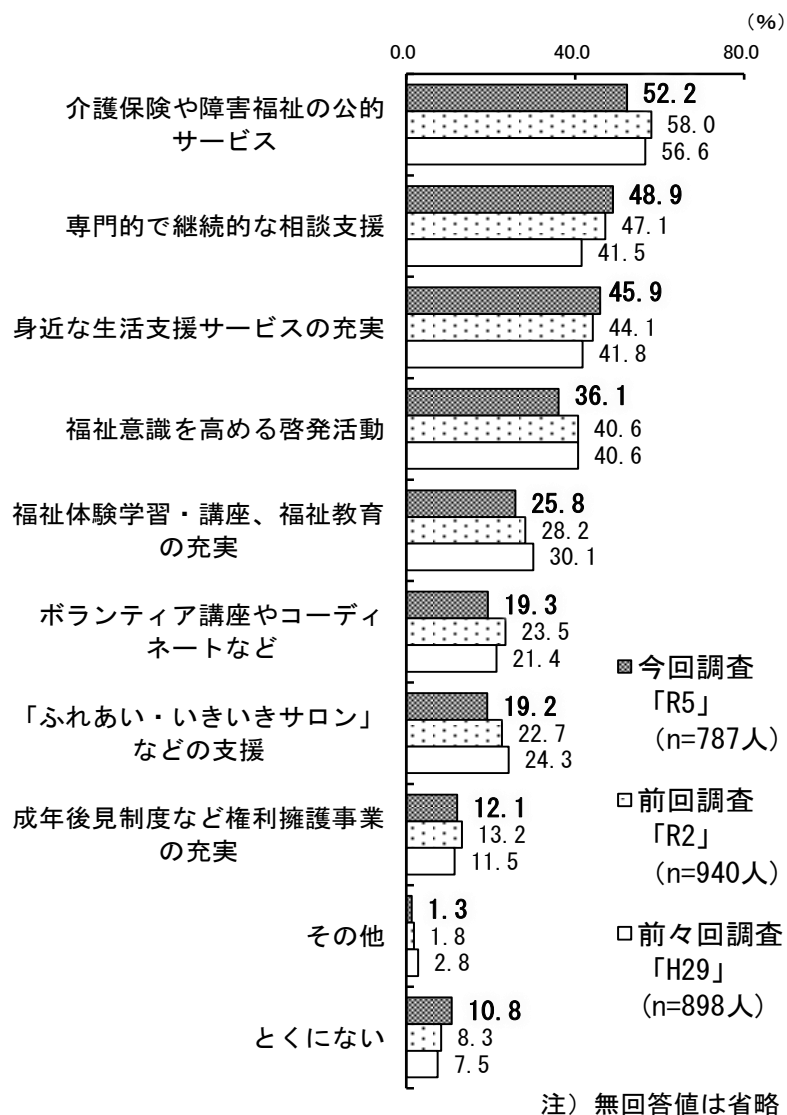
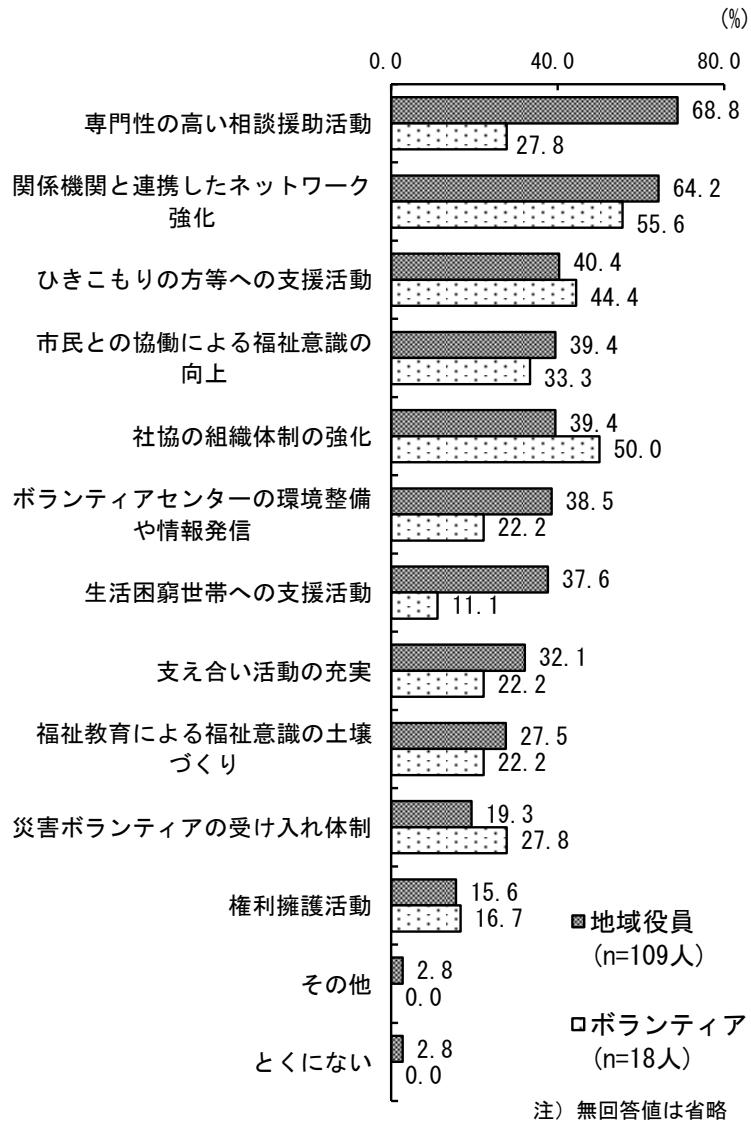


図 『社会福祉協議会』への期待（役員：問9、ボラ：問7）



(3) 福祉に対する理解促進について

「行政と市民の協力」はある程度浸透。地域役員の活動を市民に知ってもらうこと。

(主な結果)

- ・福祉のあり方については、「市民と行政が協力しながら」が前回よりも高くなり、年齢別でも大きな差異はなく、ある程度、理解が進んでいることがわかる。
- ・また、障がいのある人への差別や偏見に対する理解も少しずつ進んでいる。
- ・大半の区長や民生委員・児童委員は負担感を感じながら活動していることが市民に知られておらず、理解が深まっていないことが自由記述からもうかがえる。
- ・ボランティア活動に関しては、自分にあった時間や活動内容であれば「参加したい」人が多くいるため、参加しやすいきっかけや活動の周知等が求められている。また、コロナ禍で活動自粛の影響も考えられ、潮来市ボランティアセンターの認知度が上がっていないことも課題となる。

図 『福祉』の考え方（市民：問22）

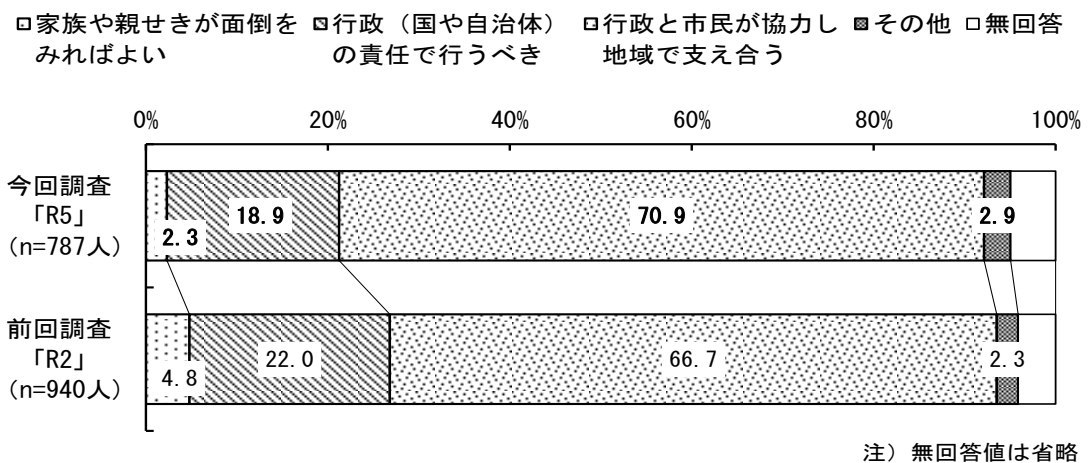
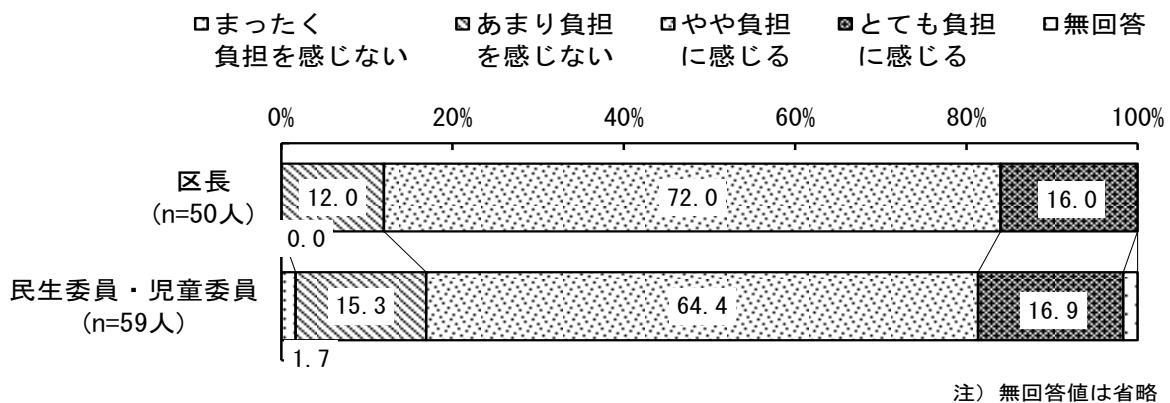


図 地域役員の活動の負担感（役員：問5）



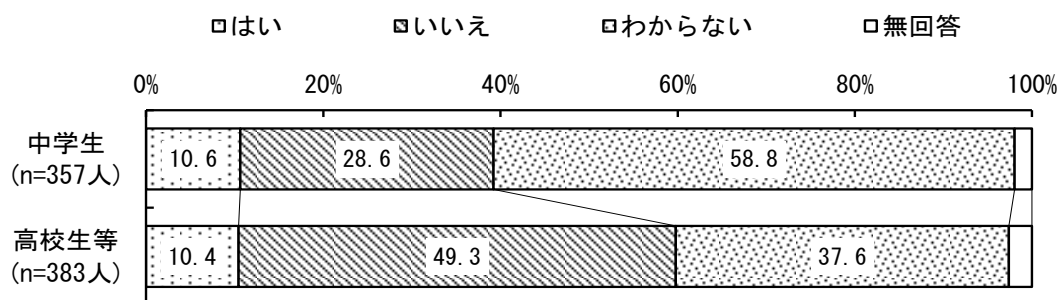
(4) 中学生・高校生等について

中学生・高校生等の福祉の仕事への関心は薄い。ヤングケアラーと思われる生徒が1割程度。

(主な結果)

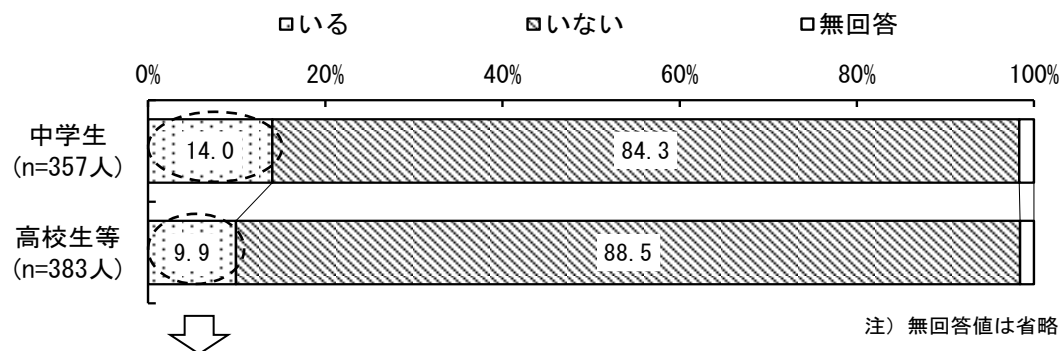
- ・ 将来、福祉関係の仕事の希望が、中学生・高校生等とも1割程度しかない。
- ・ 福祉課題を詳細に見ていくと、家族のお世話を必要としている生徒（ヤングケアラー）が1割程度いる。また、中学生・高校生等では自分の悩みを「相談できる人がいない」「誰にも相談したくない」とする生徒が1割程度見受けられ必要な支援につながっていないケースが想定される。

図 福祉関係の仕事の意向（中高：問8）



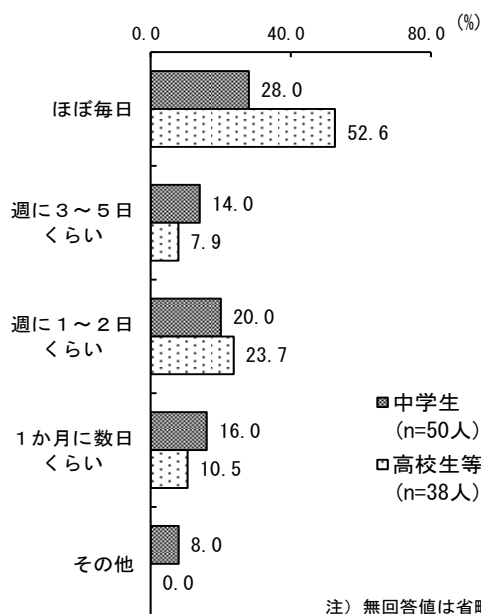
注) 無回答値は省略

図 生徒が家族をお世話をしている状況（中高：問7）



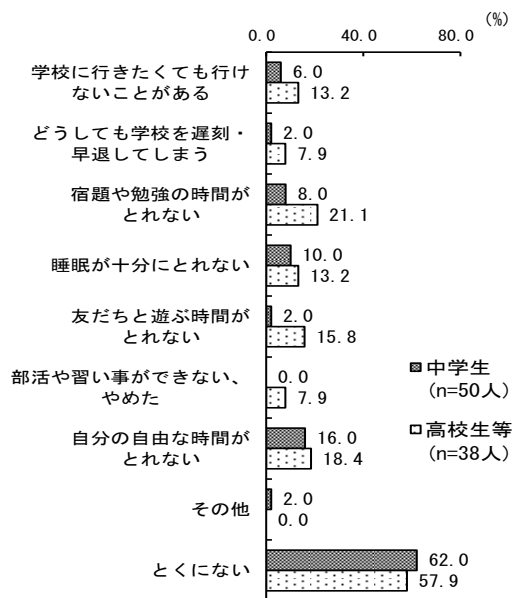
注) 無回答値は省略

図 お世話をする頻度



注) 無回答値は省略

図 お世話をすることで難しくなること



注) 無回答値は省略

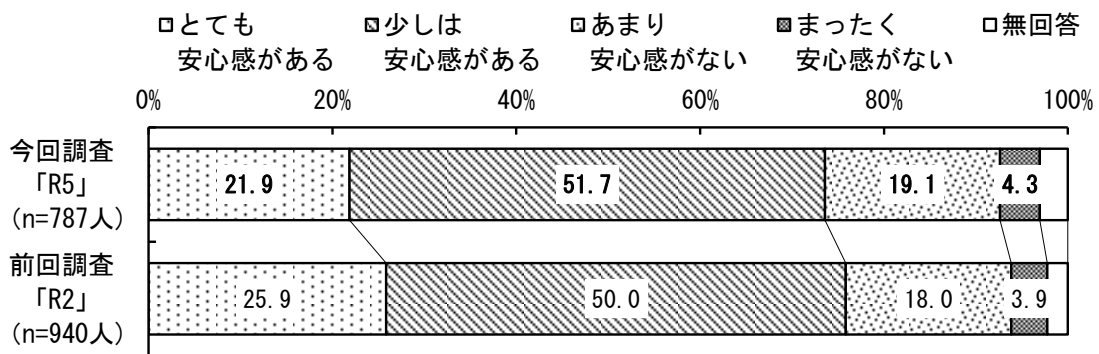
(5) 相談支援体制の強化について

福祉の相談窓口があることで「安心感」があると評価されている。

(主な結果)

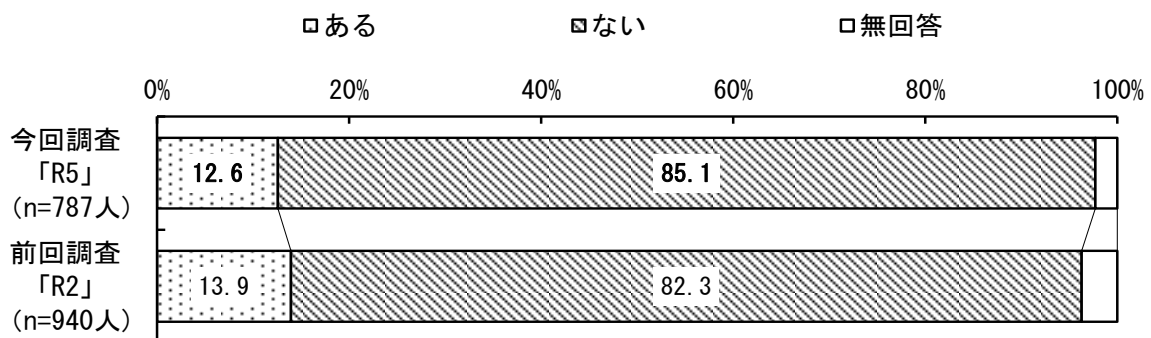
- ・福祉の相談窓口があることで“安心感がある”と約7割の市民が回答しており、福祉に関する相談窓口の充実が、ある程度図られてきたことがわかる。
- ・具体的に困ったときの相談先としては、身近にいる家族や友人・知人が高く、そこから市役所などの各種相談窓口につながるケースが、今後想定される。また、中学生・高校生等に関しても「友だち」や「家族」に相談する割合が高い。
- ・そのため、家族や友人・知人を介して適切な相談先につなぐことや、相談先につながるための周知、また、相談対応の強化等が引き続き求められる。
- ・困っている家庭に関しては「安否確認の声かけ」や「話し相手」が高く、地域の困りごと、地域の課題に気にかけて、必要に応じてつないでいくことが大切である。

図 福祉の相談窓口がある安心感（市民：問13）



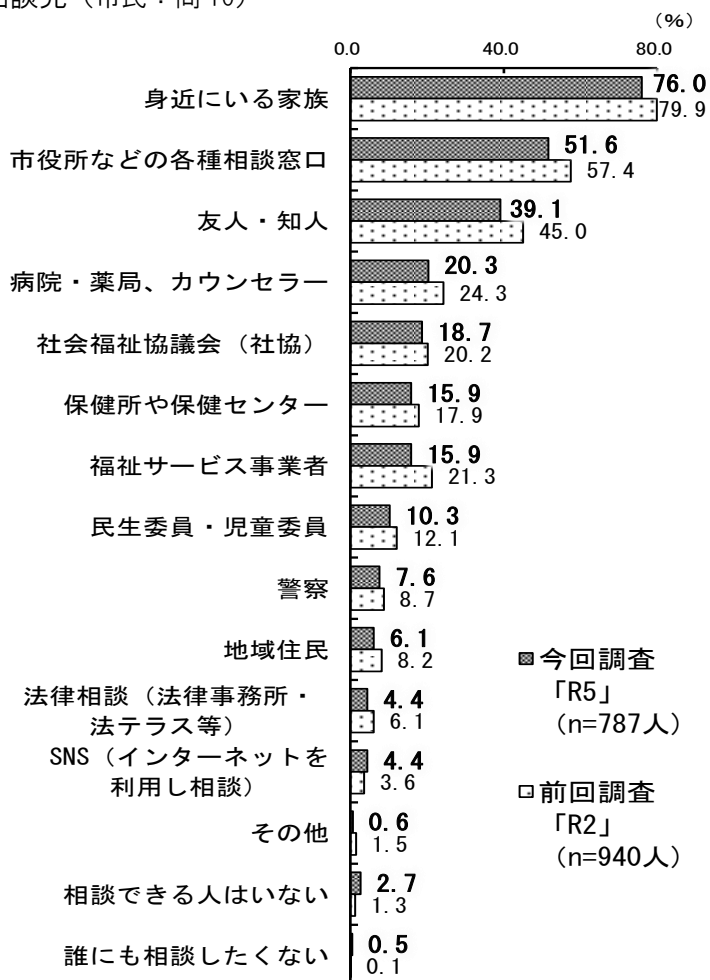
注) 無回答値は省略

図 友人・知人の相談をつないだ経験（市民：問12）



注) 無回答値は省略

図 困ったときの相談先（市民：問10）



注) 無回答値は省略

(6) 地域福祉の取り組みの重点について

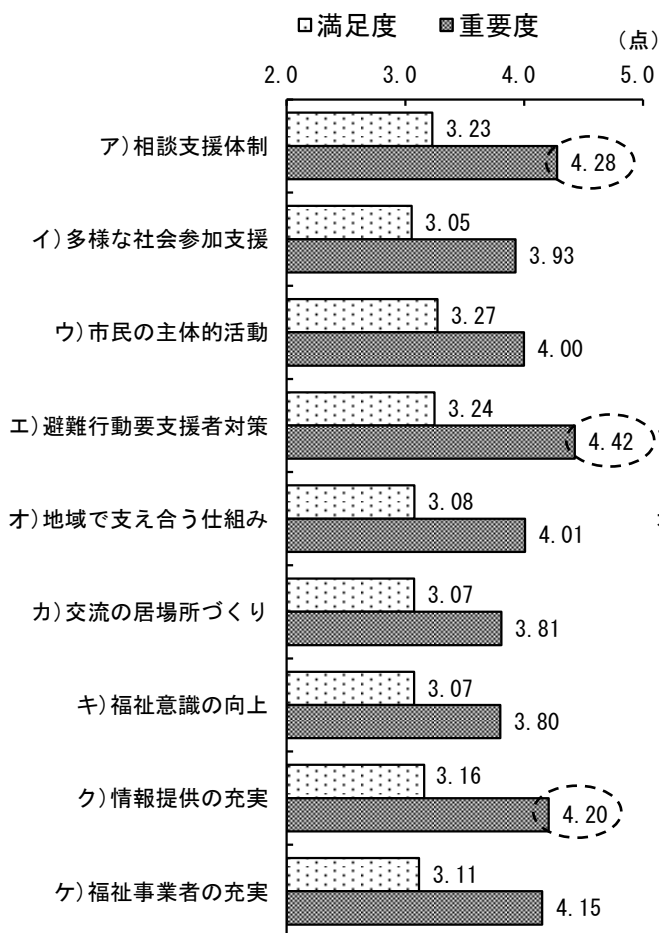
地域福祉の重点は「避難行動要支援者対策」「相談支援体制」「情報提供の充実」。

(主な結果)

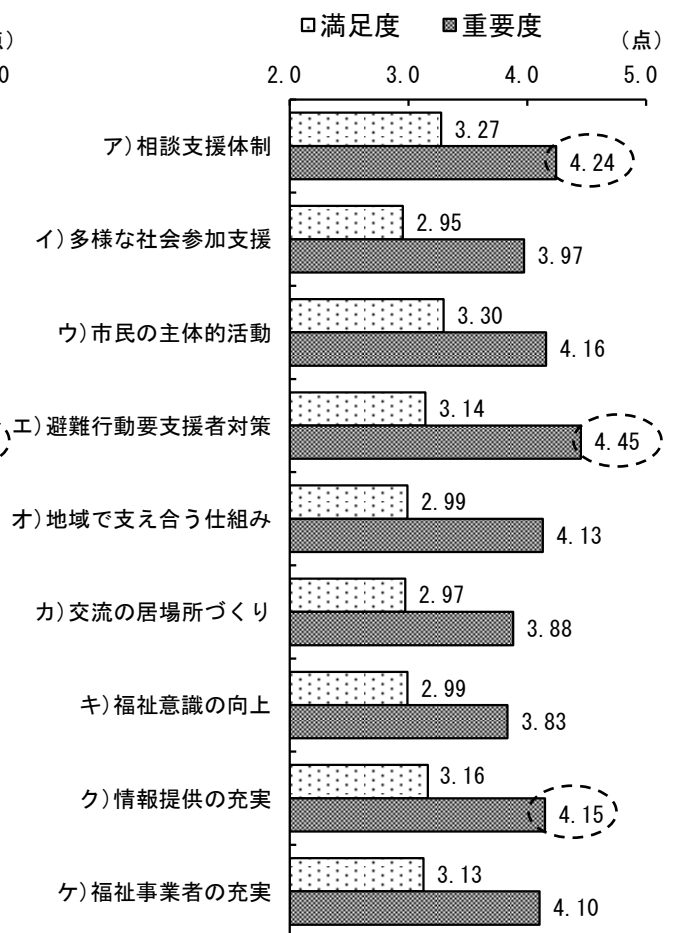
- ・地域福祉を推進する上で大事なこととして「避難行動要支援者対策」と「相談支援体制」「制度や福祉サービスの情報提供の充実」が、市民と地域役員ともに期待されている。
- ・「地域で支え合う仕組み」や「多様な社会参加支援」は比較的改善が求められる事項となる。

図 福祉施策の満足度と重要度 (問 26、問 27)

(1) 市民



(2) 地域役員

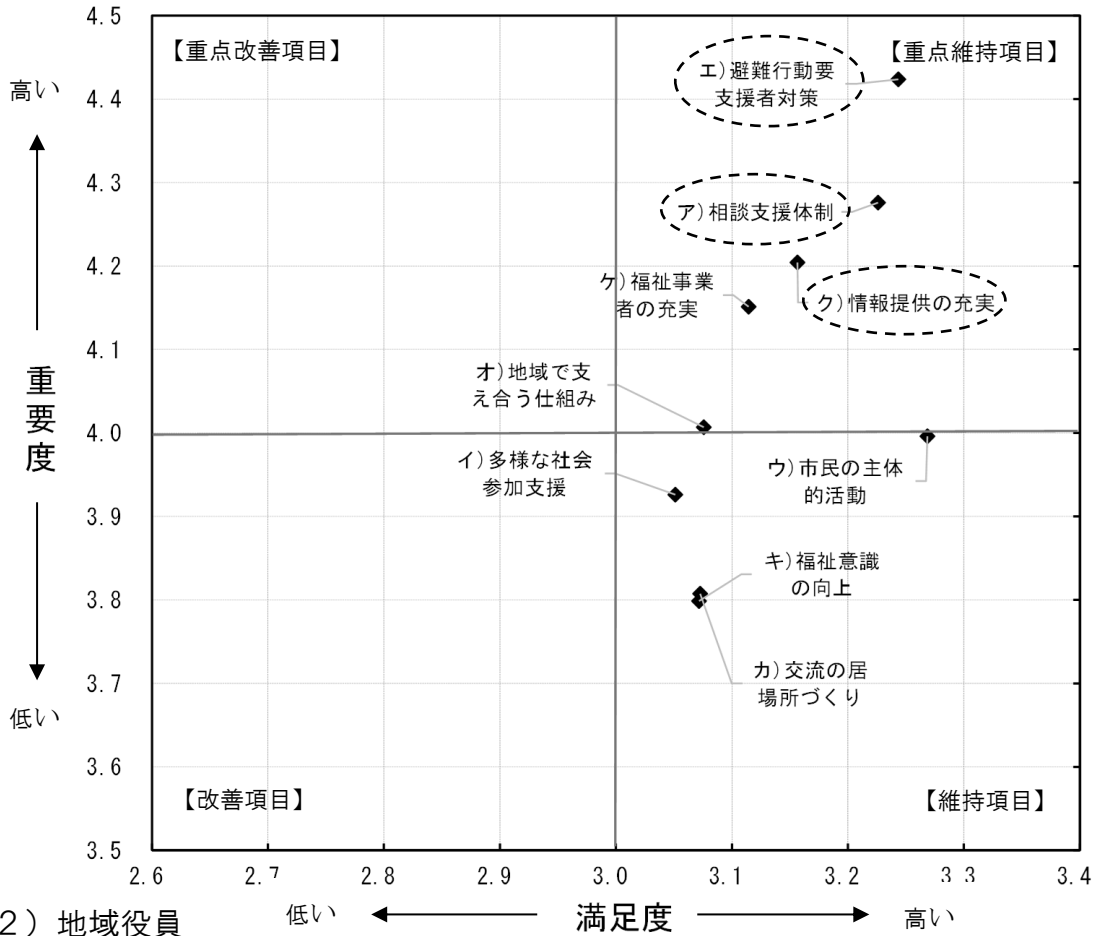


<加重平均値の算出方法>

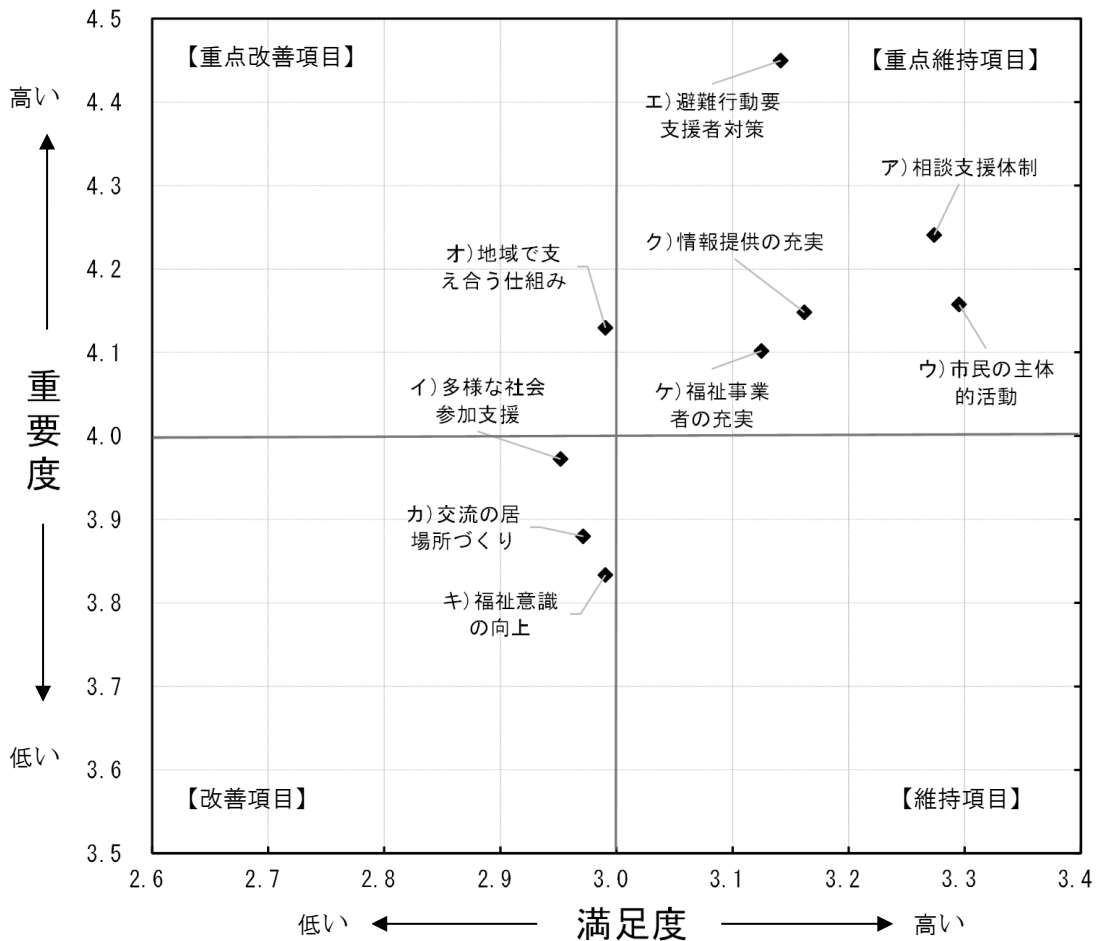
各設問に対し「評価する(重要)」から「評価しない(重要でない)」までの回答を加重平均値によって算出し点数化した。選択肢で「評価する」に+5点、「どちらかといえば評価する」に+4点、「どちらともいえない」に+3点、「どちらかといえば評価しない」に+2点、「評価しない」に+1点を便宜的に与え、回答構成から数値を求めるものである。

$$\text{点} = \frac{\text{「評価」} \times 5 + \text{「どちらかといえば評価する」} \times 4 + \text{「どちらとも」} \times 3 + \text{「どちらかといえば評価しない」} \times 2 + \text{「評価しない」} \times 1}{\text{回答者総数} - \text{「無回答」}}$$

(1) 市民



(2) 地域役員



第2章 アンケート結果

(裏白)

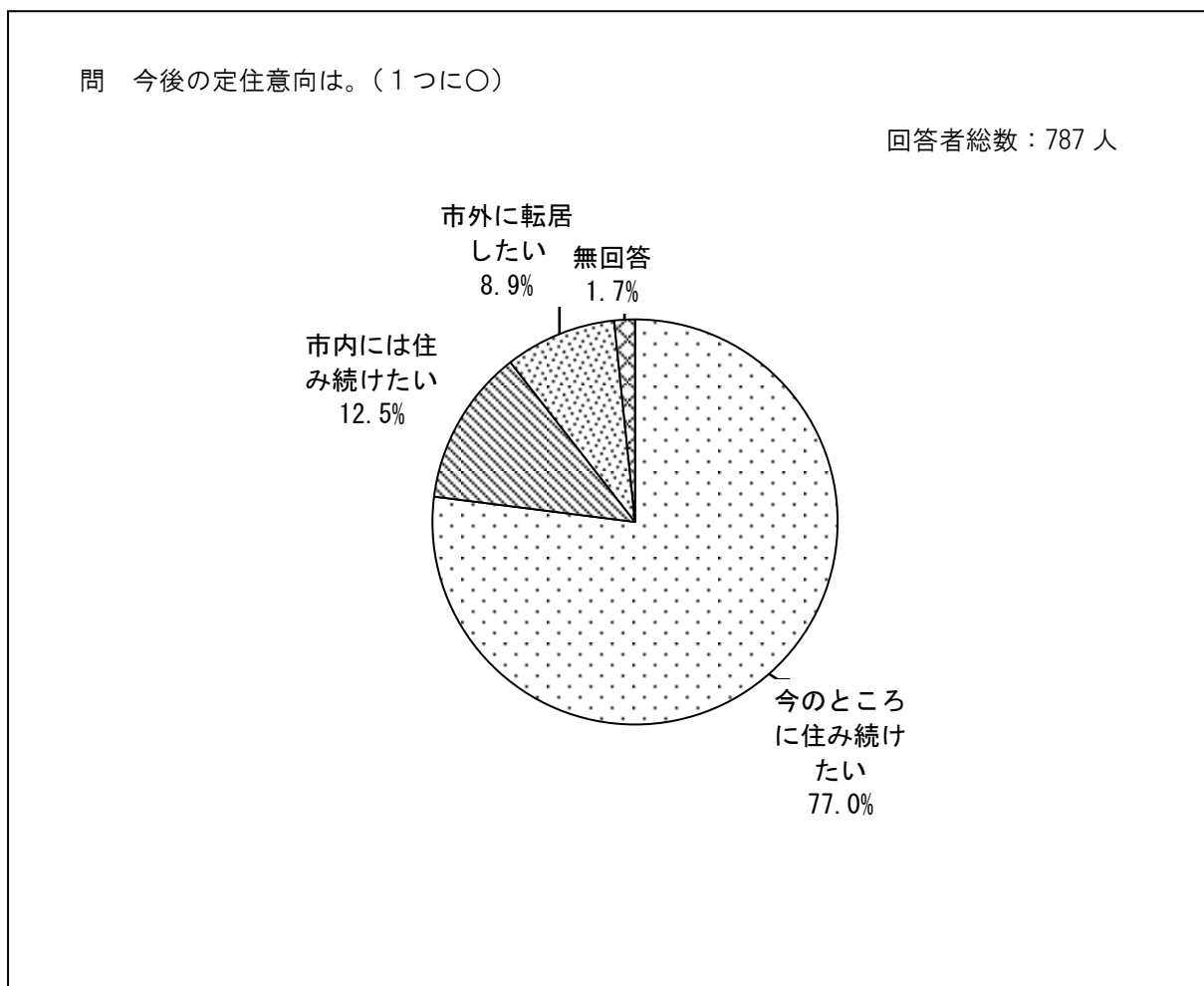
第1節 地域とのつながりについて

1-1 定住意向

潮来市に“住み続けたい”が約9割。

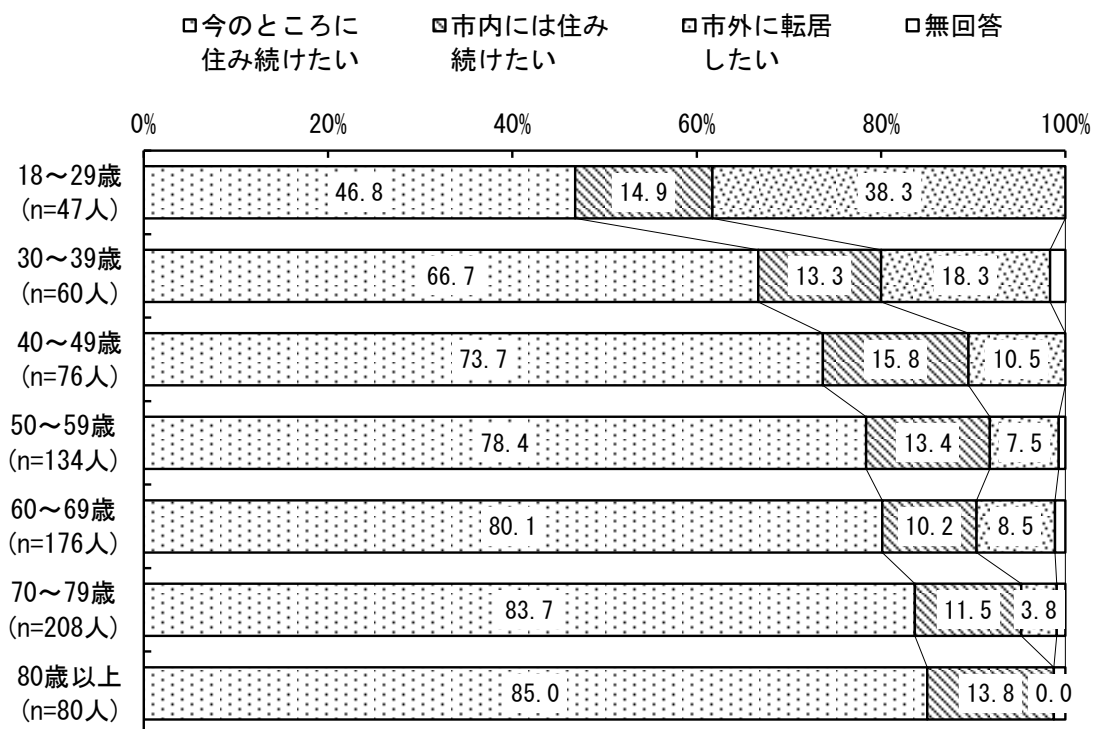
今後の定住意向は、「今のところに住み続けたい」が77.0%で高く、「市内には住み続けたい」が12.5%で、合わせると89.5%が住み続けたいと回答している。

図 定住意向（市民：問5）



【年齢別】

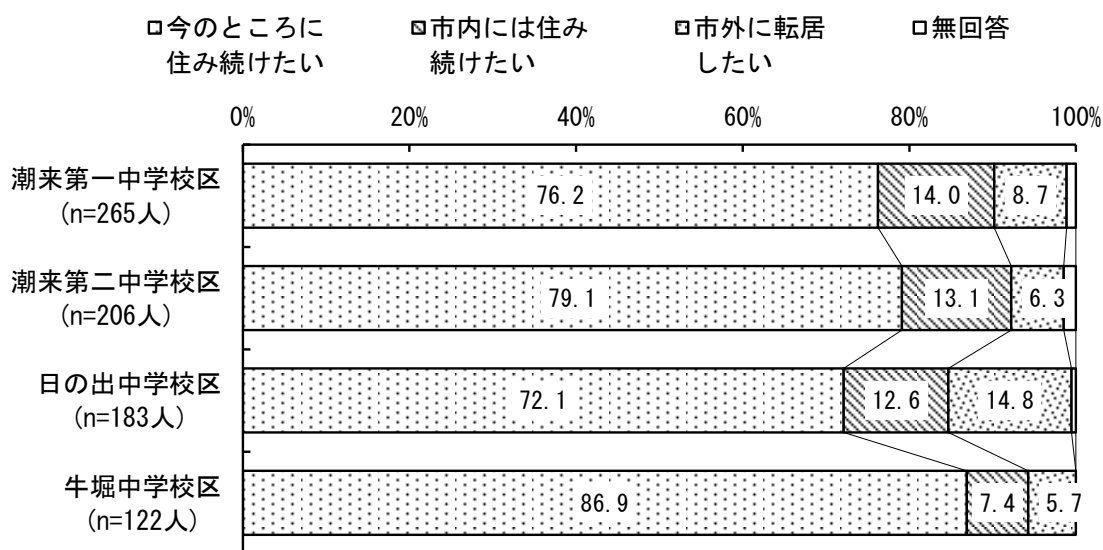
今後の定住意向を年齢別にみると、「今のところに住み続けたい」と「市内には住み続けたい」を合わせて、“18～29歳”が約6割、“30～39歳”が約8割である。年齢が上がるにつれて定住意向は高くなる。



注) 無回答値は省略

【地区別】

地区別にみると、“日の出中学校区”は住み続けたいとの回答が他の地区より若干低いが、84.7%が住み続けたいと回答している。



注) 無回答値は省略

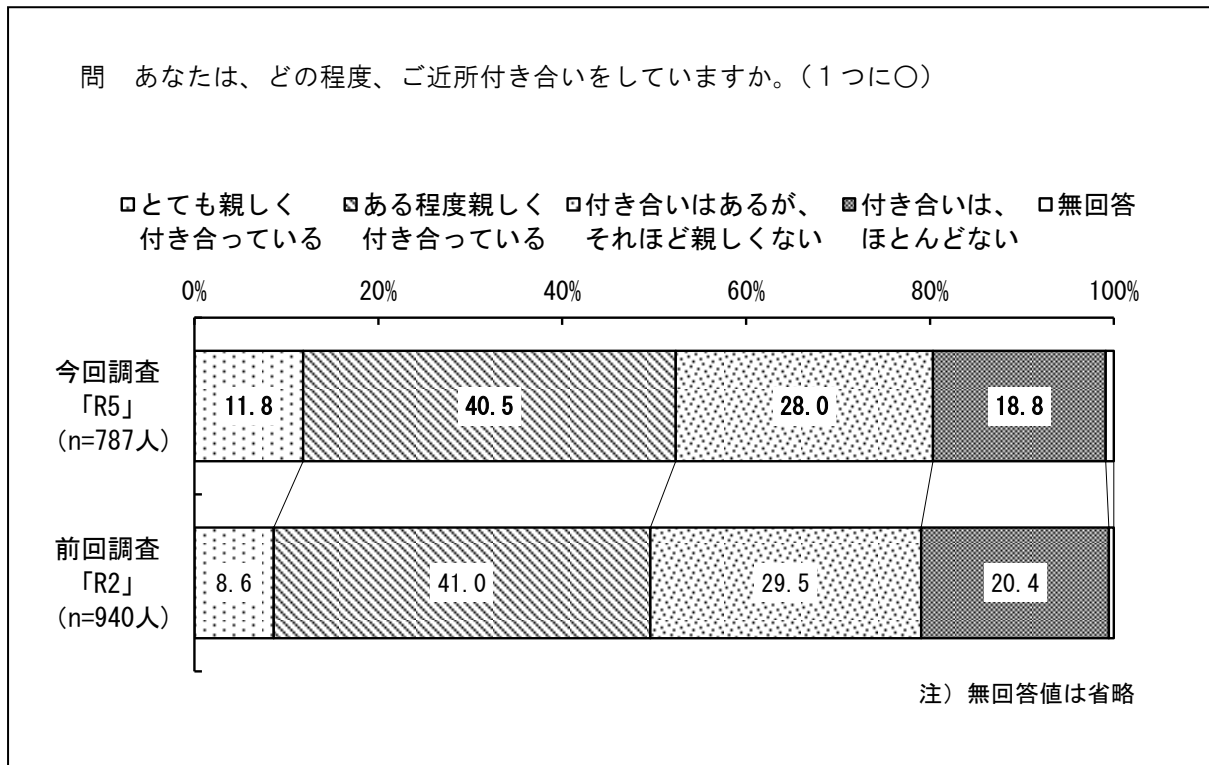
1-2 ご近所付き合い

前回調査よりも、“親しく付き合っている”が高くなった。

ご近所でのお付き合いは、「とても親しく付き合っている」と「ある程度親しく付き合っている」を合わせると“親しく付き合っている”が52.3%である。

前回調査よりも、“親しく付き合っている”が高くなった。

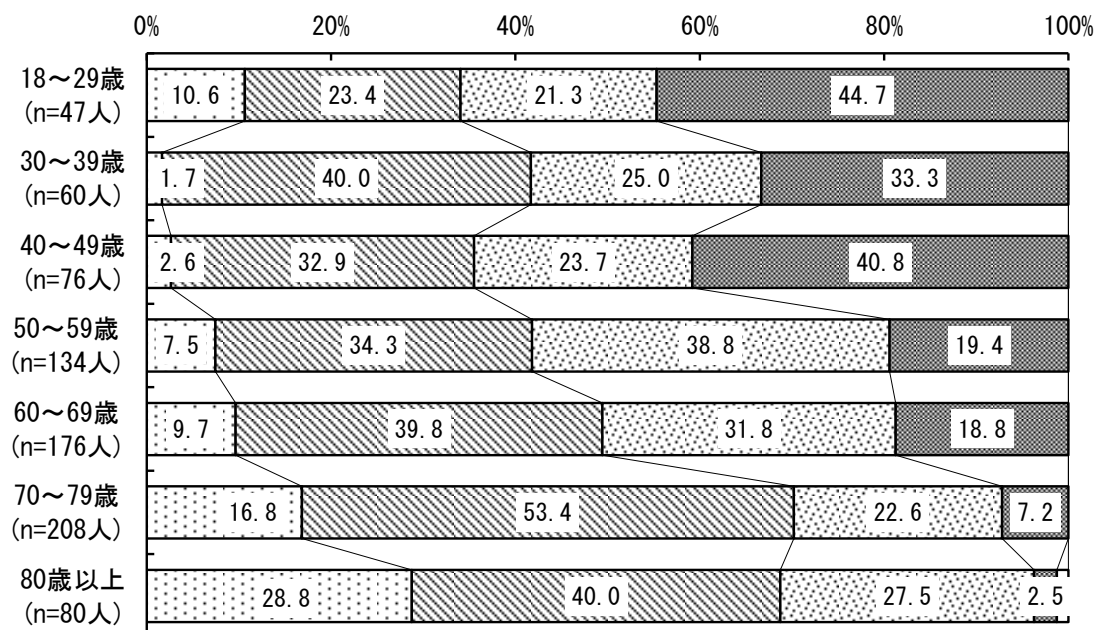
図 ご近所付き合い（市民：問6）



【年齢別】

ご近所とお付き合いを年齢別にみると、“18～29歳”や“40～49歳”の年代が比較的低い。その後、年齢が上がるにつれて近所付き合いは高くなる。

□とても親しく □ある程度親しく □付き合いはあるが、 □付き合いは、 □無回答
 付き合っている 付き合っている それほど親しくない ほとんどない

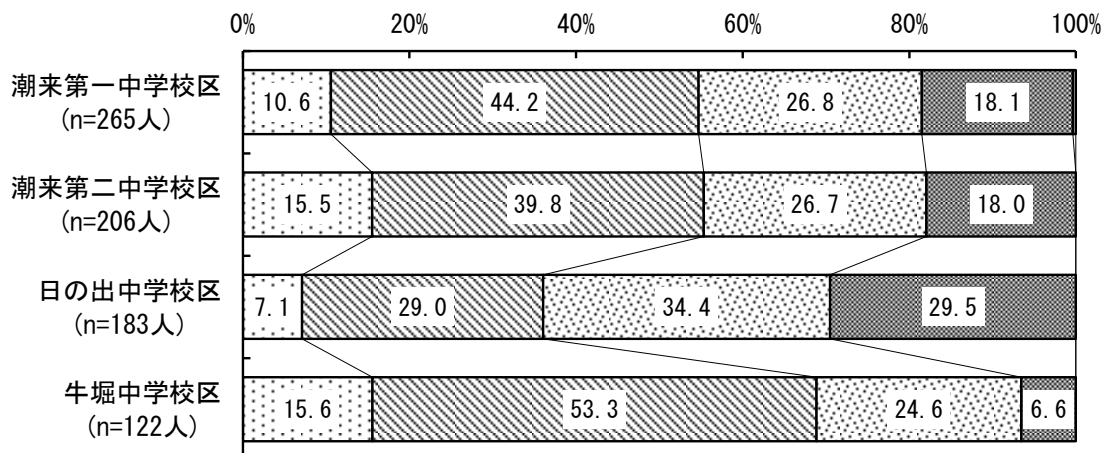


注) 無回答値は省略

【地区別】

地区別にみると、“日の出中学校区”は他の地区と比べて近所付き合いが薄い。

□とても親しく □ある程度親しく □付き合いはあるが、 □付き合いは、 □無回答
 付き合っている 付き合っている それほど親しくない ほとんどない



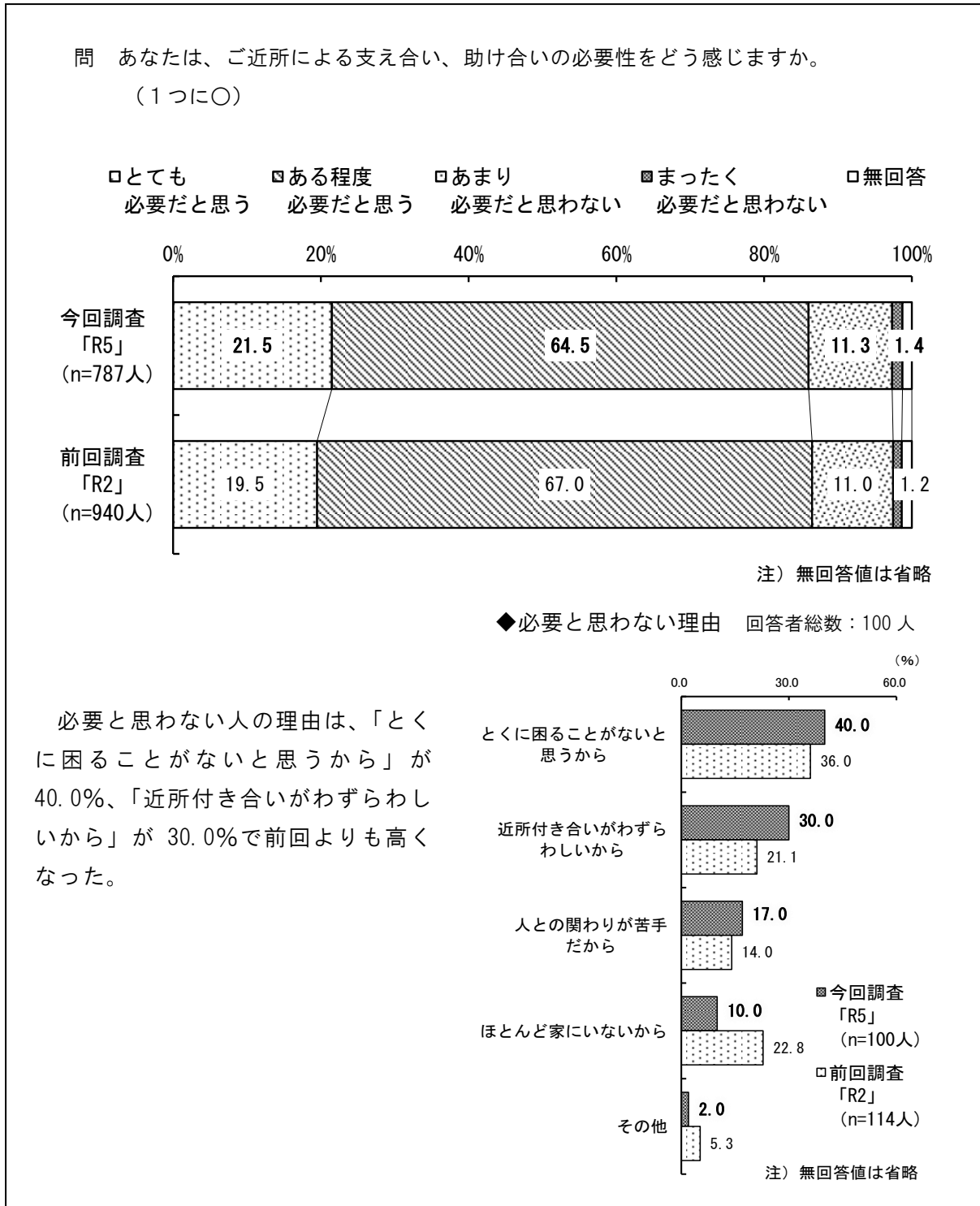
注) 無回答値は省略

1-3 ご近所による支え合いの必要性

“必要と思う”が86.0%で、前回調査と同様に高い。

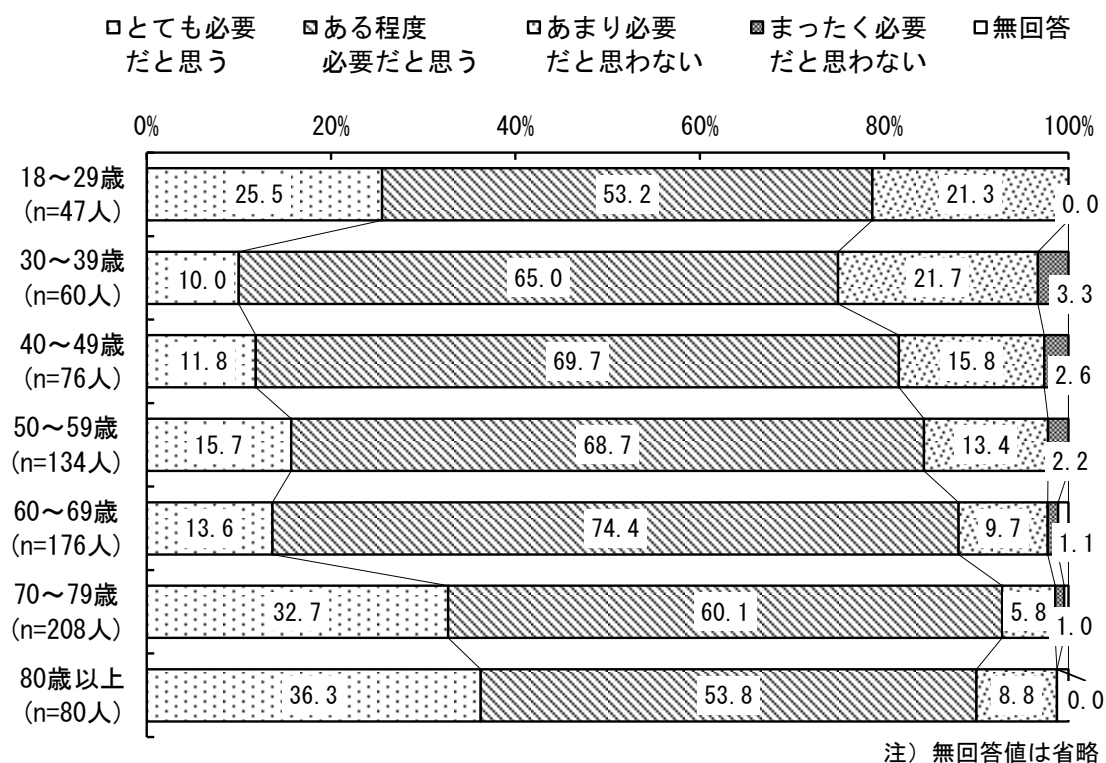
ご近所による支え合い、助け合いの必要性は、「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせると“必要と思う”が86.0%で前回調査と同様に高い。

図 ご近所による支え合いの必要性（市民：問7）



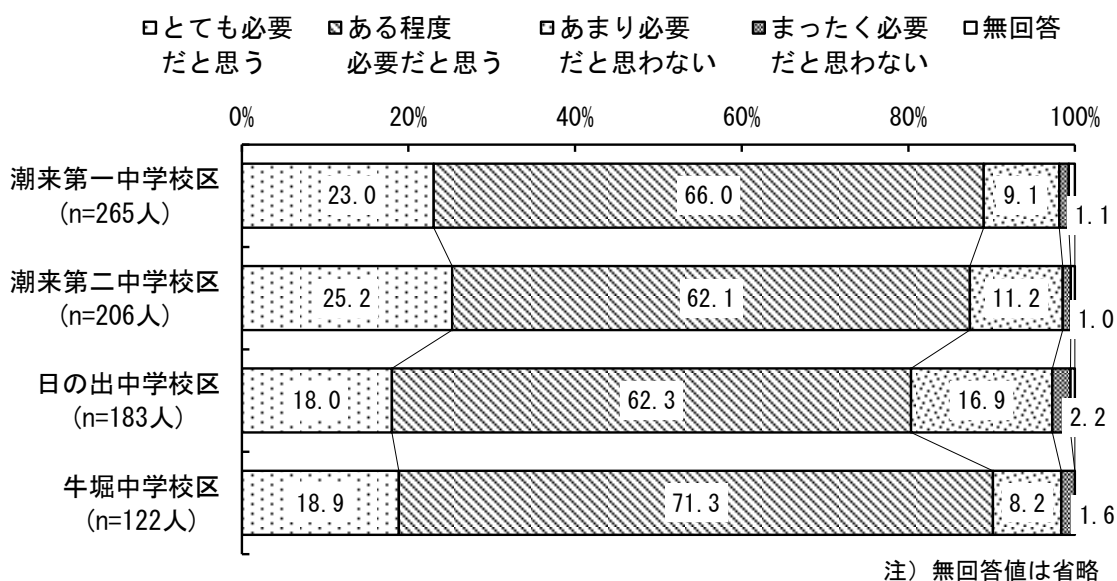
【年齢別】

ご近所による支え合いの必要性は各年齢とも必要性を感じている割合が高い。しかし、“30～39歳”及び“40～49歳”はやや低い。



【地区別】

地区別にみると、“日の出中学校区”は他の地区と比べると若干低いが、必要性を約8割が感じている。

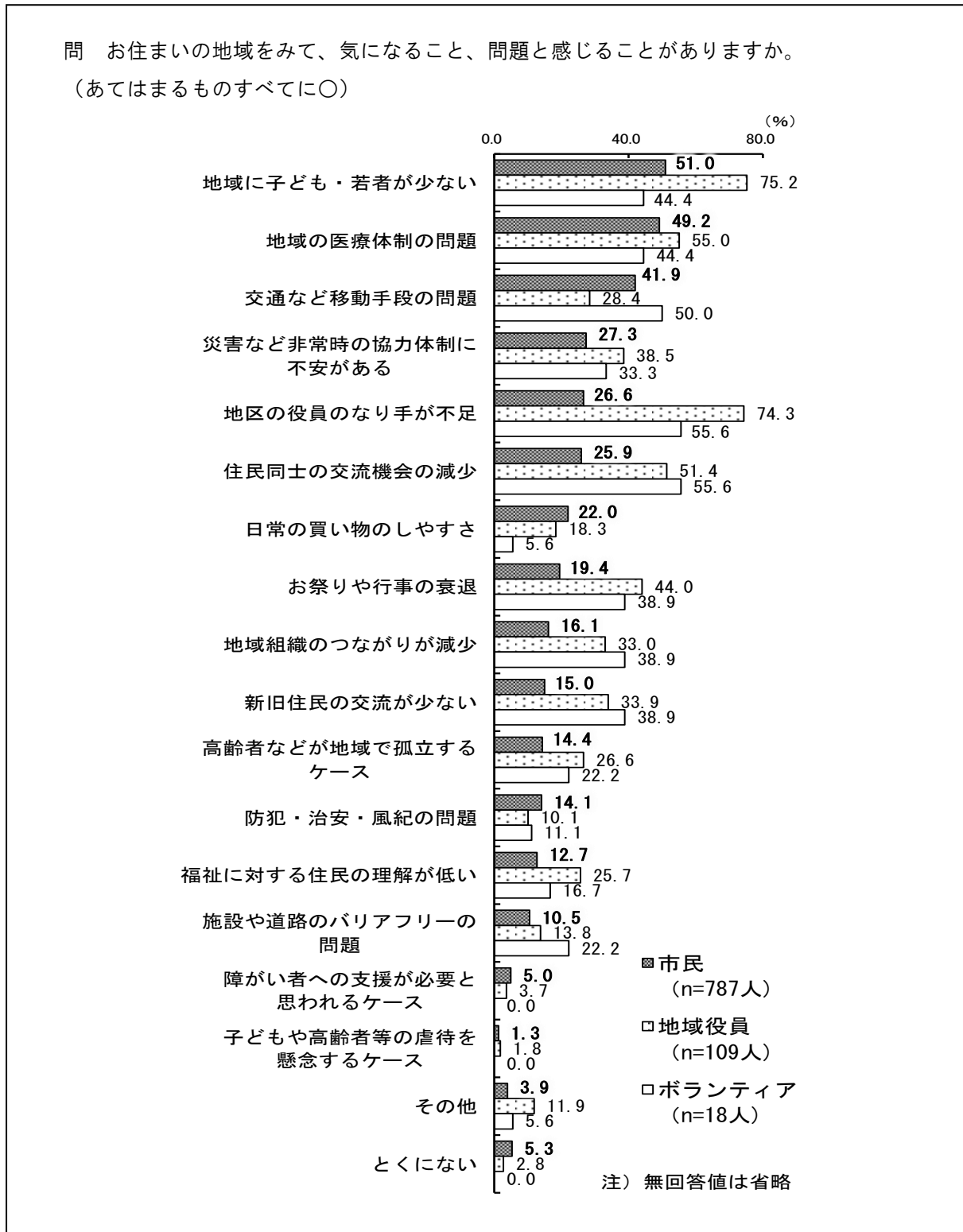


1-4 気になる地域の課題

地域役員は「役員のなり手が不足」と「交流機会の減少」を課題として認識している。

地域をみて、気になること、問題と感ずることは、市民と地域役員とも「地域に子ども・若者が少ない」が最も高い。地域役員とボランティアは、「地区の役員のなり手が不足」と「住民同士の交流機会の減少」が高く身近な課題と認識されている。

図 気になる地域の課題（市民：問8）



第2節 ボランティア活動について

2-1 地域活動やボランティアの参加経験と関心

参加経験が「ある」は53.6%。「関心がある」と「関心がない」が二極化している。

地域活動やボランティア活動の参加経験が、「ある」は53.6%である。

また、地域活動やボランティア活動の関心は、「どちらかといえば関心がある」が38.1%、「どちらかといえば関心がない」が35.6%で二極化している。

図 地域活動やボランティアの参加経験（市民：問14）

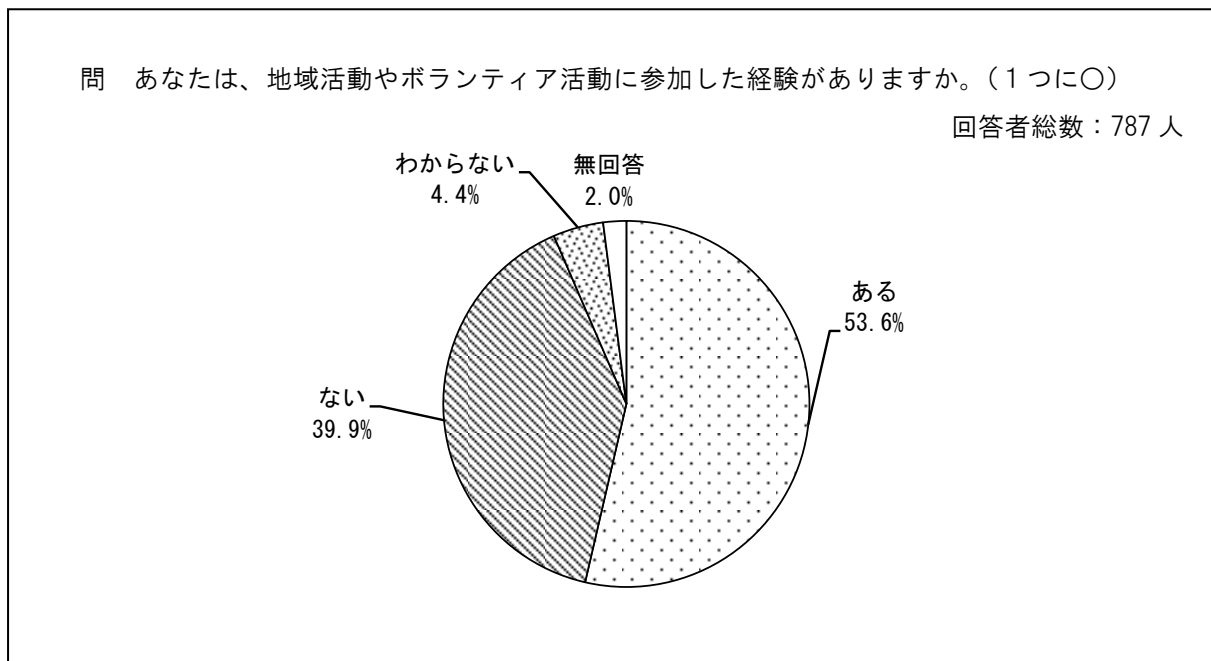
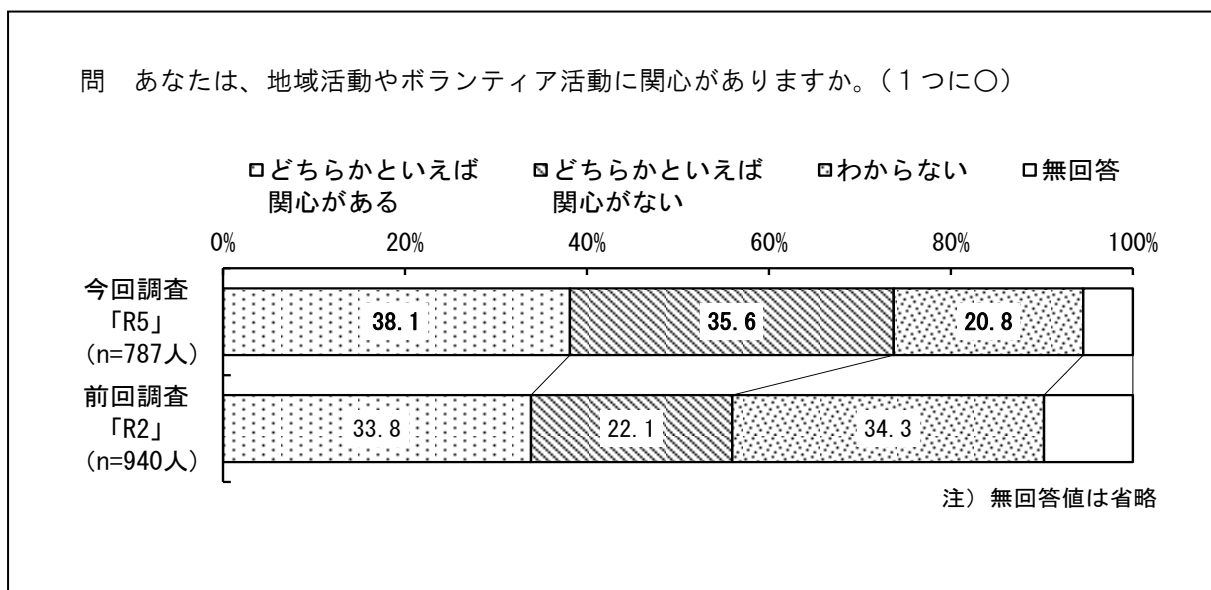


図 ボランティア活動の関心（市民：問15）

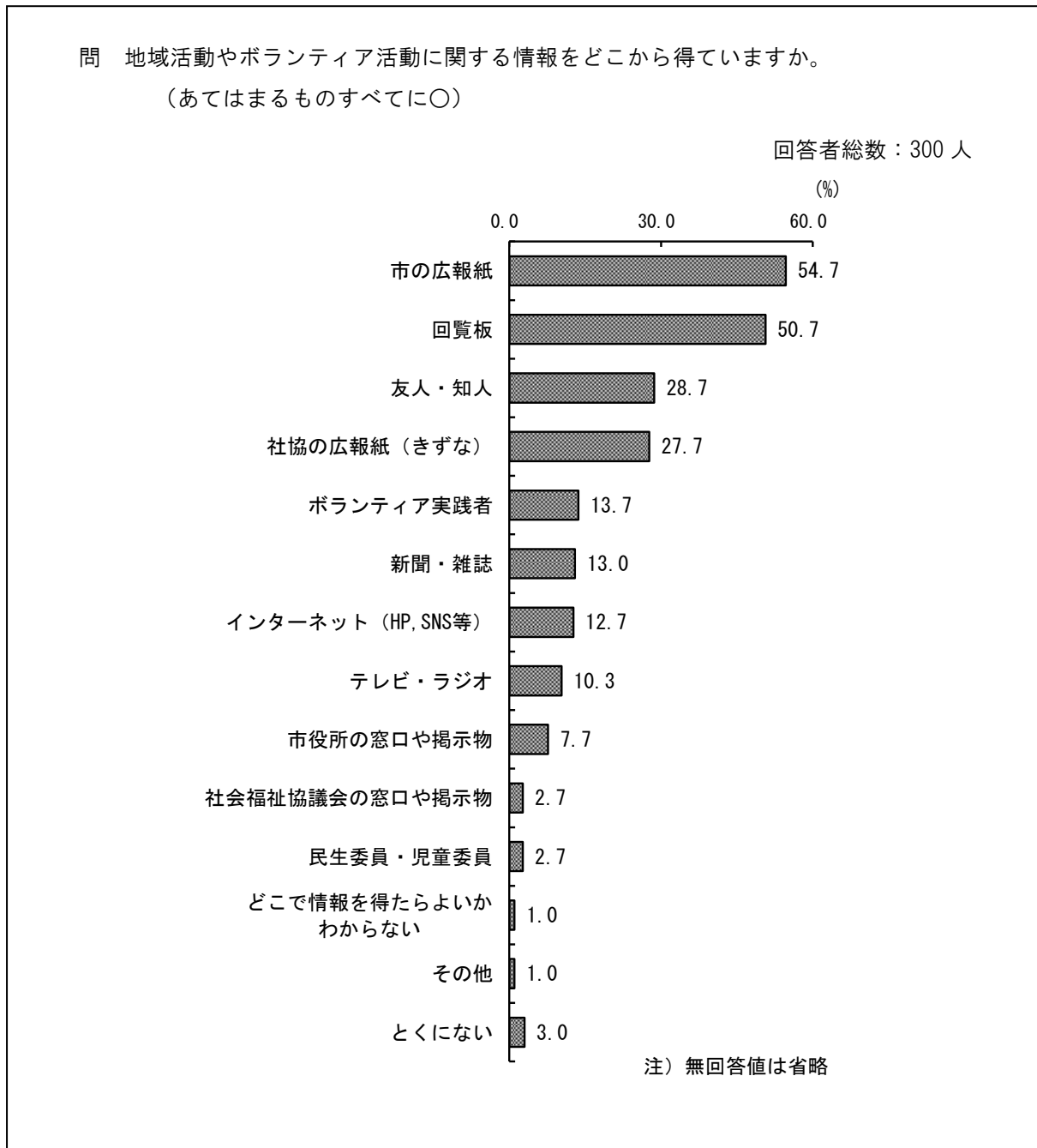


『ボランティア活動の情報の入手先』

地域活動やボランティア活動に関心があると回答した人に、ボランティア活動の情報の入手先をたずねたところ、「市の広報紙」や「回覧板」の広報媒体が高い。

次に「友人・知人」を介して情報を入手している実態が分かる。

図 ボランティア活動の情報の入手先（市民：問 15-①）



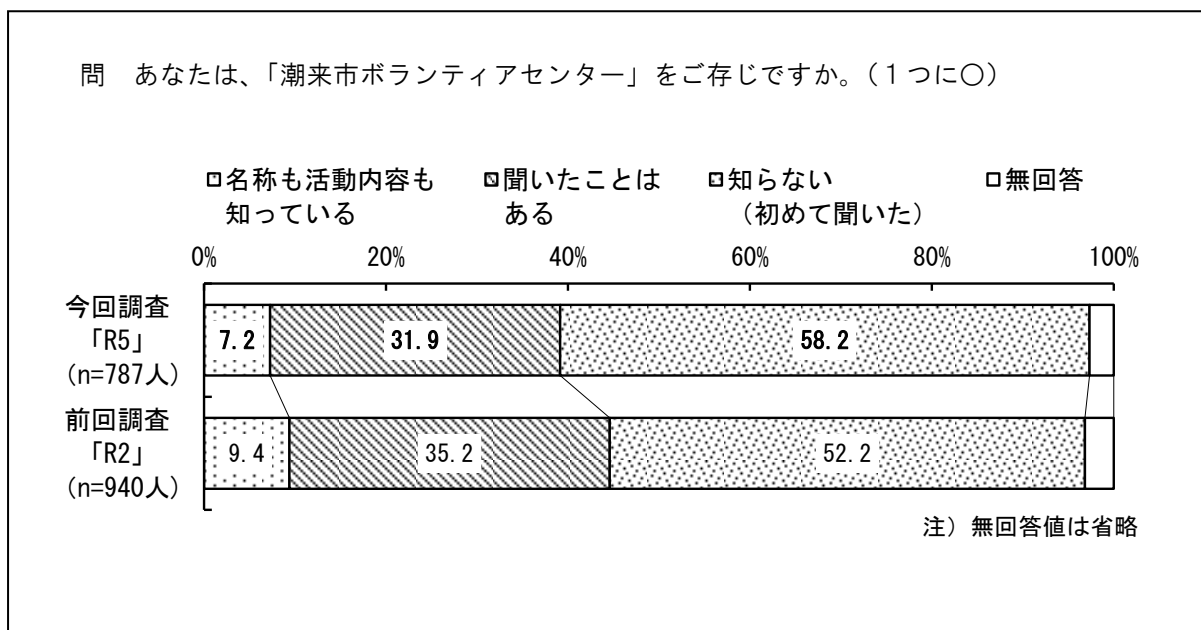
2-2 『ボランティアセンター』の認知度

“知っている”が前回調査よりも低くなった。

『ボランティアセンター』の認知度は、「名称も活動内容も知っている」が7.2%、「聞いたことがある」が31.9%で、“知っている”が39.1%で前回調査よりも低くなった。

コロナ禍において、ボランティアセンターの活動が制限されていたことに起因することが推測される。

図 『ボランティアセンター』の認知度（市民：問16）

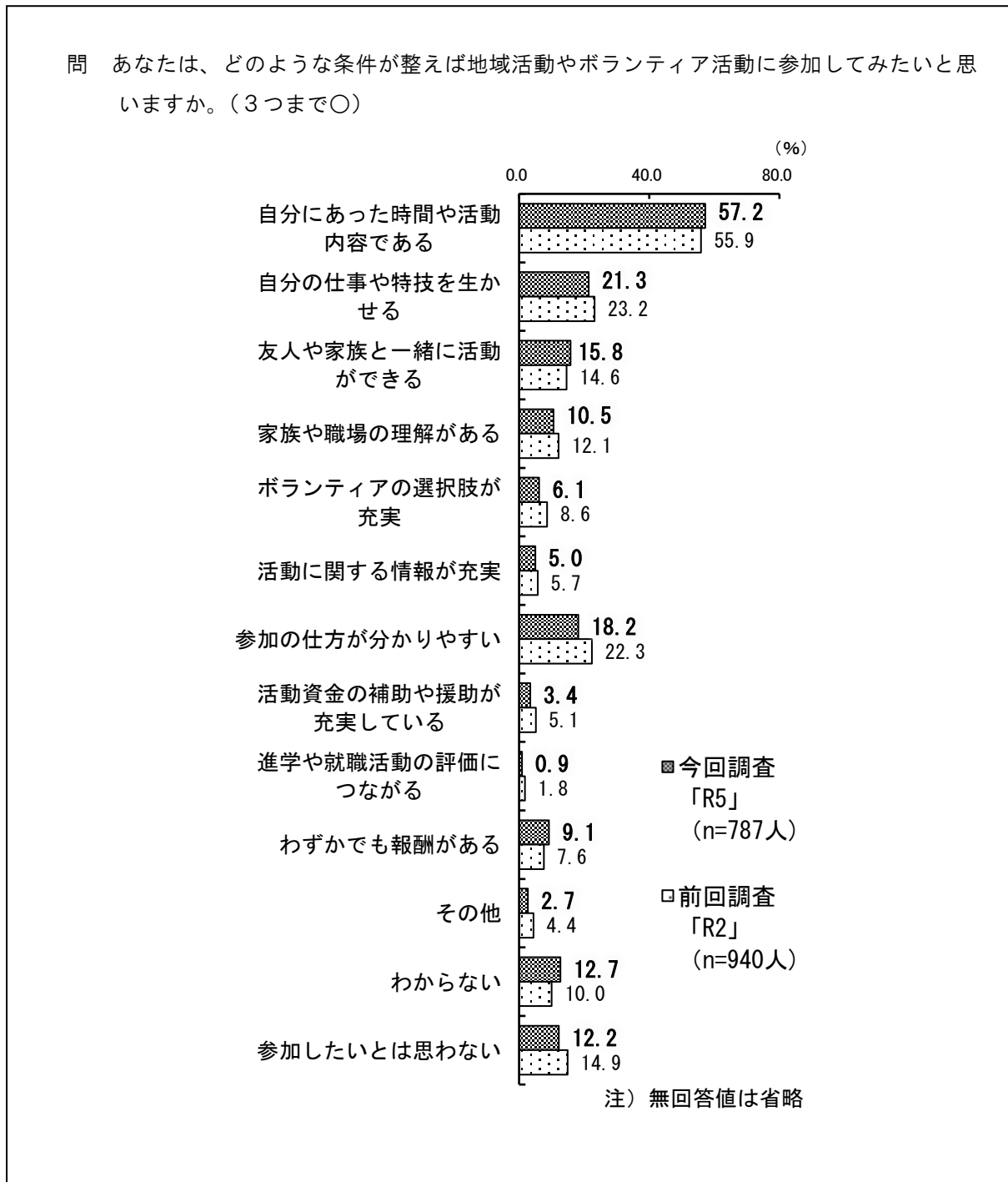


2-3 ボランティア活動の参加条件

「自分にあった時間や活動内容であること」が前回調査よりも高くなっている。

ボランティア活動の参加条件は、「自分にあった時間や活動内容であること」が57.2%で前回調査よりも高くなっており、気軽に自分のペースで特技を生かしながら、友人や家族と活動できることが望まれている。

図 ボランティア活動の参加条件（市民：問17）

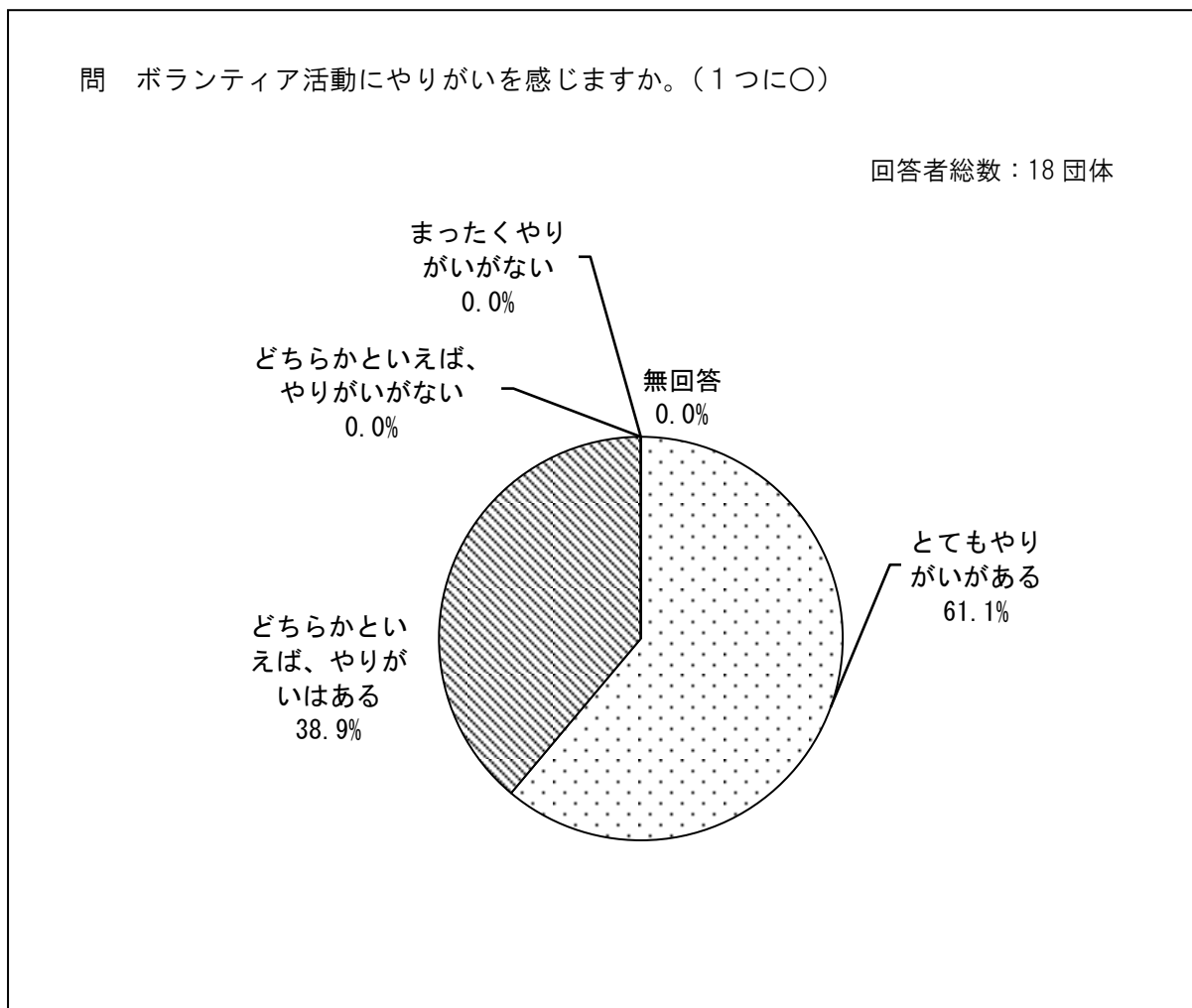


2-4 ボランティア団体の活動について

ボランティア団体の全員が“やりがいがある”として活動している。

ボランティア団体にたずねたボランティア活動のやりがいは、“やりがいがある”人が全員である。

図 ボランティア活動のやりがい（ボラ：問2）

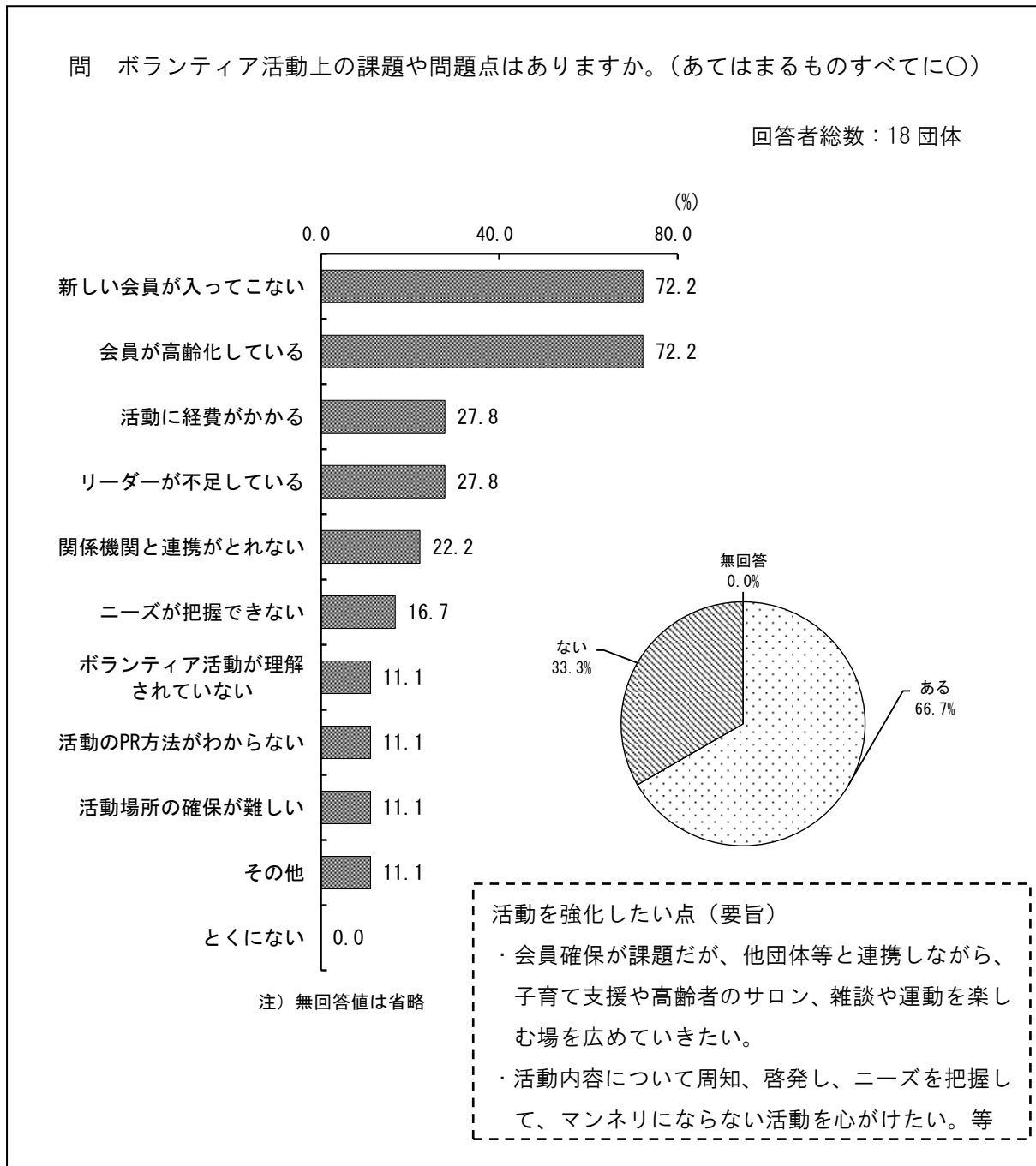


『ボランティア活動の課題や問題点』

新しい会員確保や会員の高齢化から、次代へのつながりが課題となる。

ボランティア活動上の課題や問題点は、「新しい会員が入ってこない」と「会員が高齢化している」が高く、次代へのつながりが課題となる。活動を広げたい点や強化したい点は約7割が「ある」と回答しており、具体的には会員確保や他団体等との連携強化、活動の周知などがあげられている。

図 ボランティア活動の課題や問題点（ボラ：問3，問4）



※今後、活動を広げたい点や強化した点の具体的な記述内容は、資料編を参照。

2-5 中学生・高校生のボランティア活動について

学校以外でのボランティア経験も比較的ある。

図 学校以外のボランティア活動（中高：問3）

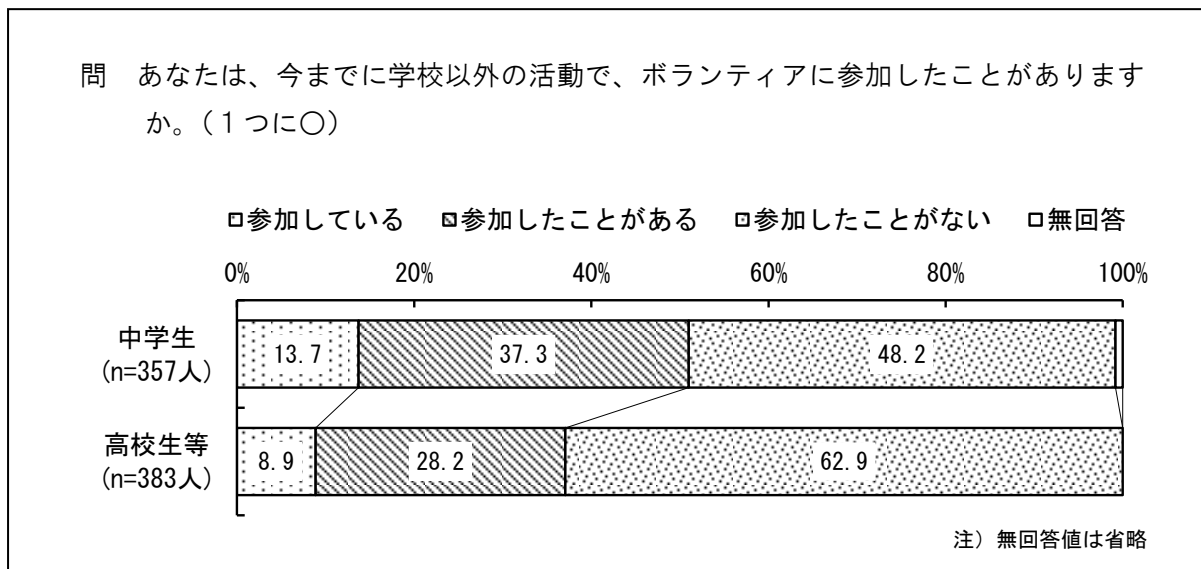
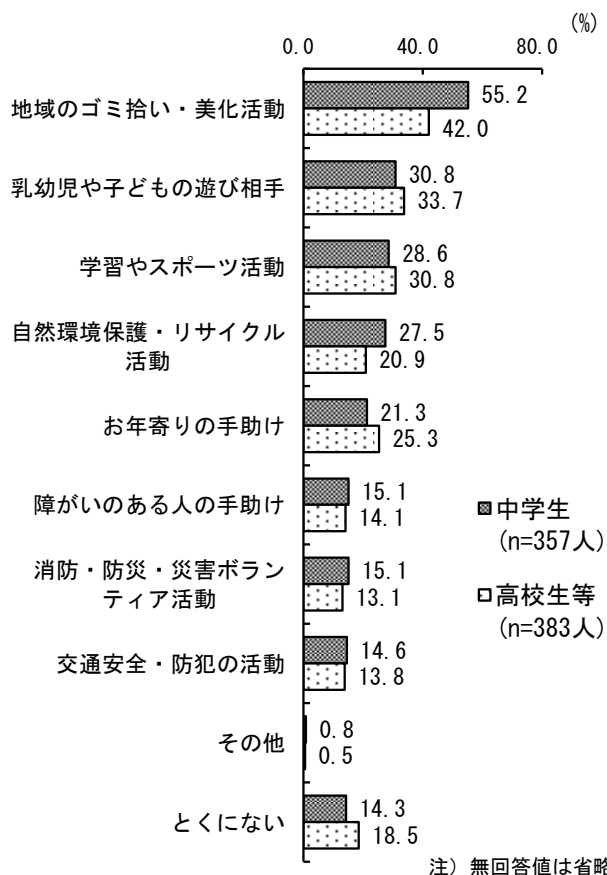


図 やってみたいボランティア活動（中高：問4）

問 あなたが今後、取り組んでみたいボランティア活動はありますか。

（あてはまるものすべてに○）

やってみたいボランティア活動は、「地域のゴミ拾い・美化活動」が高く、身近な地域で気軽に取り組める内容が高い。

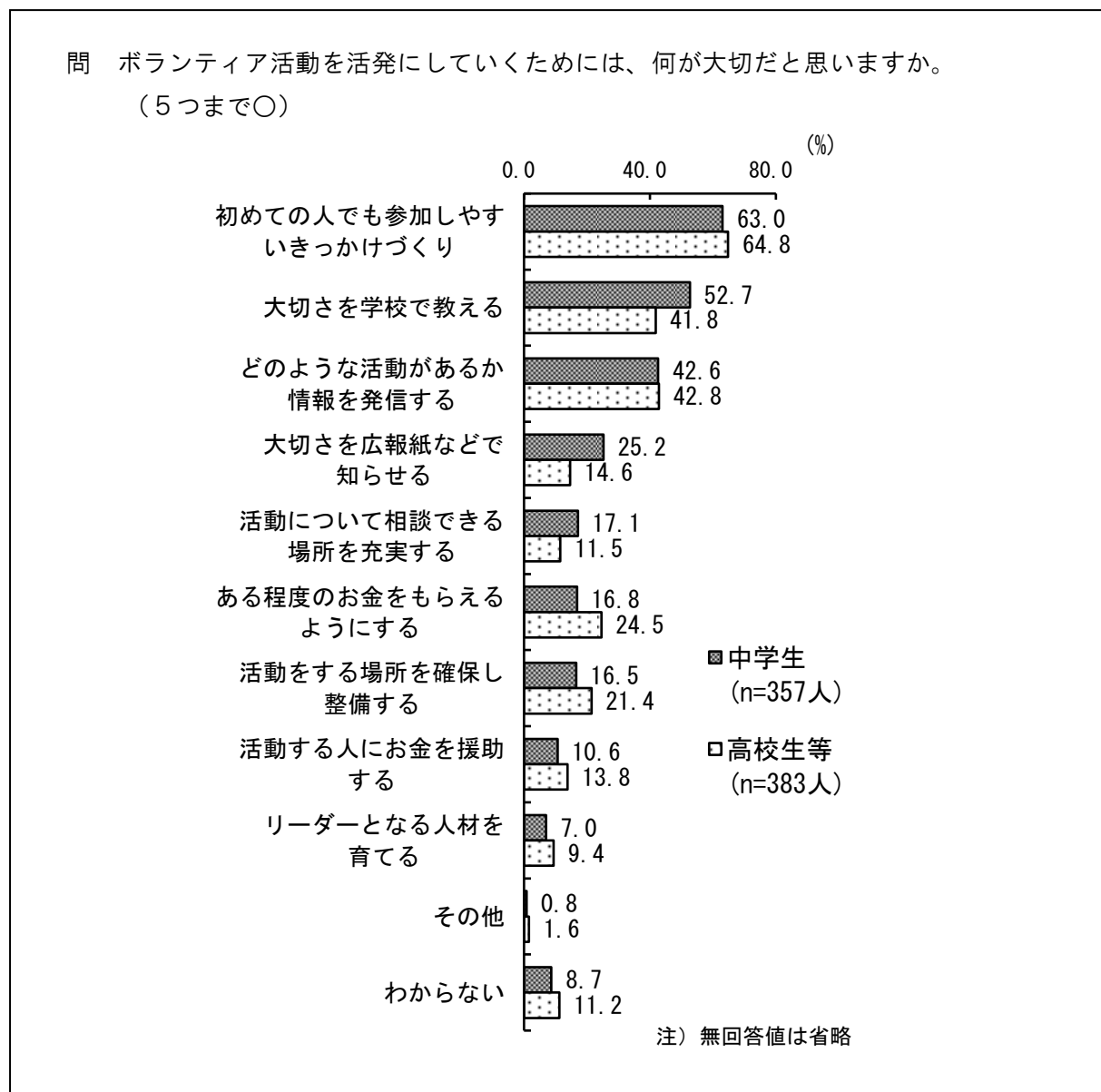


『ボランティア活動を活発にするために大切なこと』

「初めての人でも参加しやすいきっかけづくり」とボランティア活動の情報の周知。

ボランティア活動を活発にするために大切なことは、「初めての人でも参加しやすいきっかけづくり」が高い。また、「大切さを学校で教える」や「どのような活動があるか情報を発信する」、「大切さを広報紙などで知らせる」といった、ボランティア活動の情報の周知を求める意見が高い。

図 ボランティア活動を活発にするために大切なこと（中高：問5）



第3節 地域共生社会について

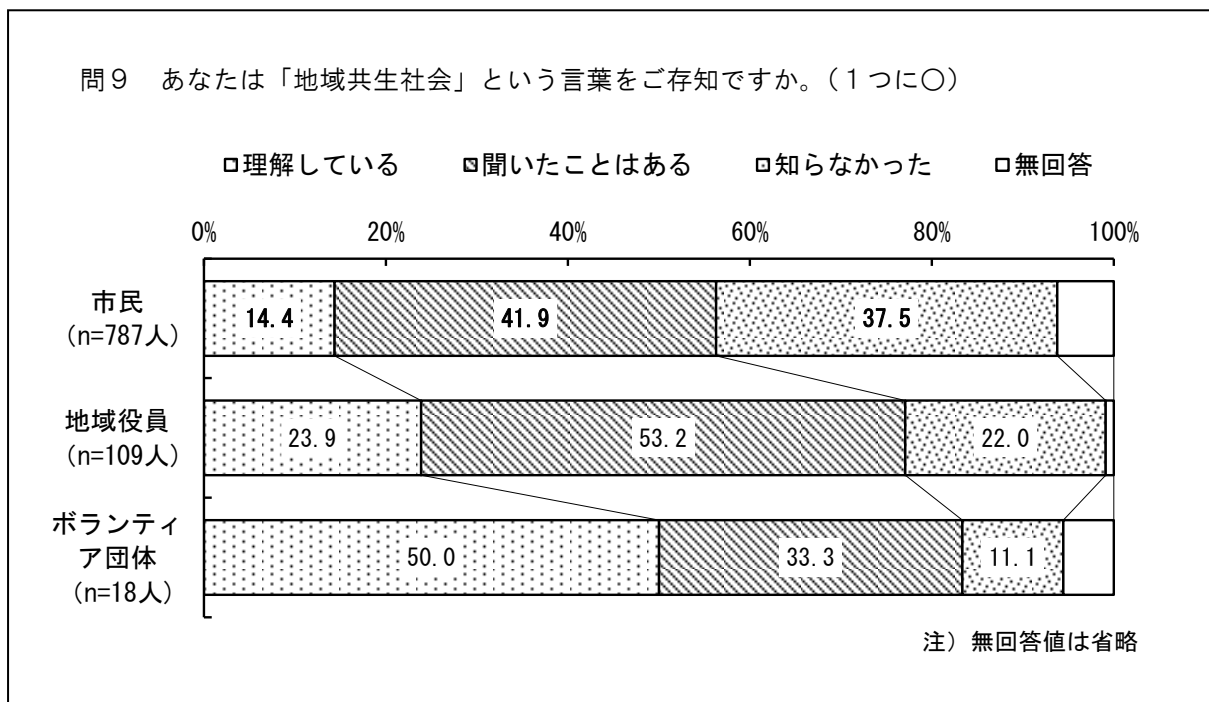
3-1 「地域共生社会」の言葉の認知度

地域役員やボランティア団体など、地域との関わりが深い人の認知度が高い。

「地域共生社会」という言葉の認知度は、市民は「理解している」と「聞いたことがある」を合わせて“知っている”が56.3%である。

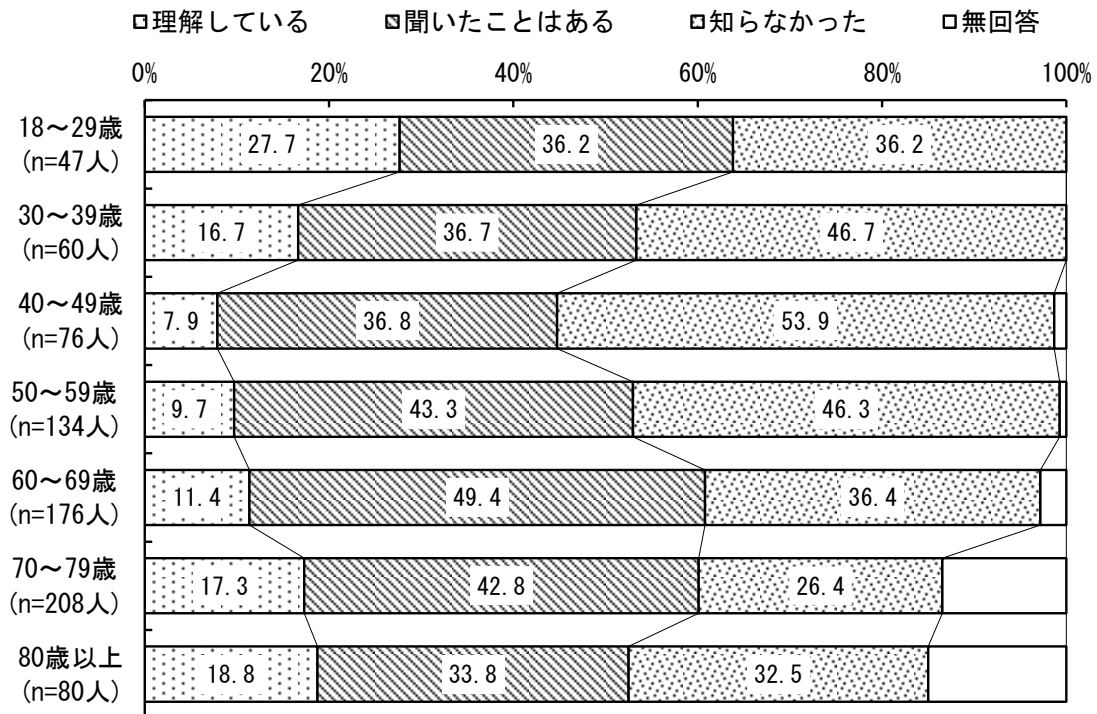
また、“知っている”との回答は、地域役員は77.1%、ボランティア団体は83.3%で地域との関わりの深い人の認知度が高い。

図 「地域共生社会」の言葉の認知度（市民：問9、役員：問7、ボラ：問5）



【年齢別】

「地域共生社会」という言葉を聞いたことがあるかを年齢別にみると、“40～49歳”の認識が他の年代よりも低い。

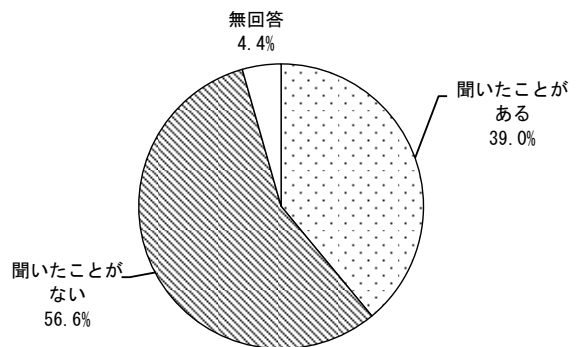


注) 無回答値は省略

(参考) 前回調査 (R2)

前回調査では、地域共生社会の言葉の認知度について2つの選択肢でたずねたが、「聞いたことがある」が39.0%であった。

図 「地域共生社会」の言葉の認知度



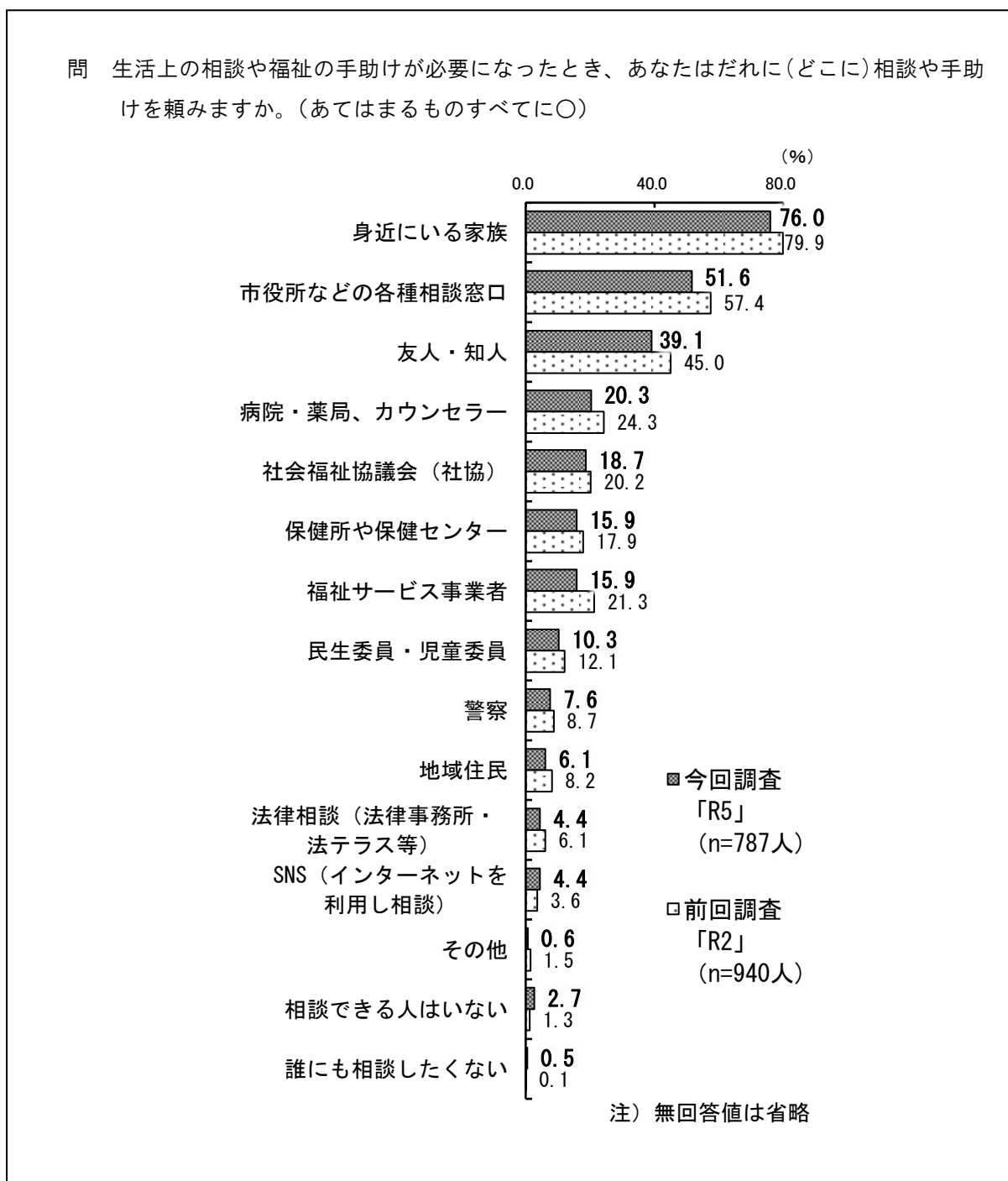
3-2 困ったときの相談先

家族や友人・知人に相談して、市役所などの窓口につながるケースが想定される。

生活上の相談や福祉の手助けが必要になったときの相談先は、「身近にいる家族」が76.0%で最も高く、次に「市役所などの各種相談窓口」が続く。

身近な家族や友人・知人に相談して、市役所など公的機関の相談につながるケースが想定される。

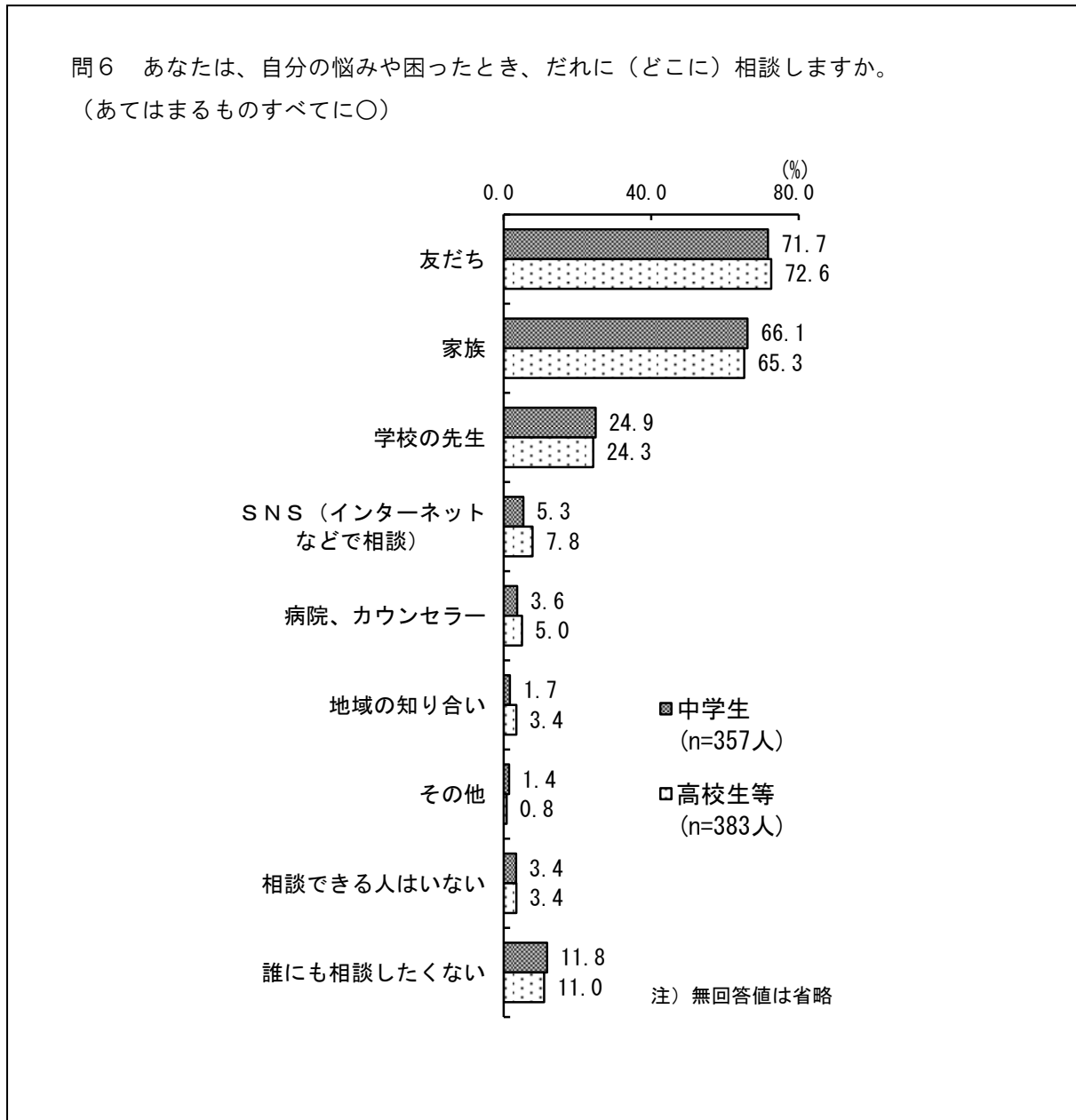
図 困ったときの相談先（市民：問10）



【中学生・高校生等】

自分の悩みや困りごとの相談先は、中学生・高校生等とも「友だち」と「家族」が高い。その一方で、「相談できる人はいない」と「誰にも相談したくない」との回答が1割以上で、大人の市民の回答よりも高い。

図 困ったときの相談先（中高：問6）

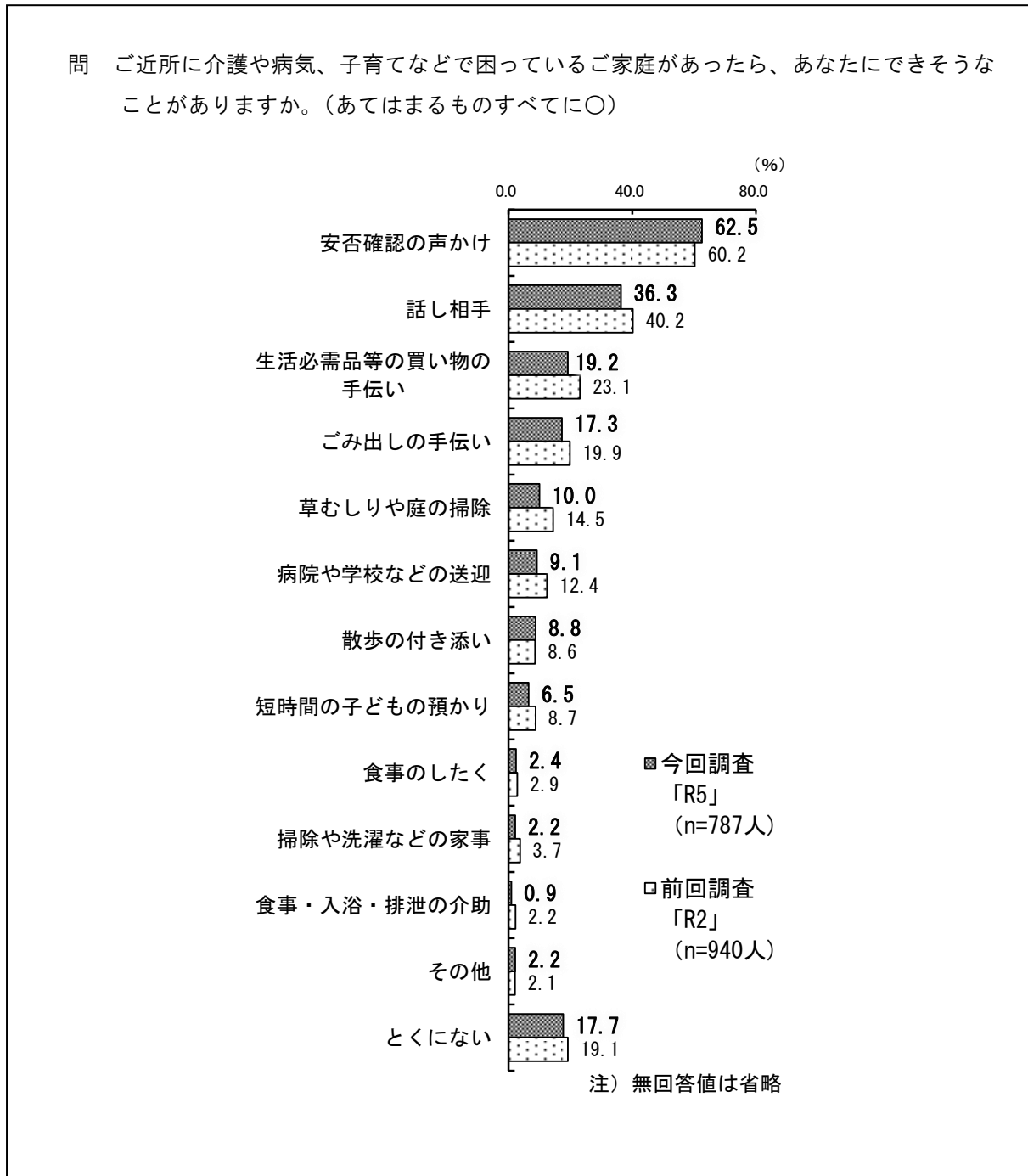


3-3 困っている家庭に出来そうな手助け

「安否確認の声かけ」が前回調査よりも増加した。

ご近所に介護や病気、子育てなどで困っている家庭があったら出来そうな手助けは、「安否確認の声かけ」が62.5%で高く、前回調査より2.3ポイント増加した。

図 困っている家庭に出来そうな手助け（市民：問11）

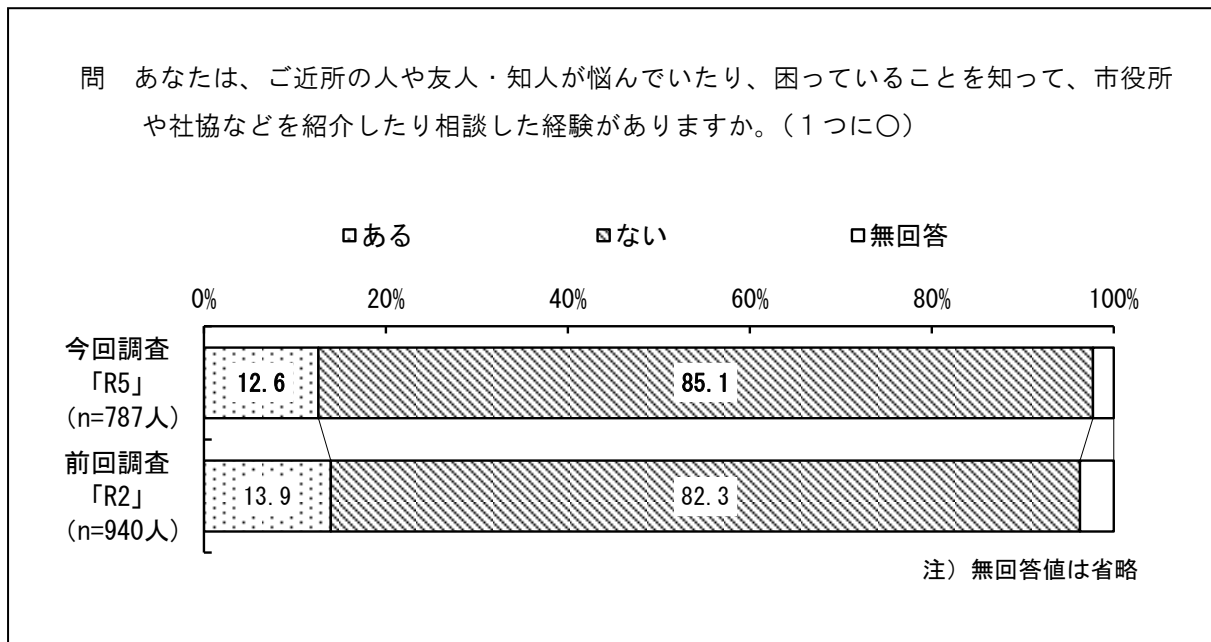


3-4 友人・知人に相談先をつないだ経験

市役所や社協など相談先をつないだ経験は、「ある」が12.6%で若干減少した。

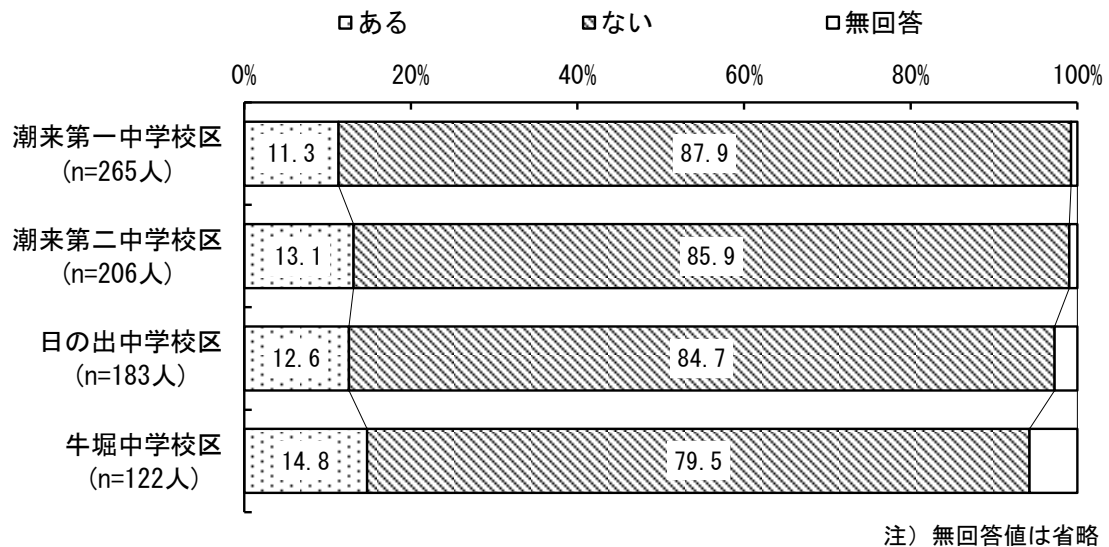
ご近所の人や友人・知人などが悩んでいたたり、困っていることを知って、市役所や社協など相談先をつないだ経験は、「ある」が12.6%で、前回調査より若干減少した。

図 友人・知人の相談をつないだ経験（市民：問12）



【地区別】

各地区とも、市役所や社協など相談先をつないだ経験に大きな違いは、見受けられない。

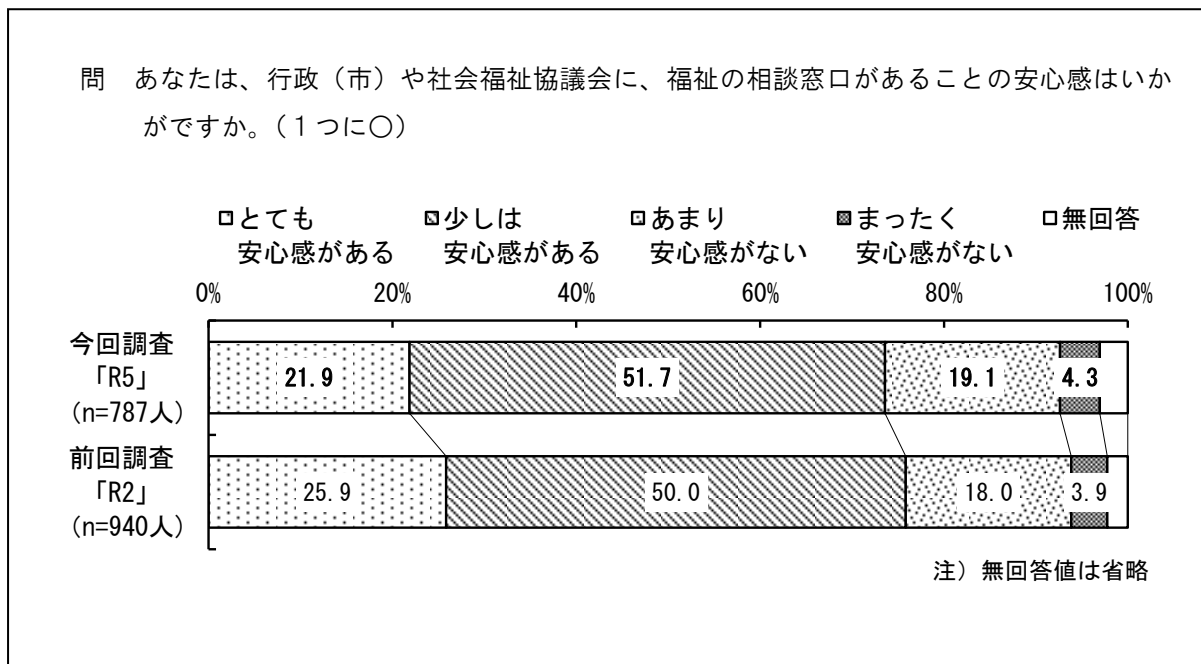


3-5 福祉の相談窓口がある安心感

“安心感がある”が約7割で、前回と同様に比較的高い。

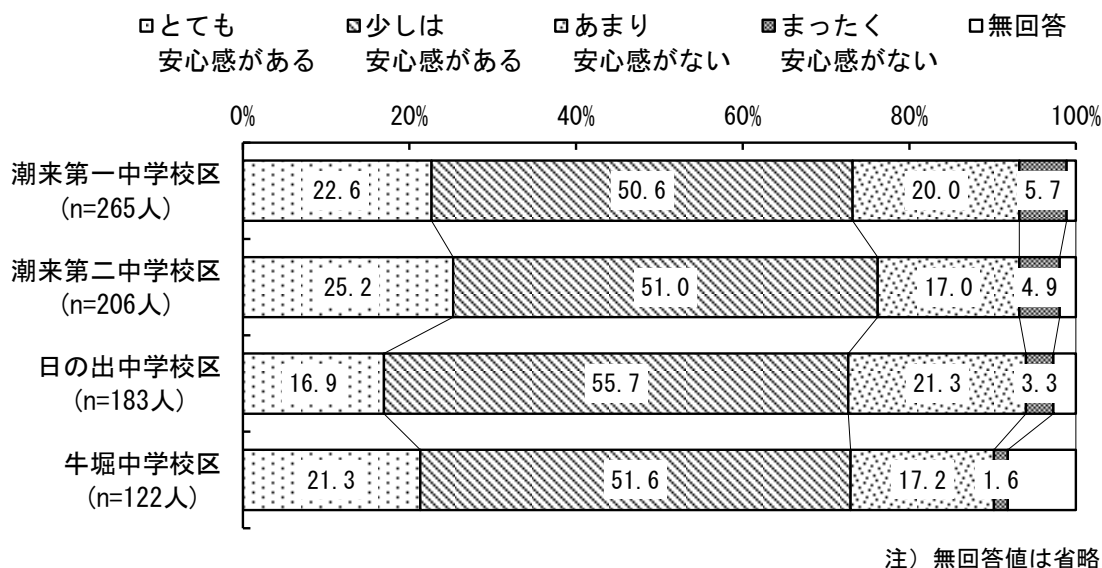
行政（市）や社会福祉協議会に、福祉の相談窓口があることの安心感は、「とても安心感がある」が21.9%、「少しは安心感がある」が51.7%で、合わせると“安心感がある”が73.6%で前回と同様に比較的高い割合である。

図 福祉の相談窓口がある安心感（市民：問13）



【地区別】

各地区とも、福祉の相談窓口があることの安心感に大きな違いは、見受けられない。



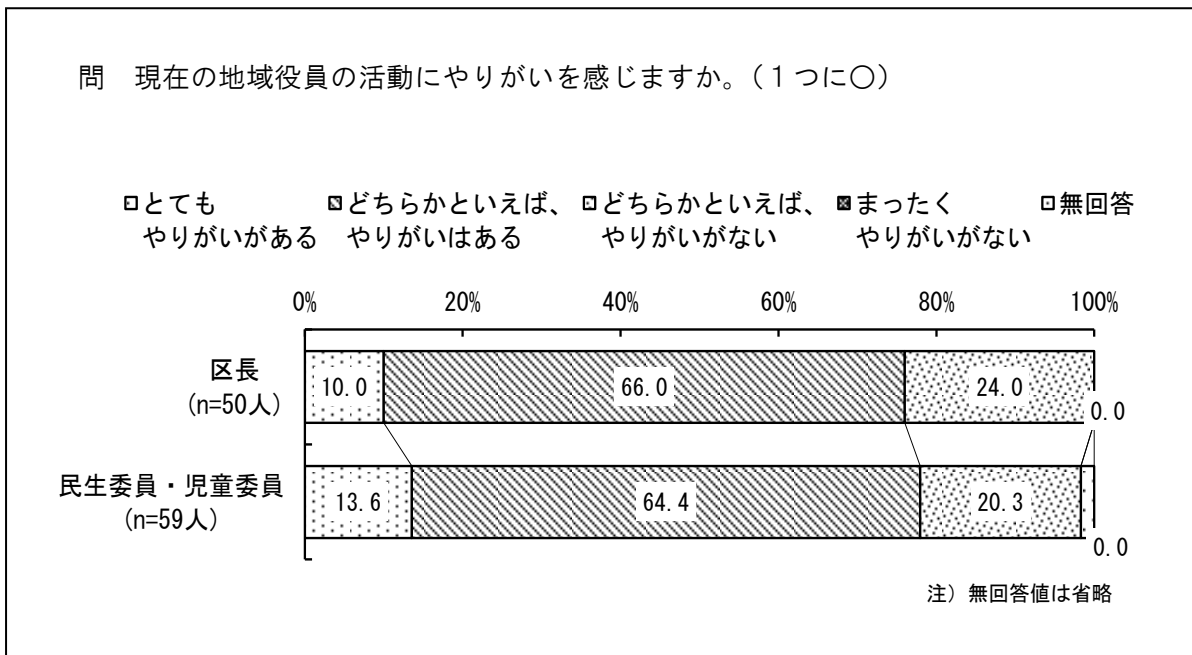
第4節 地域福祉活動の推進について

4-1 地域役員の活動のやりがい

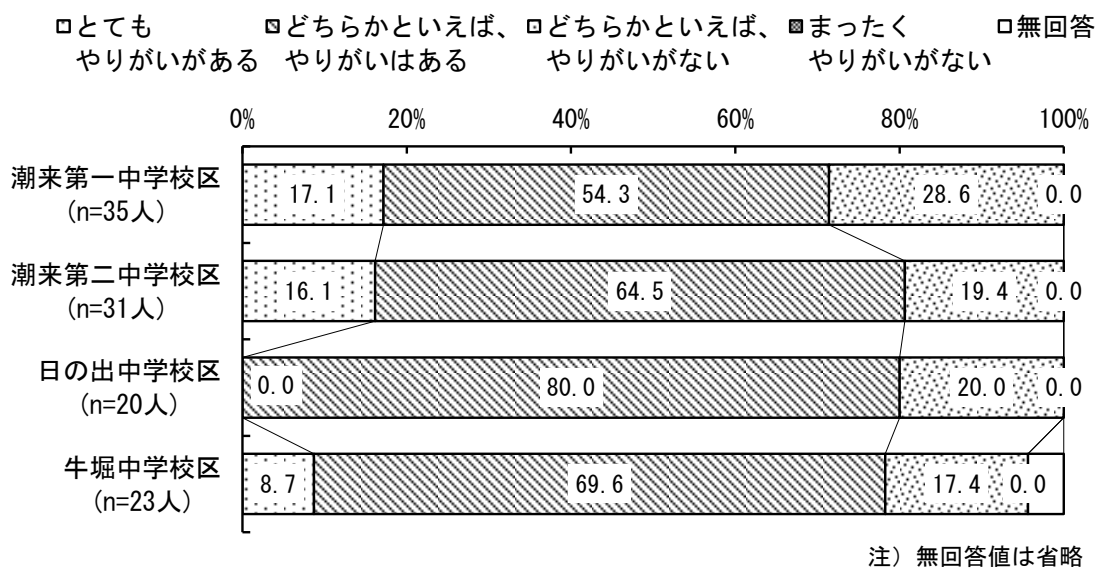
区長や民生委員・児童委員の活動に対して“やりがいがある”が約8割。

区長や民生委員・児童委員にたずねた地域役員のやりがいは、区長と民生委員・児童委員とも約8割が“やりがいがある”と回答している。

図 地域役員の活動のやりがい（役員：問4）



【担当地区別】



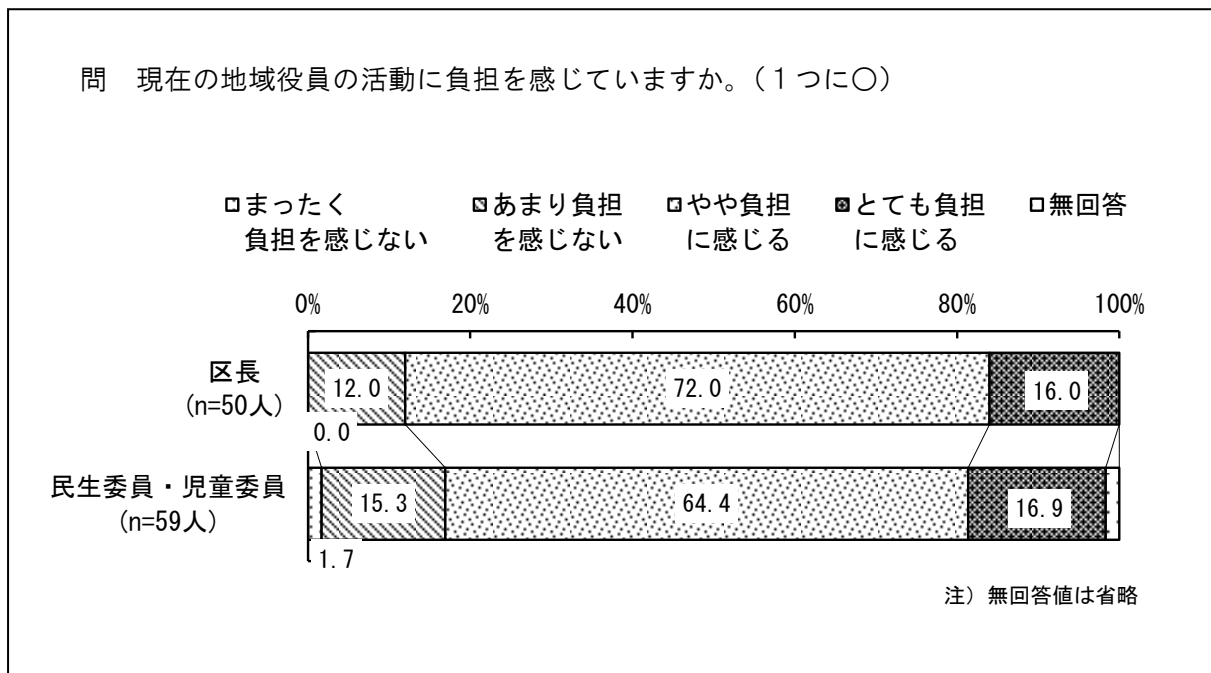
4-2 地域役員の活動の負担感

各地区の地域役員とも多くの負担を感じながら活動していることがわかる。

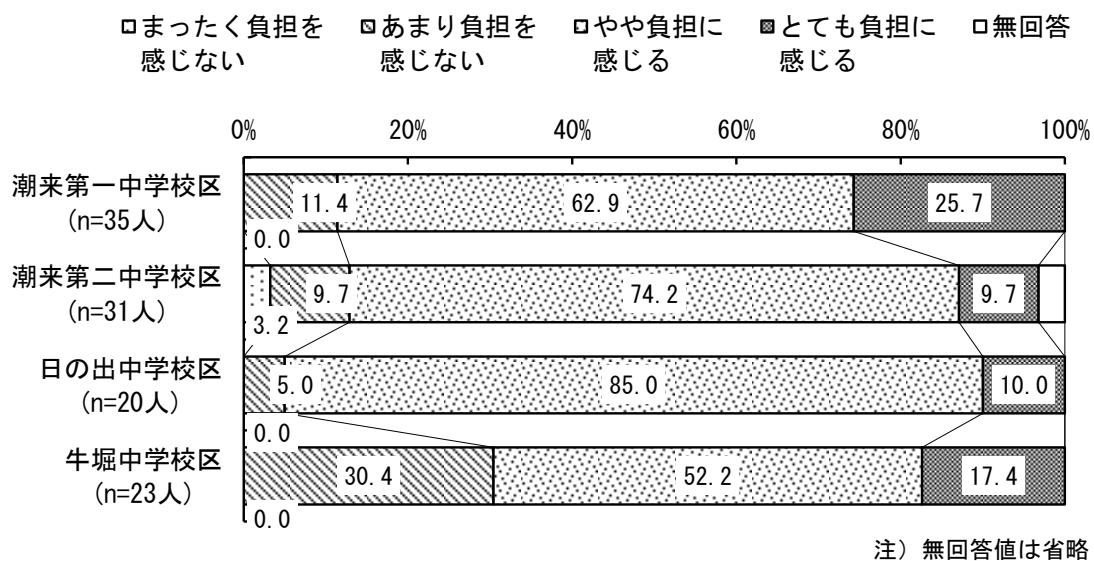
地域役員の活動の負担感をみると、「やや負担を感じる」と「とても負担を感じる」を合わせた“負担を感じる”は、区長が88.0%、民生委員・児童委員が81.3%で高い。

また、各担当地区の地域役員とも多くの負担を感じながら活動していることがわかる。

図 地域役員の活動の負担感（役員：問5）



【担当地区別】

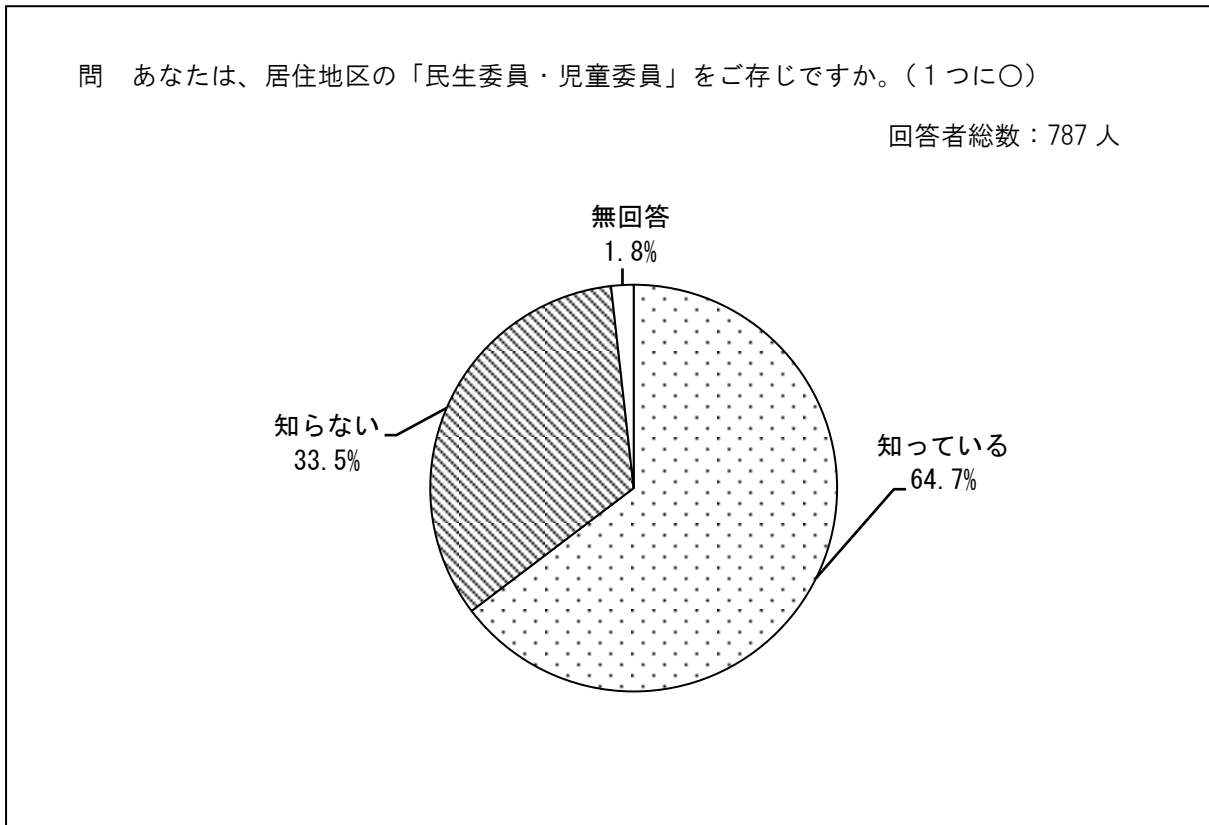


4-3 『民生委員・児童委員』の認知度

「知っている」が64.7%で高い。

担当地区の『民生委員・児童委員』の認知度は、「知っている」が64.7%で、詳しく活動内容までは知らなくても、比較的認知されていることがわかる。

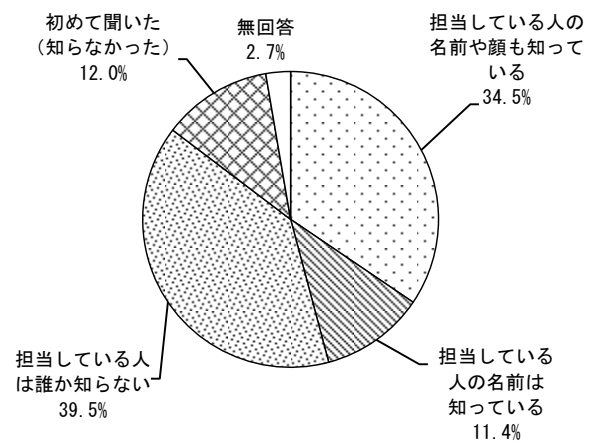
図 『民生委員・児童委員』の認知度（市民：問18）



（参考）前回調査（R2）

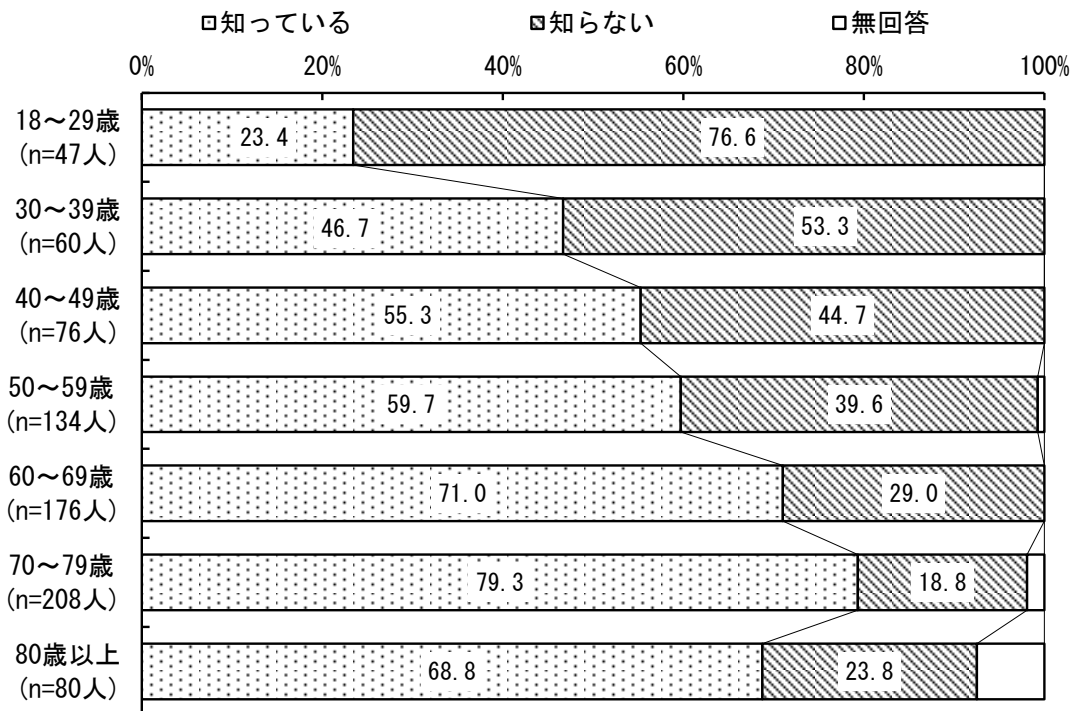
前回調査では、4段階で民生委員の認知度をたずねたが、「担当している人の名前や顔も知っている」と「担当している人の名前は知っている」を合わせて“知っている”が45.9%であった。

図 『民生委員・児童委員』の認知度



【年齢別】

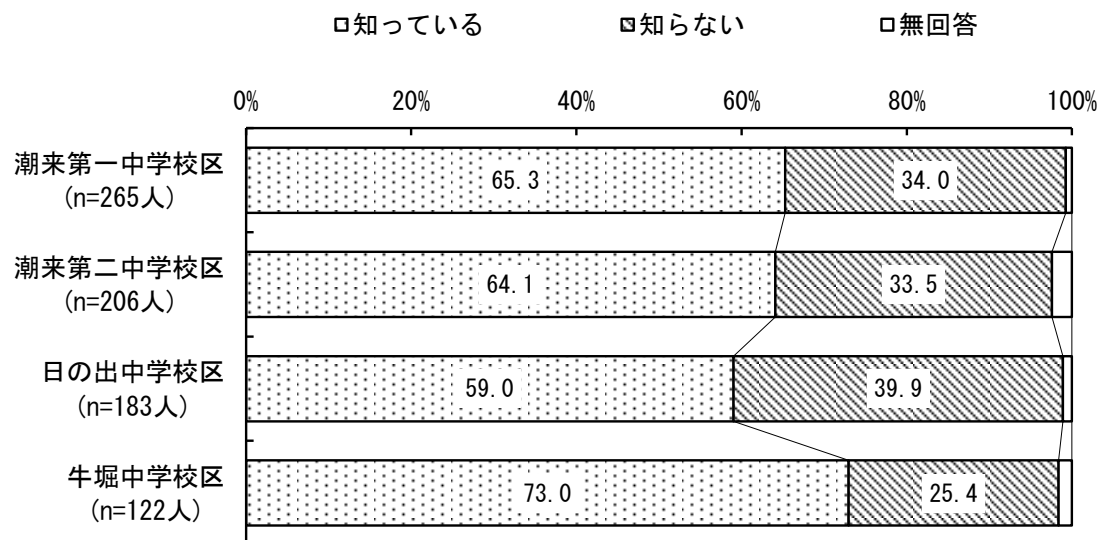
『民生委員・児童委員』の認知度を年齢別にみると、年齢層が上がるほど認知度も高く、60歳代以上では7～8割が「知っている」と回答している。



注) 無回答値は省略

【地区別】

地区別でみると、“日の出中学校区”の認知度が若干低いのが、極端には違わない。



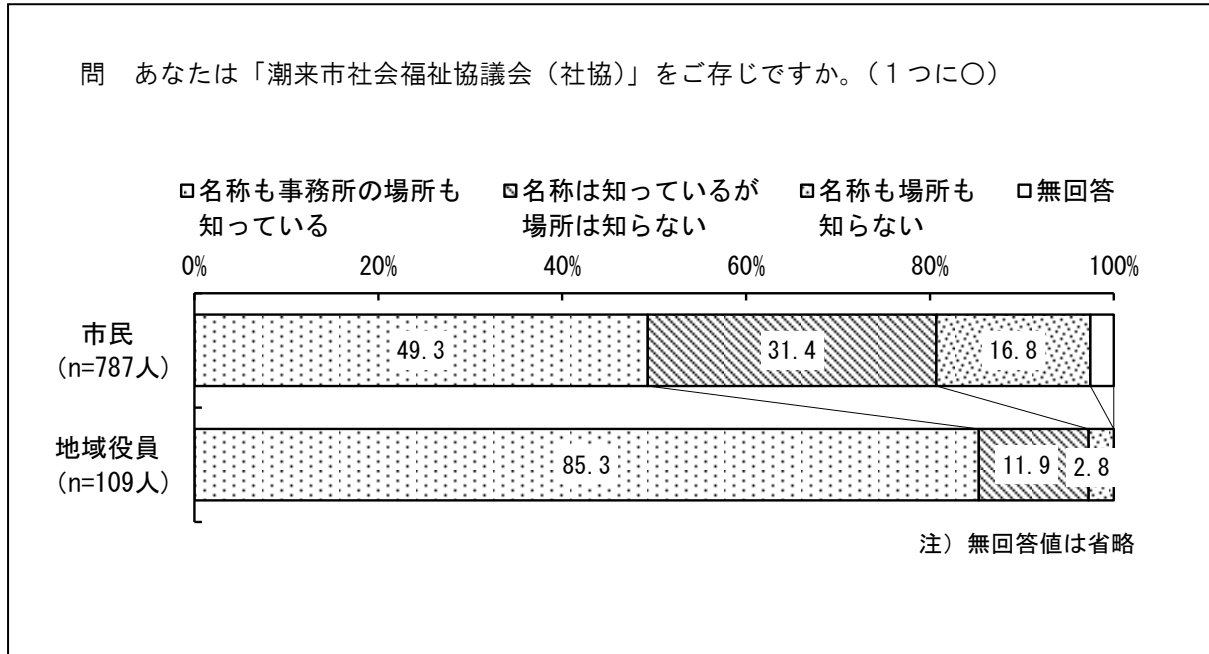
注) 無回答値は省略

4-4 『社会福祉協議会（社協）』の認知度

“名称は知っている”を含めて、社協の認知度は8割。

『潮来市社会福祉協議会（社協）』の認知度をみると、市民は「名称も事務所の場所も知っている」が49.3%、「名称は知っているが場所は知らない」が31.4%で合わせると8割を占める。

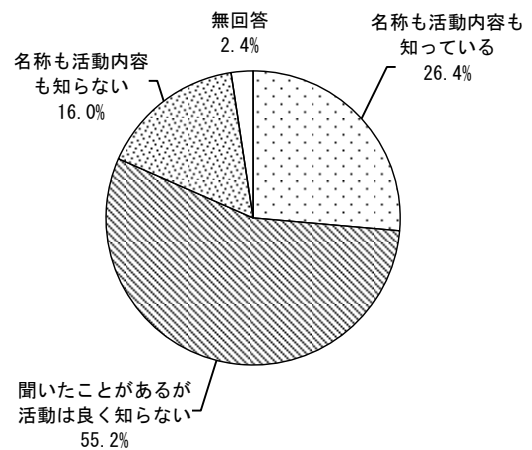
図 『社会福祉協議会（社協）』の認知度（市民：問19、役員：問8）



（参考）前回調査（R2）

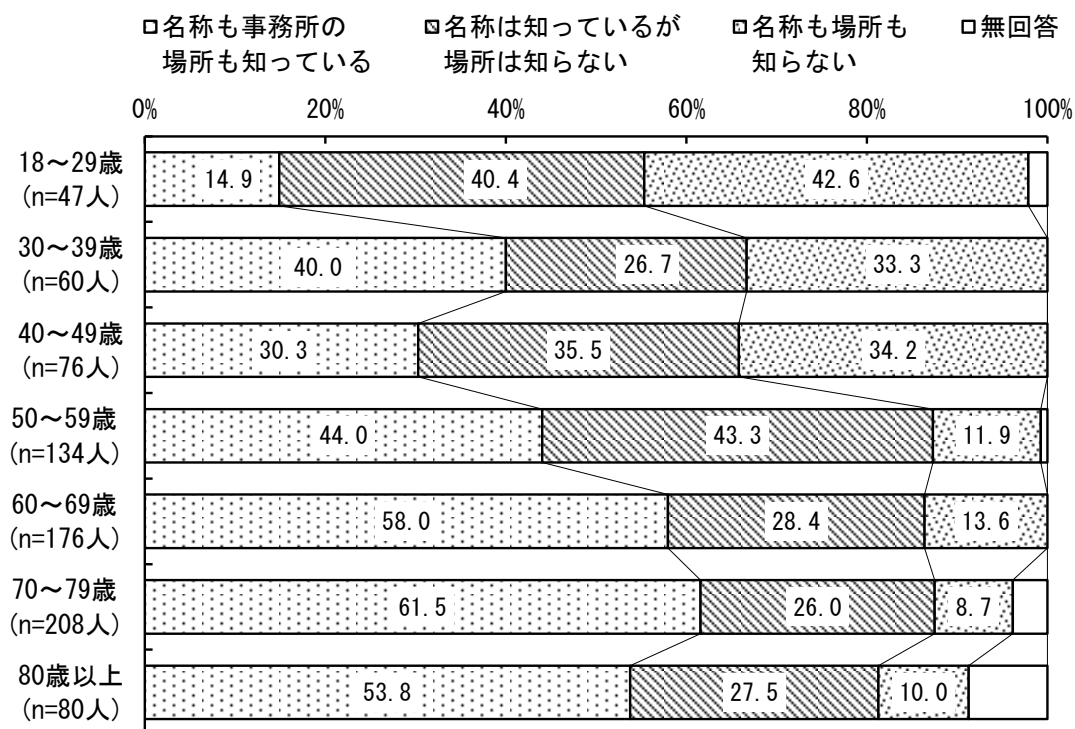
前回調査では、社会福祉協議会（社協）の活動内容まで含めて認知度をたずねたが、「名称も活動内容も知っている」が26.4%であった。

図 『社会福祉協議会（社協）』の認知度



【年齢別】

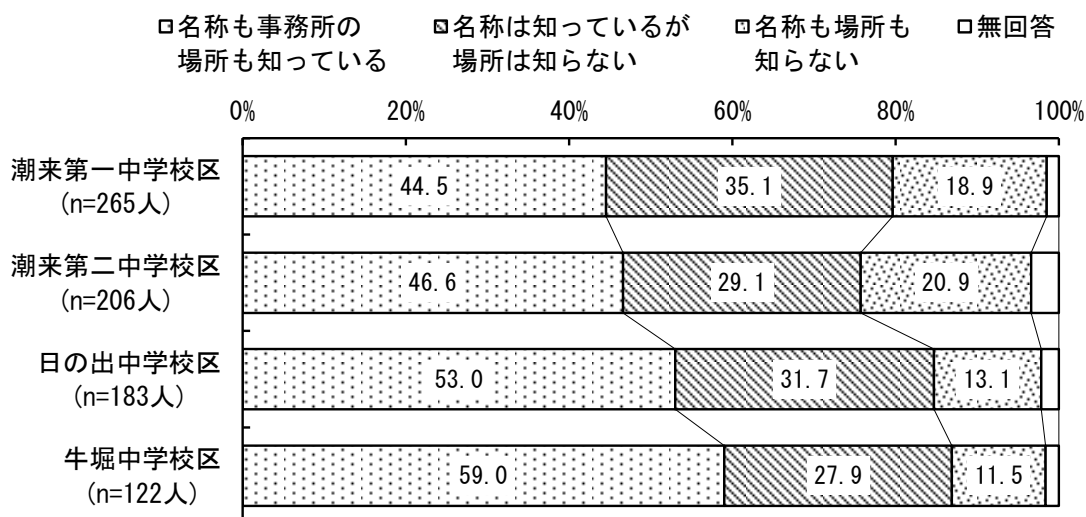
『潮来市社会福祉協議会（社協）』の認知度を年齢別にみると、“40～49歳”までの認知度がやや低く、“50～59歳”になると認知度は約9割と急激に高まる。



注) 無回答値は省略

【地区別】

地区によって若干の違いはあるが、“名称は知っている”を含めると約8割である。



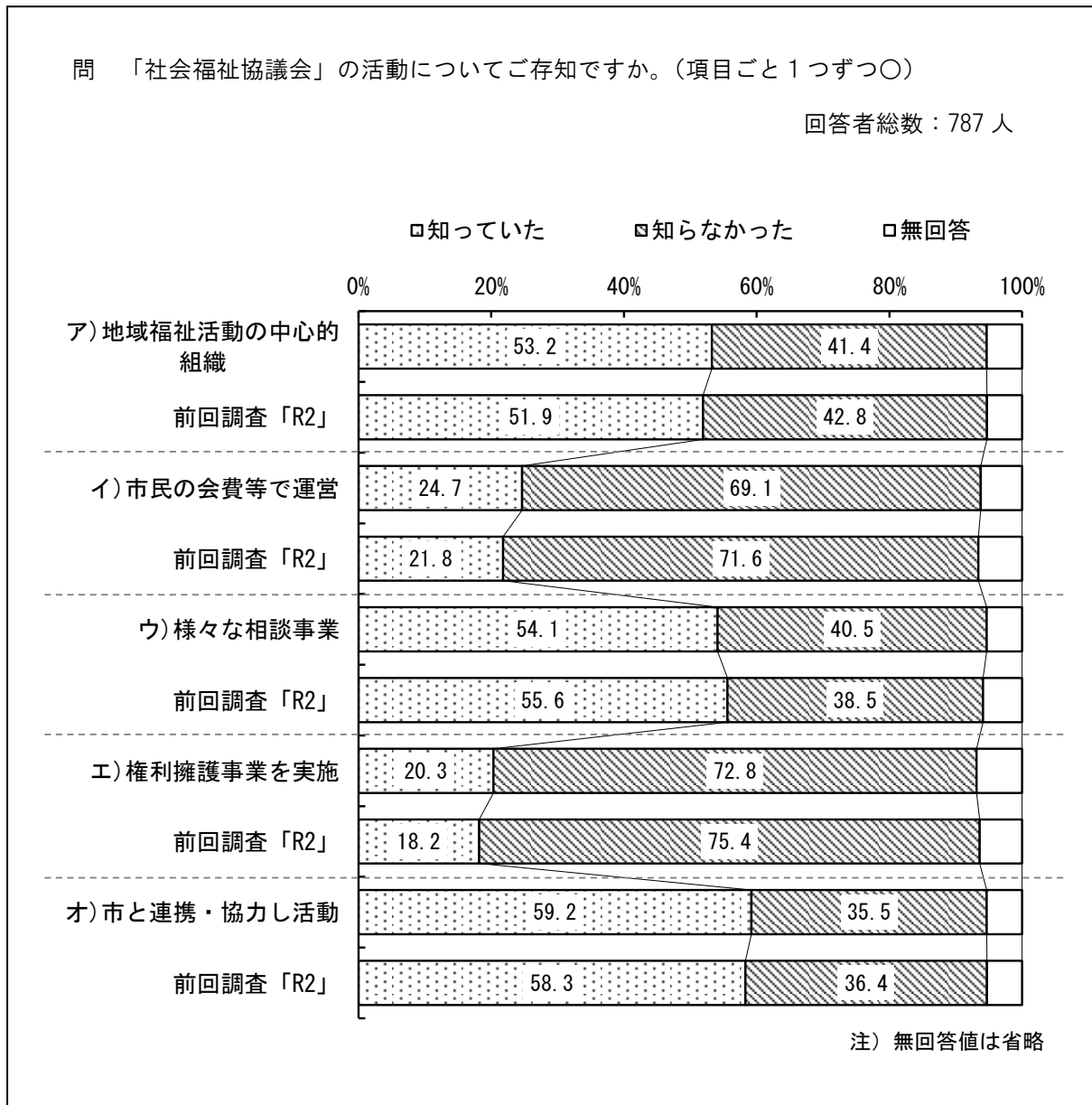
注) 無回答値は省略

4-5 『社会福祉協議会』活動の理解

『イ) 市民の会費等で運営』と『エ) 権利擁護事業を実施』が、若干増加した。

社会福祉協議会活動の理解は、『イ) 市民の会費等で運営』と『エ) 権利擁護事業を実施』は2割程度の認知度だが、前回調査より若干増加した。他の項目は前回調査と同様に比較的高い。

図 『社会福祉協議会』活動の理解 (市民：問20)



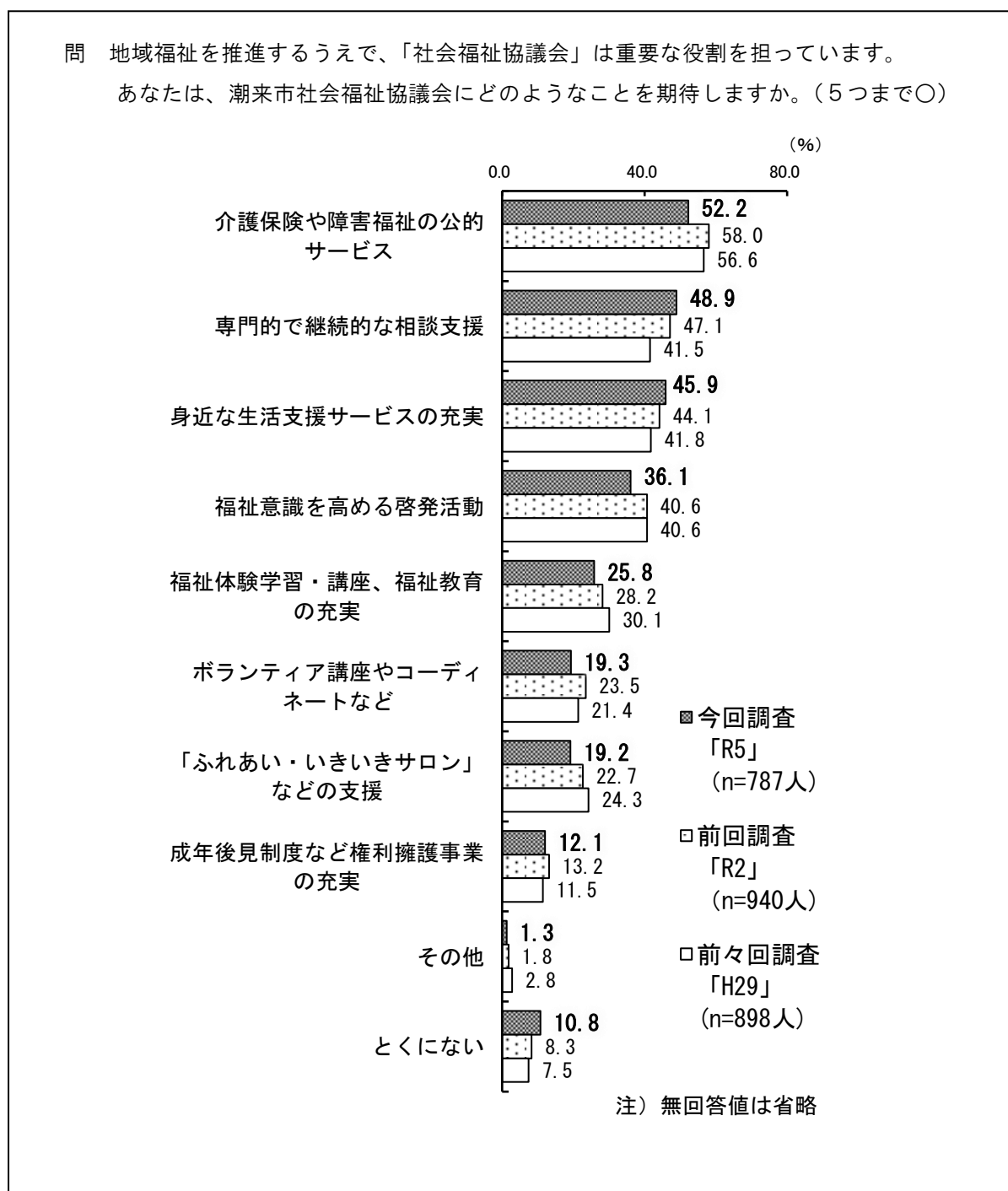
4-6 『社会福祉協議会』への期待

継続的な相談支援と身近な生活支援の充実が前回調査よりも高く、期待されている。

潮来市社会福祉協議会への期待は、「介護保険や障害福祉の公的サービス」が 58.0%で最も高いが、前回調査よりも減少した。

また、「専門的で継続的な相談支援」が 48.9%、「身近な生活支援サービスの充実」が 45.9%で前回調査よりも高く、継続的な相談支援と身近な生活支援の充実が期待されている。

図 『社会福祉協議会』への期待（市民：問 21）



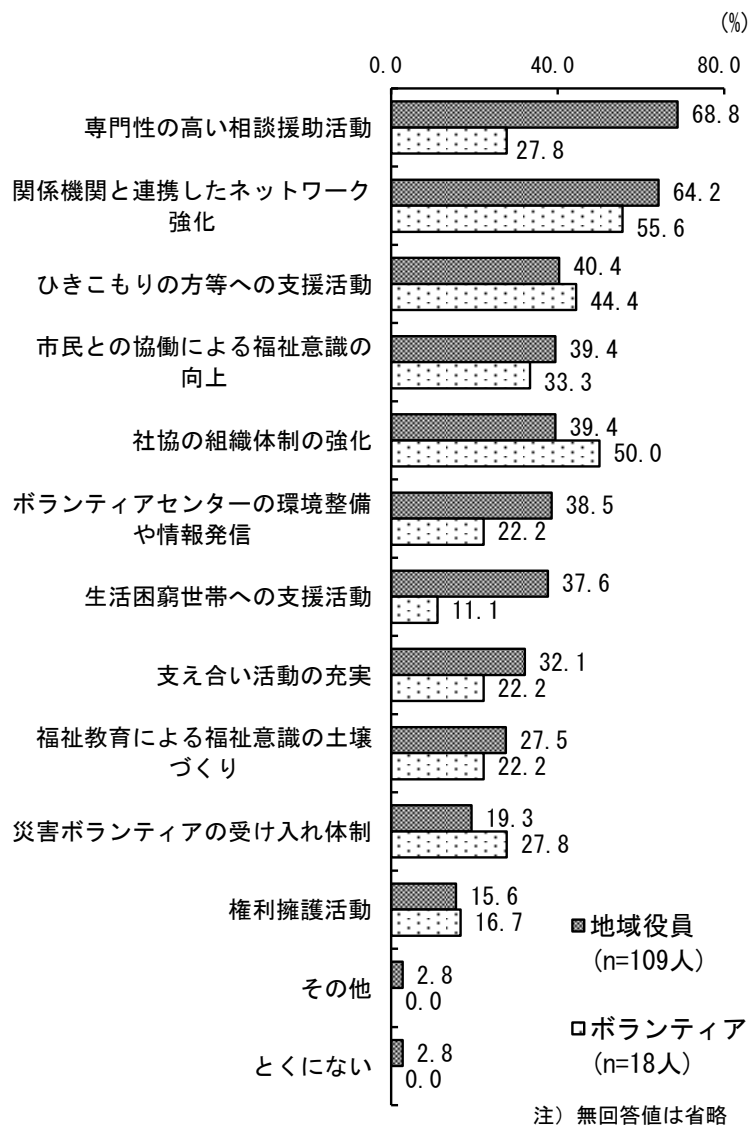
『社会福祉協議会』への期待 【地域役員】【ボランティア団体】

「専門性の高い相談援助活動」と「関係機関と連携したネットワーク強化」に期待。

地域役員とボランティアとも「関係機関と連携したネットワーク強化」が高い。また、地域役員は「専門性の高い相談援助活動」が68.8%で高い。

図 『社会福祉協議会』への期待（役員：問9、ボラ：問7）

問 地域福祉を推進するうえで、「社会福祉協議会」は重要な役割を担っています。
あなたは、潮来市社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。
(あてはまるものすべてに○)



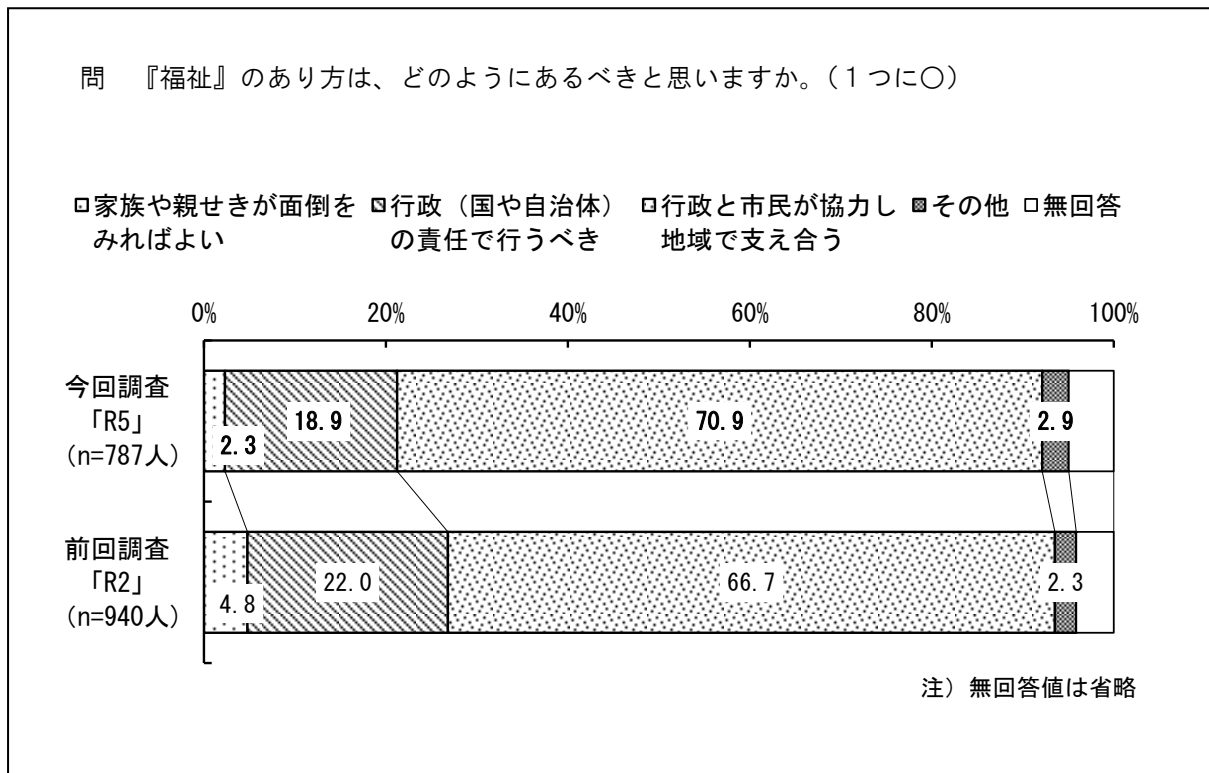
第5節 安心して暮らせる福祉のまちづくりについて

5-1 『福祉』の考え方

「行政と市民が協力し地域で支え合う」との考え方が、ある程度浸透している。

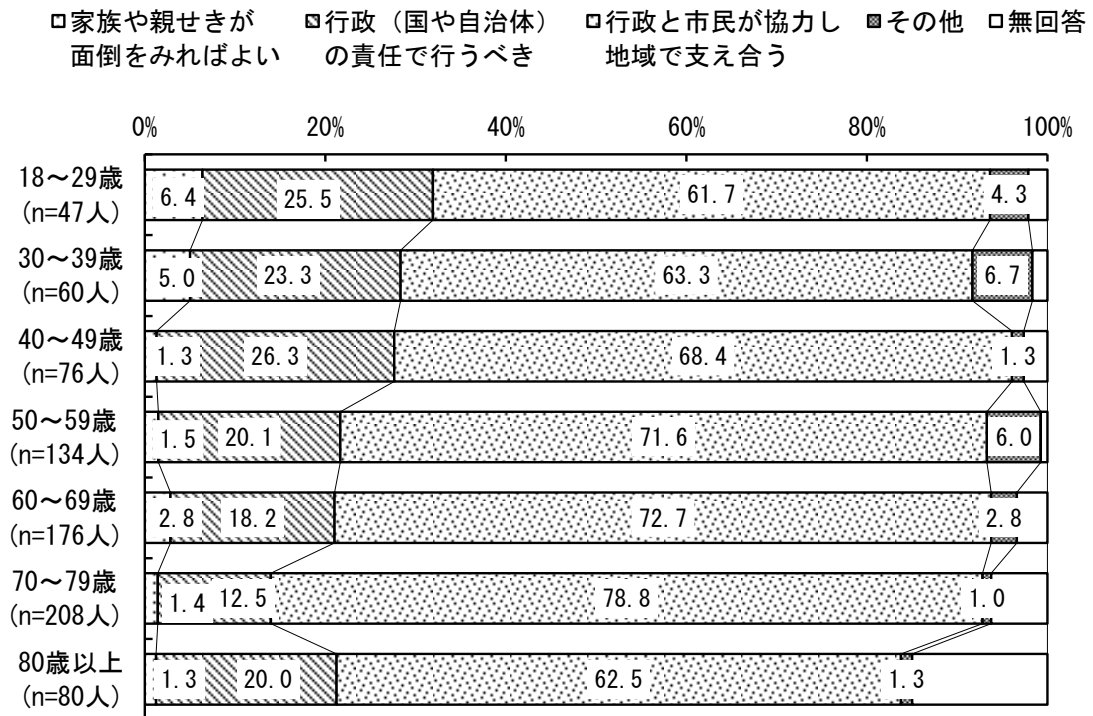
『福祉』についての考え方は、「行政と市民が協力し地域で支え合う」が70.9%で、前回調査よりも高くなったことから、ある程度浸透していることがうかがえる。

図 『福祉』の考え方 (市民：問22)



【年齢別】

『福祉』についての考え方は、年齢別でも、「行政と市民が協力し地域で支え合う」がある程度浸透していることがわかる。

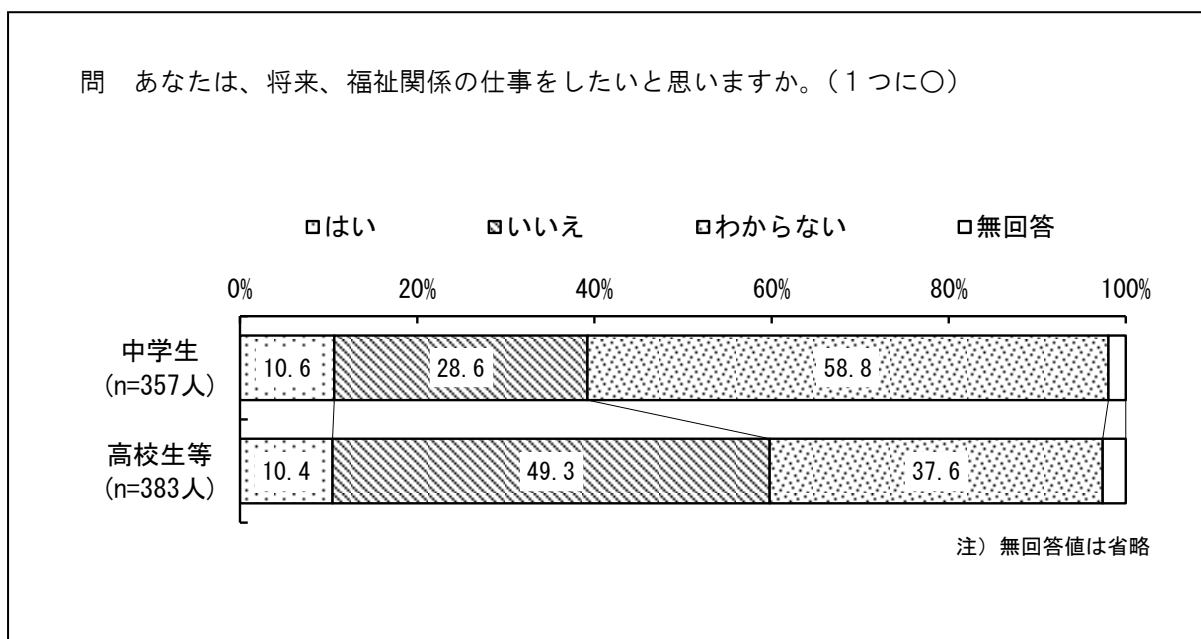


5-2 福祉関係の就労意向

中学生と高校生等とも、福祉関係の仕事の意向は1割程度である。

中学生・高校生等にたずねた福祉関係の就労意向は、中学生と高校生等とも「はい（意向がある）」が1割程度である。

図 福祉関係の就労意向 （中高：問8）

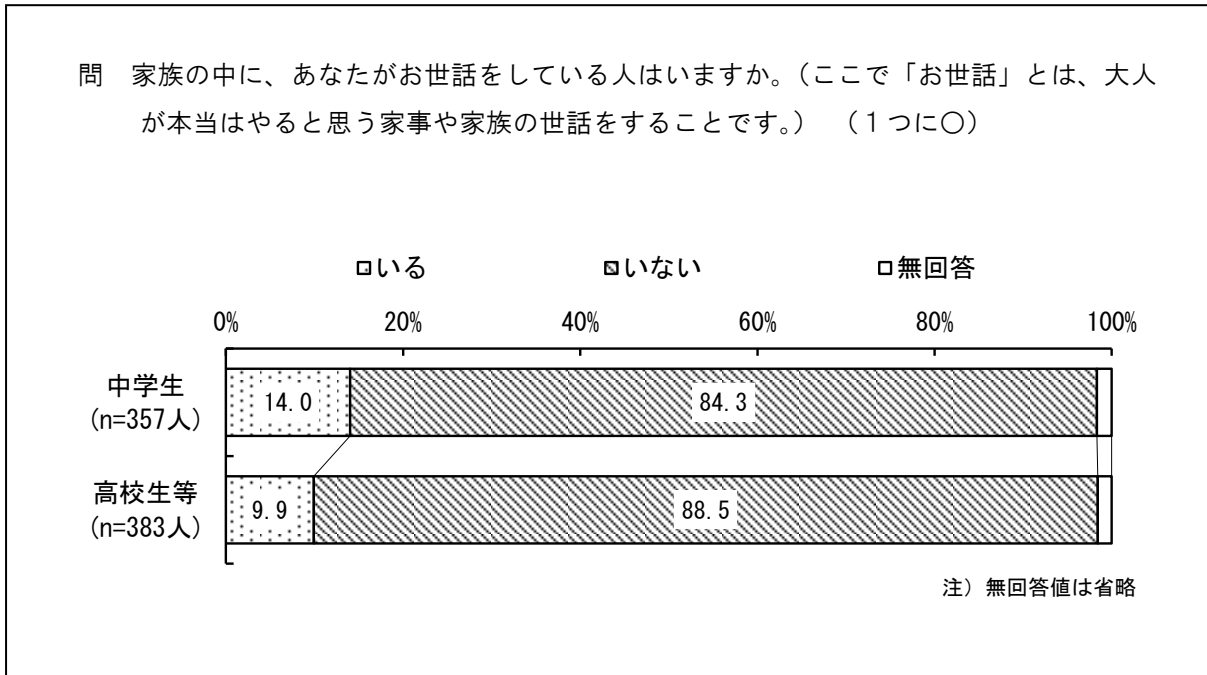


5-3 ヤングケアラーの状況とお世話の内容

お世話をしている人が「いる」が、中学生 14.0%、高校生等 9.9%。

家族の中に、お世話をしている人が「いる」との回答は、中学生が 14.0%、高校生等が 9.9% である。

図 生徒が家族をお世話をしている状況（中高：問7）

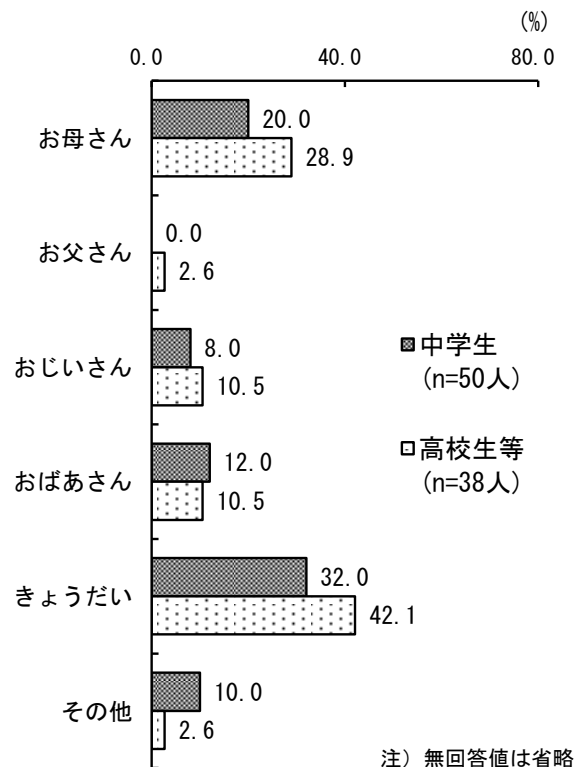


『お世話をしている人がいる生徒』について

お世話をしている人がいると回答した中学生 50 人と高校生等 38 人にたずねた。

お世話を必要としている人は、「お母さん」と「きょうだい」が高い。

付問 あなたのお世話を必要としているのは、だれですか。（あてはまるものすべてに○）

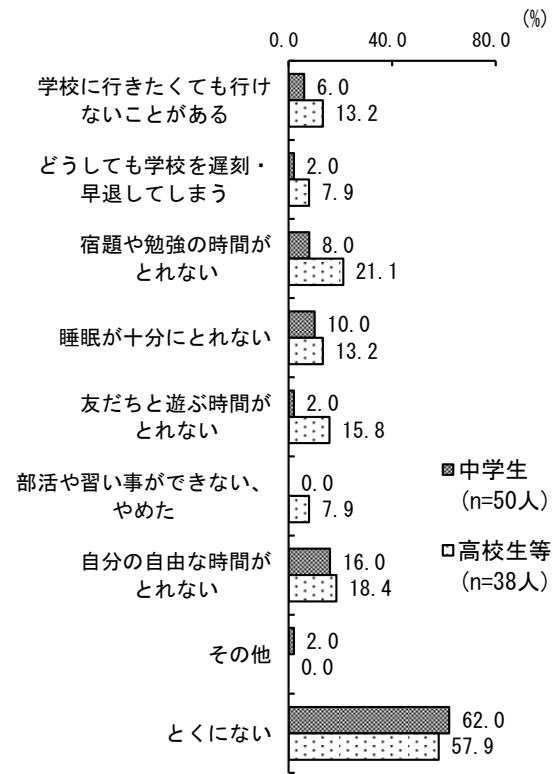


お世話をしていることで、高校生等は「宿題や勉強の時間がとれない」や「自分の自由な時間がとれない」が比較的高い。

お世話をする日数をみると、高校生等は「ほぼ毎日」が半数を占めている。

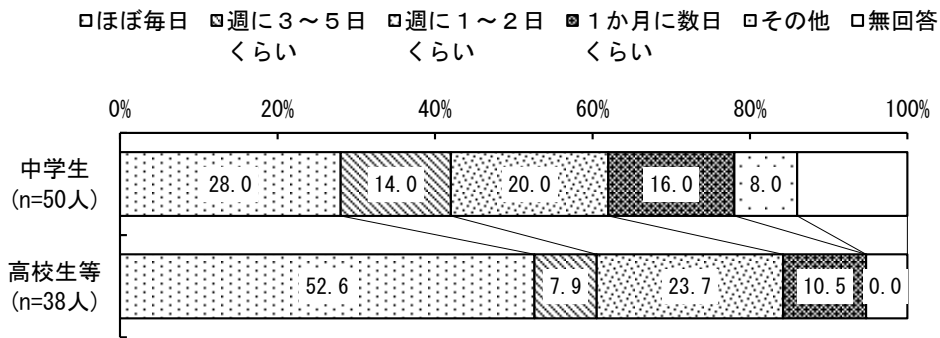
お世話を必要とする家族がいることを相談した経験は、高校生等で「ある」が21.1%だが、相談したことが「ない」との回答が中学生と高校生とも大半を占めて高い。

付問 あなたがお世話をしていることで、次のようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



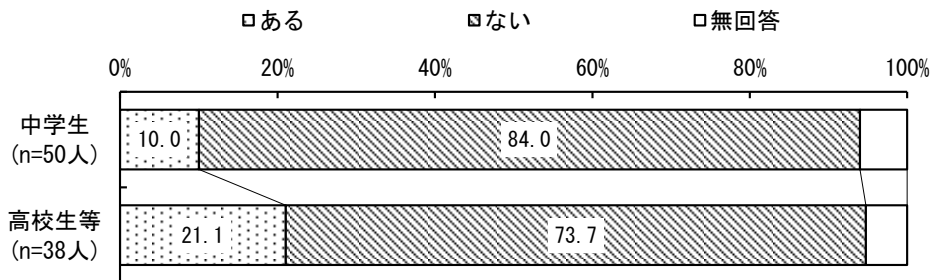
注) 無回答値は省略

付問 あなたがお世話をするのは、どのくらいですか。(1つに○)



注) 無回答値は省略

付問 あなたのお世話を必要とする家族がいることを、だれかに相談したことがありますか。(1つに○)



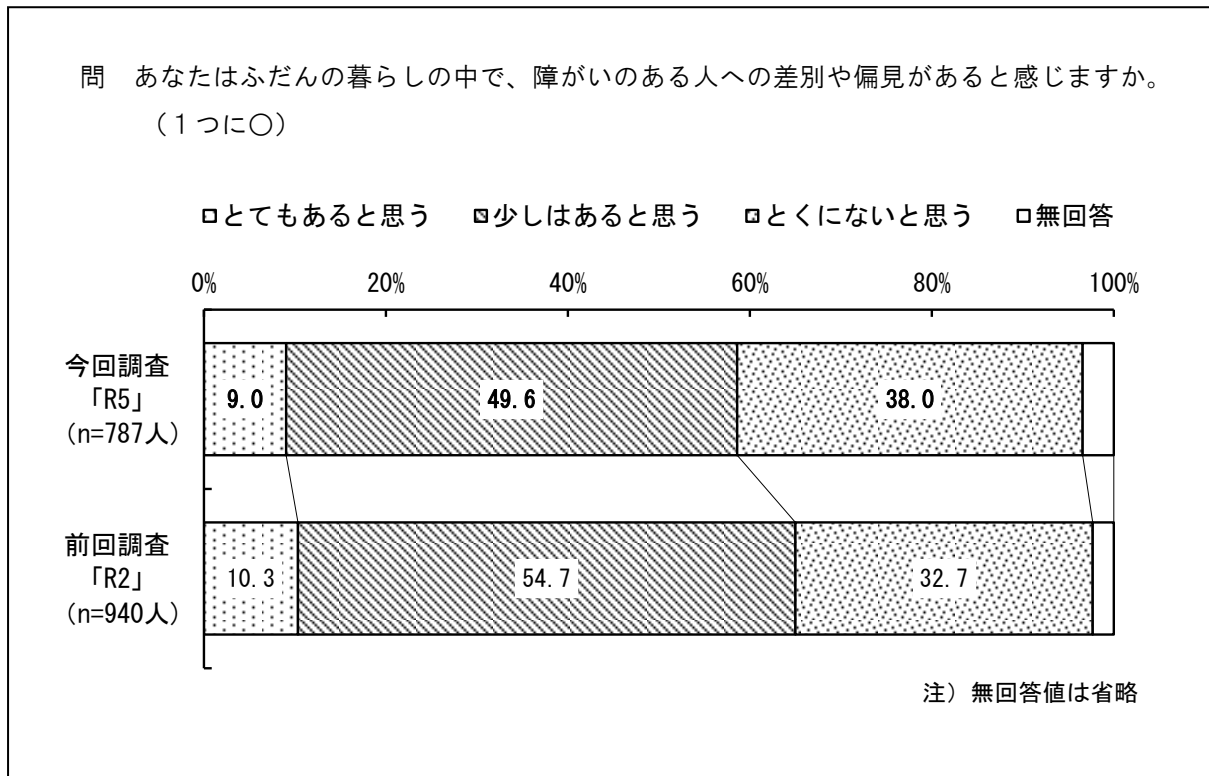
注) 無回答値は省略

5-4 障がいのある人への差別や偏見

前回調査よりも、差別や偏見は減少したと感じられている。

障がいのある人への差別や偏見は、「とてもあると思う」と「少しはあると思う」を合わせた“差別や偏見があると思う”が58.6%で、前回調査よりも差別や偏見は減少したと感じられている。

図 障がいのある人への差別や偏見（市民：問23）



5-5 「成年後見制度」の認知度と利用意向

制度の認知度が6割を超える中で、「わからない」が増加し判断がつかない人が多い。

成年後見制度の認知度は、前回調査とほぼ同様で「だいたい内容は知っている」と「聞いたことはある」を合わせて64.0%で高い。

その一方で、成年後見制度の利用意向は2割にとどまり、「わからない」が52.6%で前回調査よりも高くなっていることから、制度を利用する判断がつかない人が多いことがわかる。

図 「成年後見制度」の認知度（市民：問24）

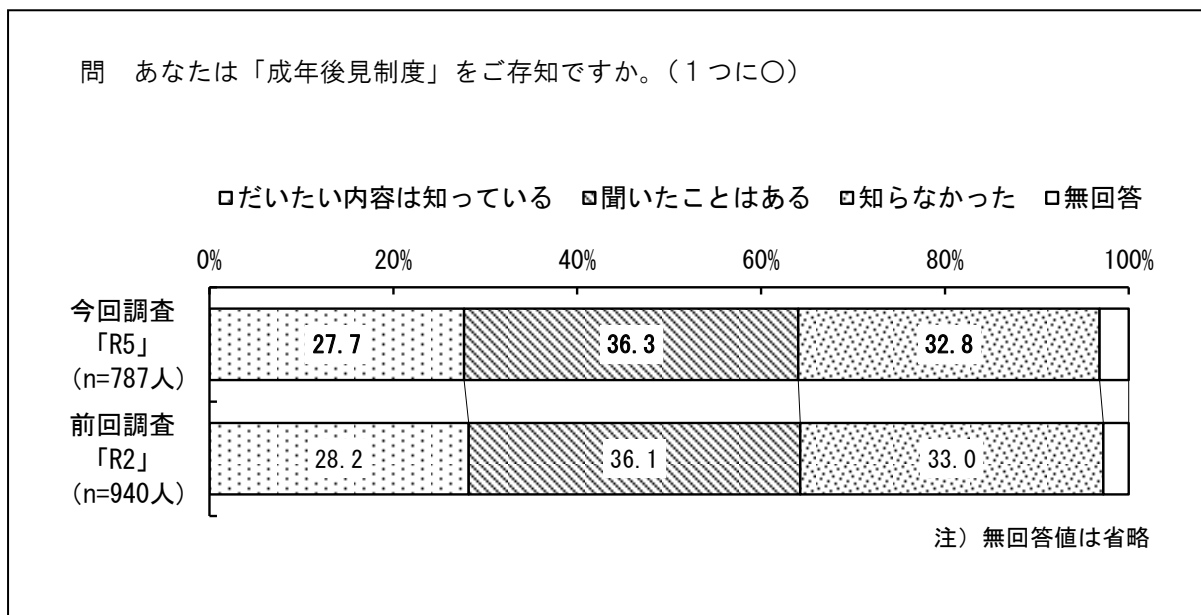
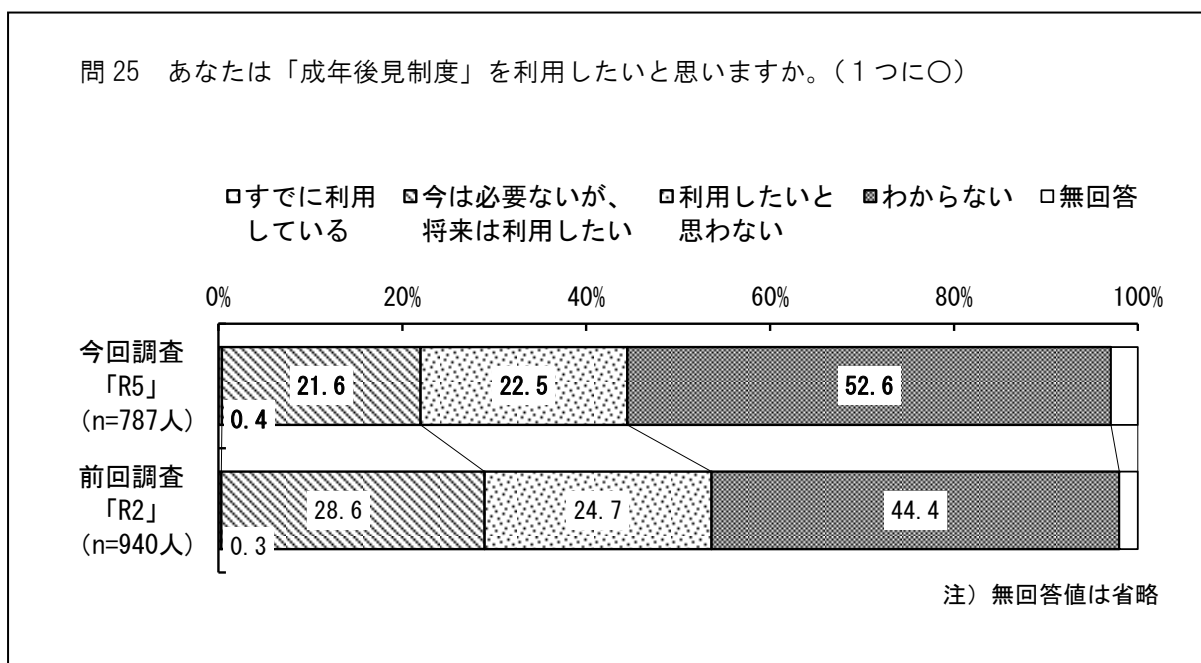


図 「成年後見制度」の利用意向（市民：問25）



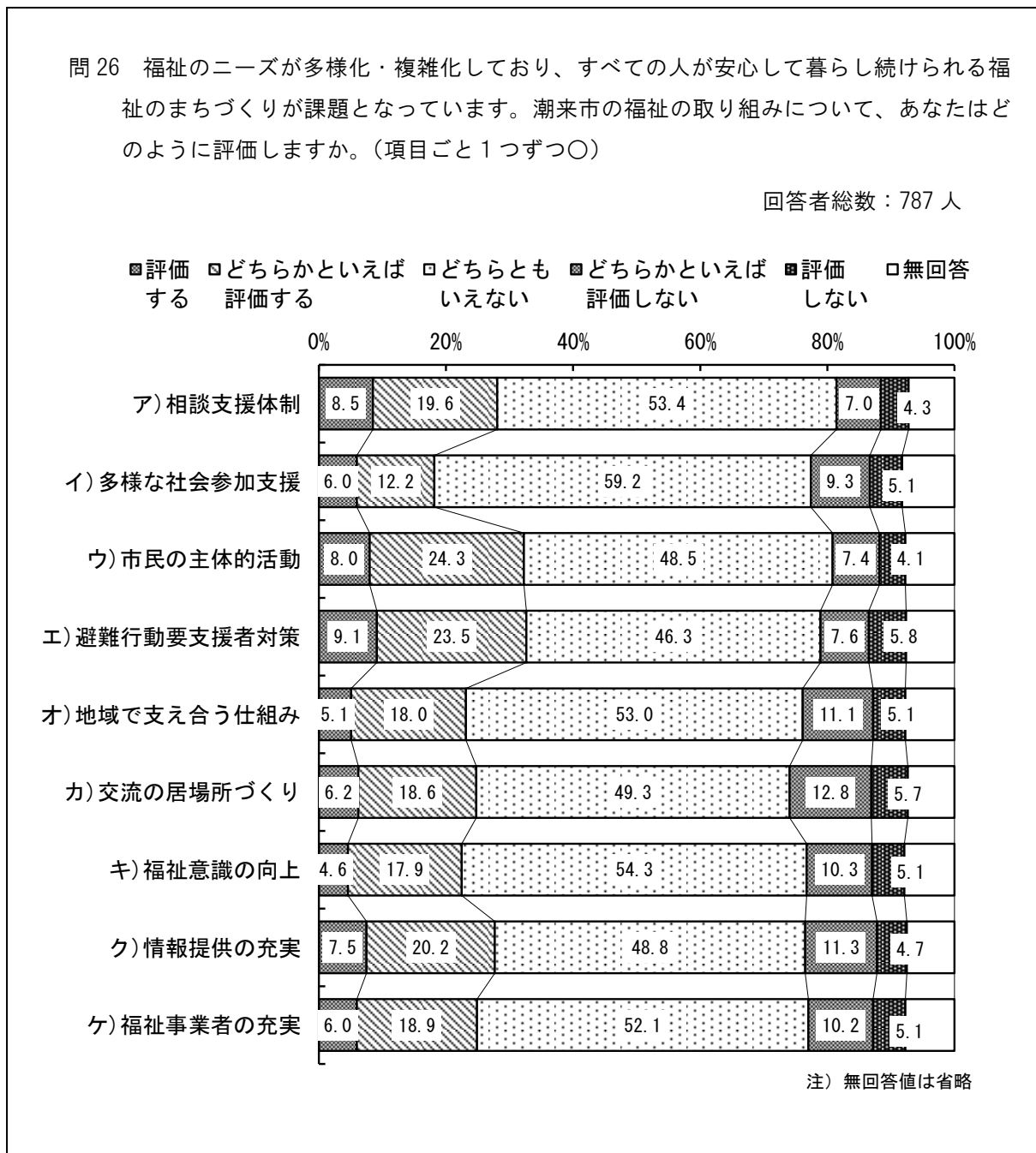
第6節 潮来市の地域福祉の取り組みについて

6-1 地域福祉の取組評価（満足度）

「ウ）市民の主体的活動」と「エ）避難行動要支援者対策」の評価がやや高い。地域役員とボランティアは「ア）相談支援体制」の評価が比較的高い。

潮来市の地域福祉の取組評価は、「ウ）市民の主体的活動」と「エ）避難行動要支援者対策」が高い。地域役員とボランティア団体は、「ア）相談支援体制」の評価が比較的高い。

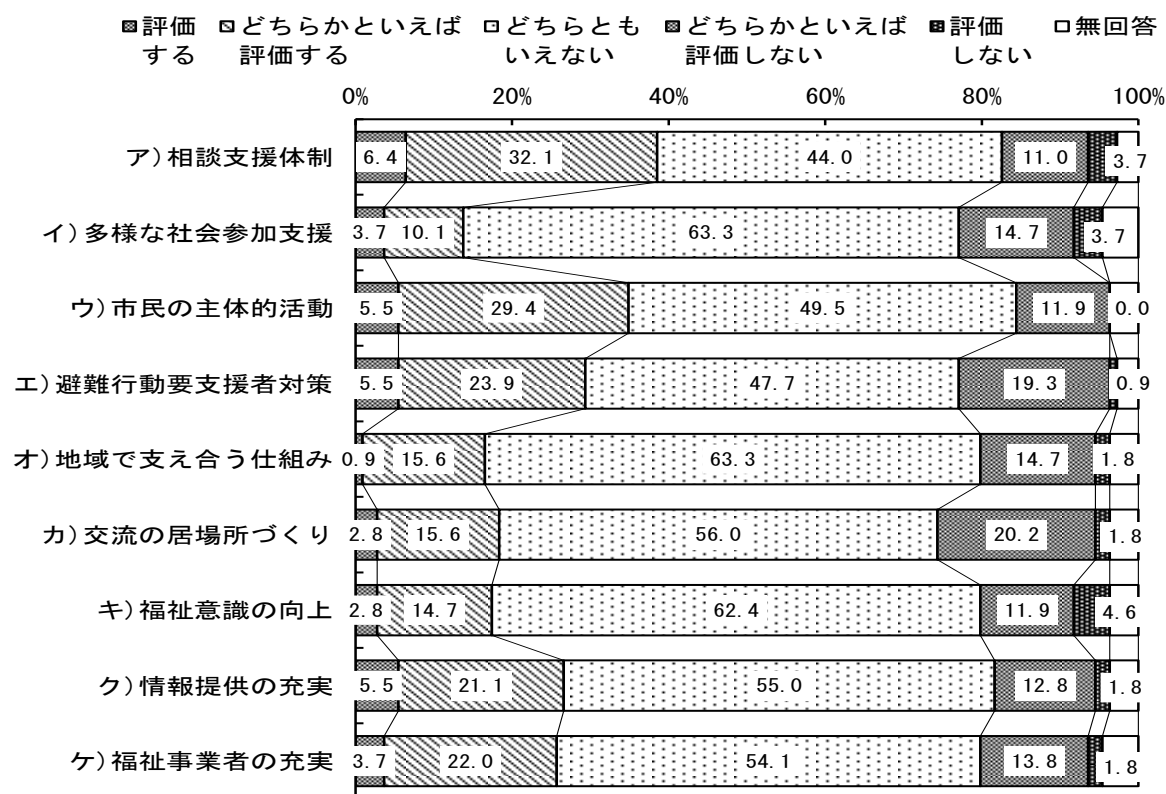
図 地域福祉の取組評価（市民：問26）



【地域役員】

図 地域福祉の取組評価（役員：問10、ボラ：問8）

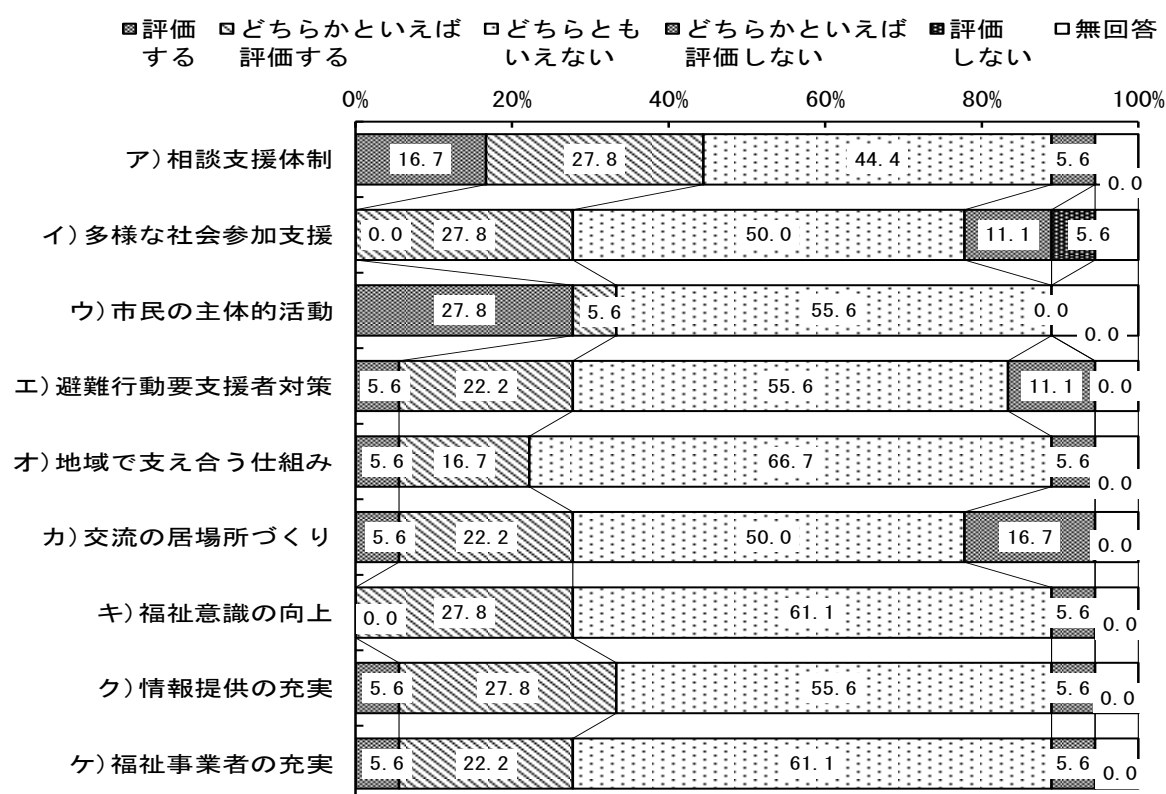
回答者総数：109人



注) 無回答値は省略

【ボランティア団体】

回答者総数：18人



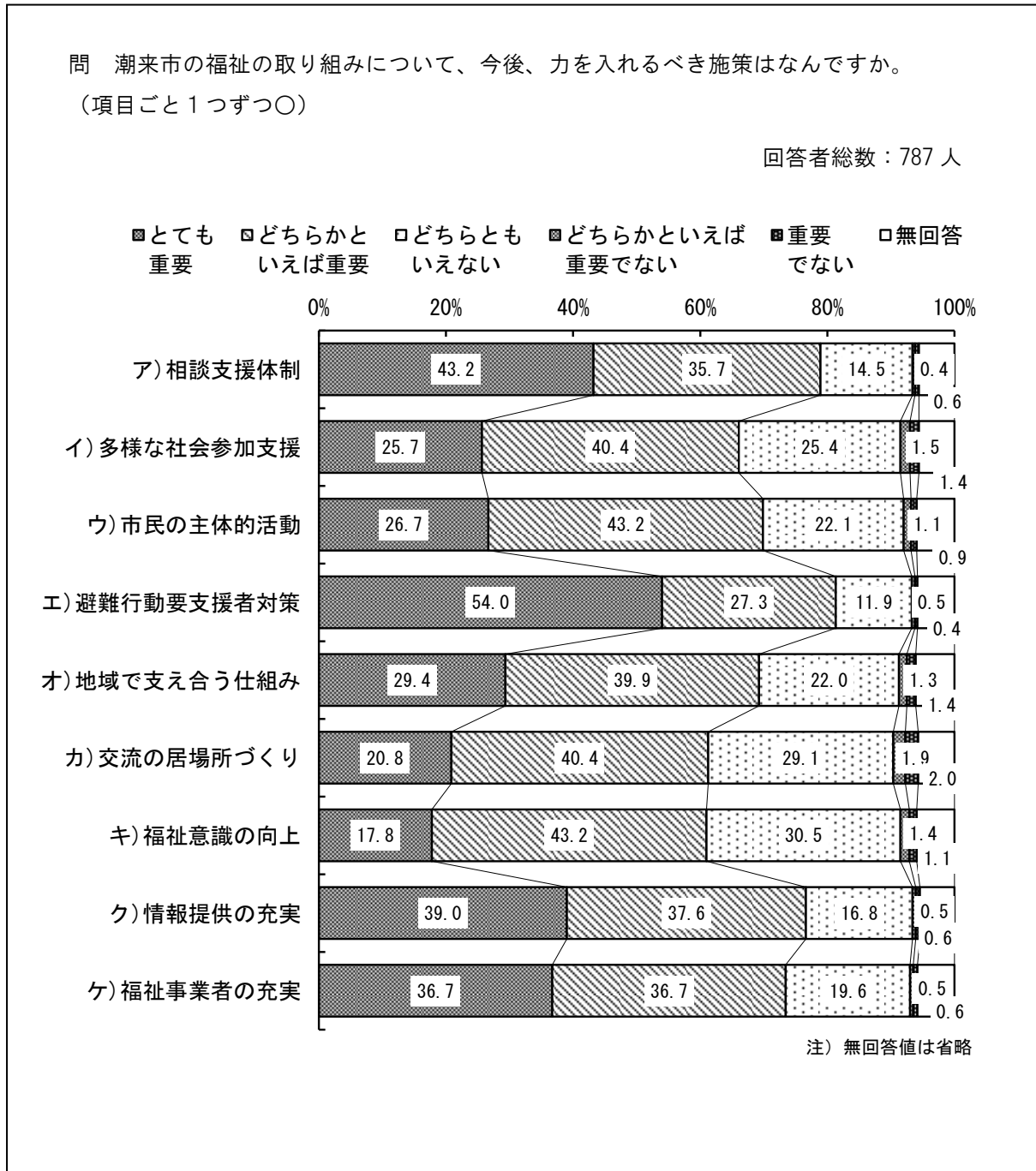
注) 無回答値は省略

6-2 地域福祉の重点施策（重要度）

「エ）避難行動要支援者対策」が高いほか、「ア）相談支援体制」と「ク）情報提供の充実」が求められている。

潮来市の地域福祉の重点施策は、「エ）避難行動要支援者対策」の重要度が高い。また、「ア）相談支援体制」と「ク）情報提供の充実」の重要度が高い。地域役員も同様の傾向である。

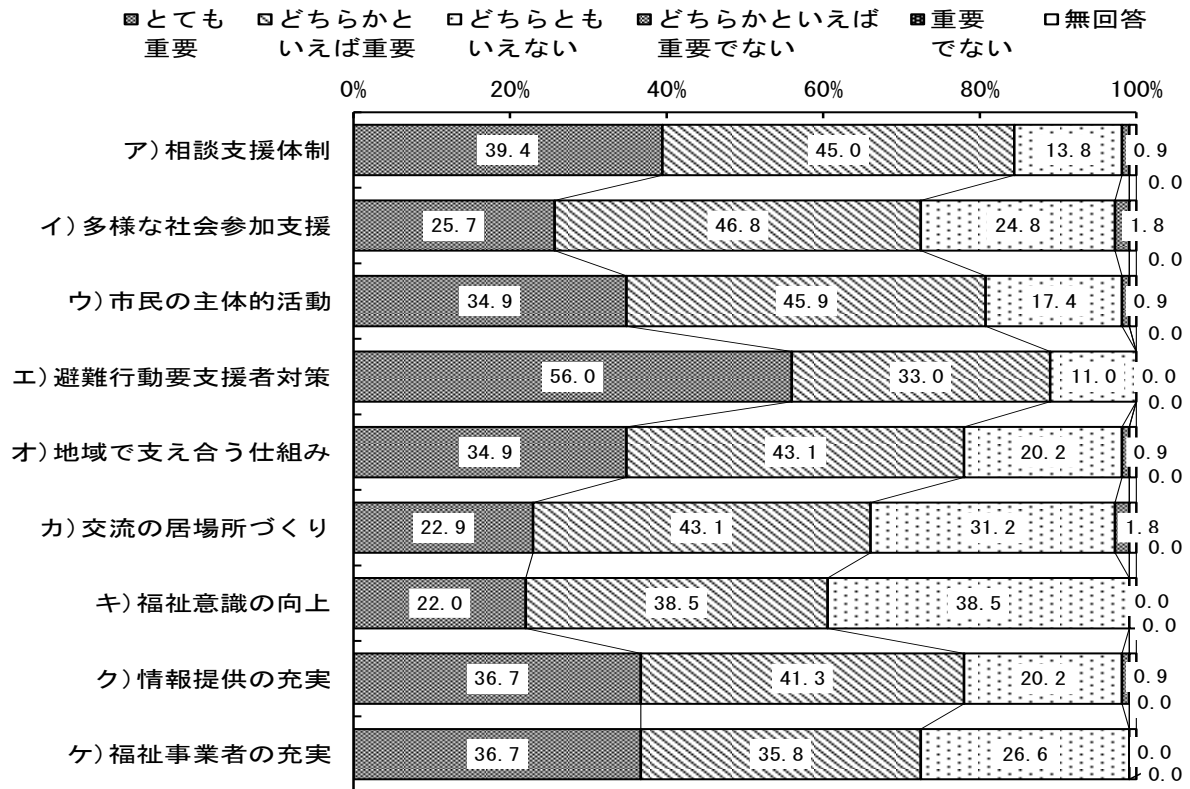
図 地域福祉の重点施策（市民：問27）



【地域役員】

図 地域福祉の重点施策（役員：問11、ボラ：問9）

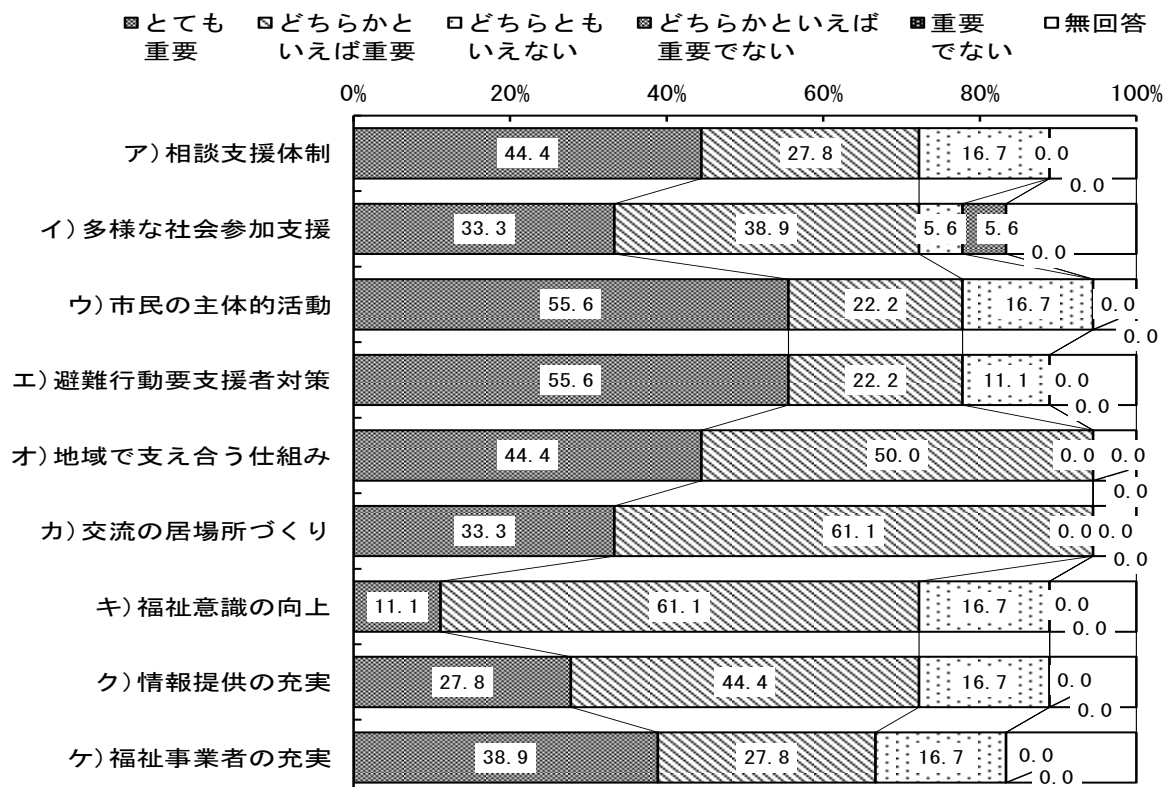
回答者総数：109人



注) 無回答値は省略

【ボランティア団体】

回答者総数：18人



注) 無回答値は省略

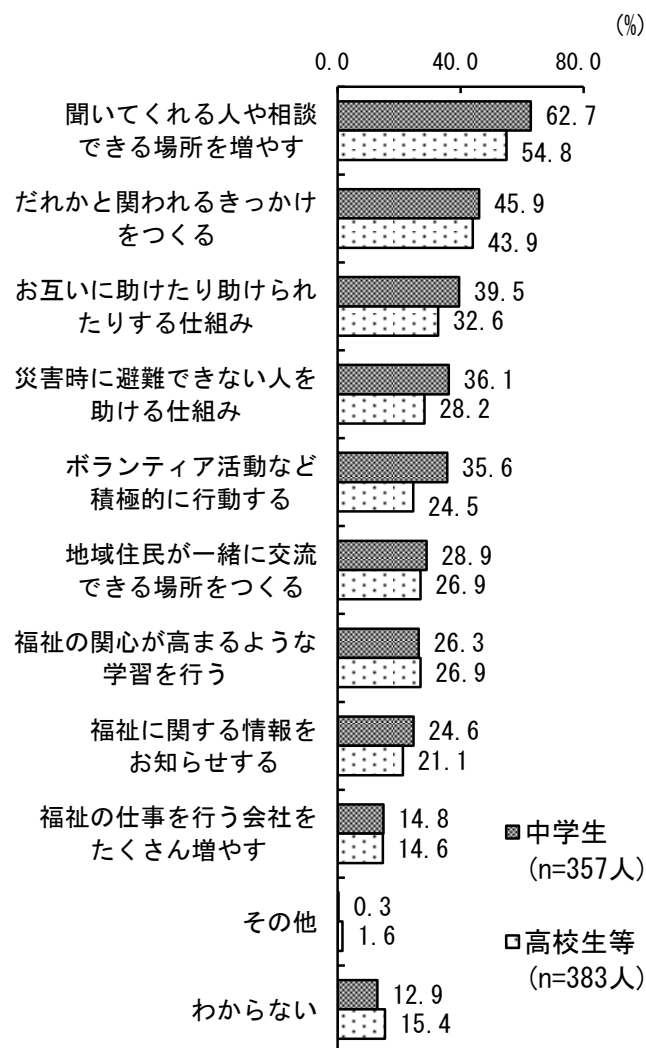
【中学生・高校生等】

「聞いてくれる人や相談できる場所を増やす」が中学生・高校生等とも最も高い。

中学生・高校生等に、福祉のまちづくりの重点をたずねたところ、「聞いてくれる人や相談できる場所を増やす」が中学生が62.7%、高校生等が54.8%で最も高い。

図 福祉のまちづくりの重点（中高：問9）

問9 福祉のまちづくりを進めるために、どのような取り組みが重要と思いますか。（あてはまるものすべてに○）



注) 無回答値は省略

(裏白)

資 料 編

(裏白)

アンケート集計表

(1) 一般市民アンケート

I あなた自身のことについて

問1 性別は。(1つに○)

回答者総数=787人

1. 男性	327 (41.6)	3. その他	0 (0.0)
2. 女性	444 (56.4)	4. 無回答	6 (0.8)
			無回答
			10 (1.3)

問2 年齢は。(1つに○) (令和5年7月1日現在(基準日))

回答者総数=787人

1. 18~29歳	47 (6.0)	5. 60~69歳	176 (22.4)
2. 30~39歳	60 (7.6)	6. 70~79歳	208 (26.4)
3. 40~49歳	76 (9.7)	7. 80歳以上	80 (10.2)
4. 50~59歳	134 (17.0)		
			無回答
			6 (0.8)

問3 お住まいの地区は。(1つに○)

回答者総数=787人

1. 潮来地区	157 (19.9)	5. 日の出地区	171 (21.7)
2. 津知地区	108 (13.7)	6. 大洲区、十番区	12 (1.5)
3. 延方地区	159 (20.2)	7. かすみ地区	52 (6.6)
4. 大生原地区	47 (6.0)	8. 八代地区	70 (8.9)
			無回答
			11 (1.4)

問4 あなたの家族構成は。(1つに○)

回答者総数=787人

1. ひとり暮らし	128 (16.3)	4. 三世帯世帯(親、子、孫で暮らしている)	71 (9.0)
2. 一世帯世帯(夫婦のみ又は兄弟姉妹のみ)	245 (31.1)	5. その他()	26 (3.3)
3. 二世帯世帯(親、子で暮らしている)	308 (39.1)		
			無回答
			9 (1.1)

II 地域とのつながりについて

問5 今後の居留意向は。(1つに○)

回答者総数=787人

1. 今のところに住み続けたい	606 (77.0)	3. いずれ市外に転居したい	70 (8.9)
2. 潮来市内には住み続けたい	98 (12.5)		
		無回答	13 (1.7)

問6 あなたは、どの程度、ご近所付き合いをしていますか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. とても親しく付き合っている	93 (11.8)	3. 付き合いはあるが、それほど親しくない	220 (28.0)
2. ある程度親しく付き合っている	319 (40.5)	4. 付き合いは、ほとんどない	148 (18.8)
		無回答	7 (0.9)

問7 あなたは、ご近所による支え合い、助け合いの必要性をどう感じますか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. とても必要だと思う	169 (21.5)	3. あまり必要だと思わない	89 (11.3)
2. ある程度必要だと思う	508 (64.5)	4. まったく必要だと思わない	11 (1.4)
		無回答	10 (1.3)

問7-① 主な理由を教えてください。(1つに○)

回答者総数=100人

1. とくに困ることがないと思うから	40 (40.0)	4. ほとんど家にいないから	10 (10.0)
2. 近所付き合いがわずらわしいから	30 (30.0)	5. その他 ()	2 (2.0)
3. 人との関わりが苦手だから	17 (17.0)		
		無回答	1 (1.0)

問8 お住まいの地域をみて、気になること、問題と感ずることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=787人

1. お祭りや行事の衰退	153 (19.4)	11. 施設や道路のバリアフリーの問題	83 (10.5)
2. 住民同士の交流機会の減少	204 (25.9)	12. 災害など非常時の協力体制に不安がある	215 (27.3)
3. 新旧住民の交流が少ない	118 (15.0)	13. 福祉に対する住民の理解が低い	100 (12.7)
4. 地域に子ども・若者が少ない	401 (51.0)	14. 高齢者の一人暮らしや母子家庭などが地域で孤立するケースがみられる	113 (14.4)
5. 地区の役員のなり手が不足	209 (26.6)	15. 子どもや高齢者等への虐待を懸念するケースがみられる	10 (1.3)
6. 地域組織のつながりが減少	127 (16.1)	16. 障がい者への支援が必要と思われるケースがみられる	39 (5.0)
7. 交通など移動手段の問題	330 (41.9)	17. その他()	31 (3.9)
8. 日常の買い物のしやすさ	173 (22.0)	18. とくにない	42 (5.3)
9. 防犯・治安・風紀の問題	111 (14.1)		
10. 地域の医療体制の問題	38 (4.9)		
		無回答	19 (2.4)

Ⅲ 地域共生社会について

問9 あなたは「地域共生社会」という言葉をご存知ですか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. 理解している	113 (14.4)	3. 知らなかった	295 (37.5)
2. 聞いたことはある	330 (41.9)		
		無回答	49 (6.2)

問10 生活上の相談や福祉の手助けが必要になったとき、あなたはだれに(どこに)相談や手助けを頼みますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=回答者総数=787人

1. 身近にいる家族	598 (76.0)	9. 病院・薬局、カウンセラー	160 (20.3)
2. 友人・知人	308 (39.1)	10. 福祉サービス事業者	125 (15.9)
3. 地域住民	48 (6.1)	11. 法律相談(法律事務所・法テラス等)	35 (4.4)
4. 民生委員・児童委員	81 (10.3)	12. SNS(インターネットを利用し、電子掲示板等で相談)	35 (4.4)
5. 市役所などの各種相談窓口	406 (51.6)	13. その他()	5 (0.6)
6. 保健所や保健センター	125 (15.9)	14. 相談できる人はいない	21 (2.7)
7. 社会福祉協議会(社協)	147 (18.7)	15. 誰にも相談したくない	4 (0.5)
8. 警察	60 (7.6)		
		無回答	21 (2.7)

問11 ご近所に介護や病気、子育てなどで困っているご家庭があったら、あなたにできそうなことがありますか。(あてはまるものすべてに○) 回答者総数=787人

1. 安否確認の声かけ	492 (62.5)	8. 食事・入浴・排泄の介助	7 (0.9)
2. 話し相手	286 (36.3)	9. 散歩の付き添い	69 (8.8)
3. 生活必需品等の買物	151 (19.2)	10. 病院や学校、幼稚園などの送迎	72 (9.1)
4. ゴミ出し	136 (17.3)	11. 短時間の子どもの預かり	51 (6.5)
5. 掃除や洗濯などの家事	17 (2.2)	12. その他 ()	17 (2.2)
6. 草むしりや庭の掃除	79 (10.0)	13. とくにない	139 (17.7)
7. 食事のしたく	19 (2.4)		

無回答 38 (4.8)

問12 あなたは、ご近所の人や友人・知人などが、悩んでいたり困っていることを知って、どこかに相談した経験がありますか。(1つに○) 回答者総数=787人

1. ある	99 (12.6)	2. ない	670 (85.1)
-------	-----------	-------	------------

無回答 18 (2.3)

問13 あなたは、行政(市)や社会福祉協議会に、福祉の相談窓口があることの安心感はいかがですか。(1つに○) 回答者総数=787人

1. とても安心感がある	172 (21.9)	3. あまり安心感がない	150 (19.1)
2. 少しは安心感がある	407 (51.7)	4. まったく安心感がない	34 (4.3)

無回答 24 (3.0)

問14 あなたは、地域活動やボランティア活動に参加した経験がありますか。(1つに○) 回答者総数=787人

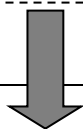
1. ある	422 (53.6)	3. わからない	35 (4.4)
2. ない	314 (39.9)		

無回答 16 (2.0)

問15 あなたは、地域活動やボランティア活動に関心がありますか。(1つに○) 回答者総数=787人

1. どちらかといえば関心がある	300 (38.1)	2. どちらかといえば関心がない	280 (35.6)
		3. わからない	164 (20.8)

無回答 43 (5.5)



問15 - ① 地域活動やボランティア活動に関する情報をどこから得ていますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=300人

1. 市の広報紙	164 (54.7)	8. 民生委員・児童委員	8 (2.7)
2. 社協の広報紙(きずな)	83 (27.7)	9. テレビ・ラジオ	31 (10.3)
3. 市役所の窓口や掲示物	23 (7.7)	10. 新聞・雑誌	39 (13.0)
4. 社会福祉協議会の窓口や掲示物	8 (2.7)	11. インターネット(HP、SNS等)	38 (12.7)
5. 回覧板	152 (50.7)	12. どこで情報を得たらよいかわからない	3 (1.0)
6. 友人・知人	86 (28.7)	13. その他()	3 (1.0)
7. ボランティア実践者	41 (13.7)	14. とくにない	9 (3.0)
		無回答	17 (5.7)

問16 あなたは、「潮来市ボランティアセンター」をご存じですか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. 名称も活動内容も知っている	57 (7.2)	3. 知らない(初めて聞いた)	458 (58.2)
2. 聞いたことはある	251 (31.9)		
		無回答	21 (2.7)

問17 あなたは、どのような条件が整えば地域活動やボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(3つまで○)

回答者総数=787人

1. 自分にあった時間や活動内容であること	450 (57.2)
2. 自分の仕事や特技を生かせること	168 (21.3)
3. 友人や家族と一緒に活動ができること	124 (15.8)
4. 家族や職場の理解があること	83 (10.5)
5. ボランティアの選択肢が充実すること	48 (6.1)
6. 団体の活動に関する情報が充実すること	39 (5.0)
7. 活動への参加の仕方が分かりやすいこと	143 (18.2)
8. 活動資金の補助や援助が充実していること	27 (3.4)
9. 進学や就職活動の評価につながることに	7 (0.9)
10. わずかでも報酬があること	72 (9.1)
11. その他()	21 (2.7)
12. わからない	100 (12.7)
13. 参加したいとは思わない	96 (12.2)
	無回答 34 (4.3)

IV 地域福祉活動の推進について

問18 あなたは、居住地区の「民生委員・児童委員」をご存じですか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. 知っている	509 (64.7)	2. 知らない	264 (33.5)
無回答			14 (1.8)

問19 あなたは、「潮来市社会福祉協議会(社協)」をご存じですか。(1つに○) 回答者総数=787人

1. 名称も事務所の場所も知っている	388 (49.3)	3. 名称も場所も知らない	132 (16.8)
2. 名前は知っているが、場所は知らない	247 (31.4)		
無回答			20 (2.5)

問20 「社会福祉協議会」の活動についてご存知ですか。(項目ごと1つずつ○)

回答者総数=787人

	1. 知っていた	2. 知らなかった	無回答
ア) 地域福祉活動を担う中心的な組織であること	419 (53.2)	326 (41.4)	42 (5.3)
イ) 住民の会費等によって運営されていること	194 (24.7)	544 (69.1)	49 (6.2)
ウ) 福祉に関する様々な相談事業を行っていること	426 (54.1)	319 (40.5)	42 (5.3)
エ) 成年後見制度の普及など権利擁護事業を行っていること	160 (20.3)	573 (72.8)	54 (6.9)
オ) 市と連携・協力しながら活動していること	466 (59.2)	279 (35.5)	42 (5.3)

問21 地域福祉を推進するうえで、「社会福祉協議会」は重要な役割を担っています。あなたは、潮来市社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。(5つまで○) 回答者総数=787人

1. 福祉意識を高める啓発活動	284 (36.1)
2. 福祉体験学習・講座、福祉教育の充実	203 (25.8)
3. ボランティア講座やコーディネートなど活動支援	152 (19.3)
4. 住民主体の「ふれあい・いきいきサロン※」などの支援	151 (19.2)
5. 専門的で継続的な相談支援	385 (48.9)
6. 身近な生活支援サービスの充実(買い物支援、外出支援など)	361 (45.9)
7. 介護保険や障害福祉などの公的サービス	411 (52.2)
8. 成年後見制度など権利擁護事業の充実	95 (12.1)
9. その他()	10 (1.3)
10. とくにない	85 (10.8)
無回答	35 (4.4)

V 安心して暮らせる福祉のまちづくりについて

問22 『福祉』のあり方は、どのようにあるべきと思いますか。(1つに○) 回答者総数=787人

1. 福祉を必要とする人は、家族や親せきが面倒をみればよい	18 (2.3)
2. 福祉は、行政(国や地方自治体)の責任で行うべき	149 (18.9)
3. 福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うのがよい	558 (70.9)
4. その他()	23 (2.9)
無回答	39 (5.0)

問23 あなたはふだんの暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。

(1つに○)

回答者総数=787人

1. とてもあると思う	71 (9.0)	3. とくにないと思う	299 (38.0)
2. 少しはあると思う	390 (49.6)		
無回答		27 (3.4)	

問24 あなたは「成年後見制度」をご存知ですか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. だいたい内容は知っている	218 (27.7)	3. 知らなかった	258 (32.8)
2. 聞いたことはある	286 (36.3)		
無回答		25 (3.2)	

問25 あなたは「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(1つに○)

回答者総数=787人

1. すでに利用している	3 (0.4)	3. 利用したいと思わない	177 (22.5)
2. 今は必要ないが、将来は利用したい	170 (21.6)	4. わからない	414 (52.6)

無回答

23 (2.9)

問26 福祉のニーズが多様化・複雑化しており、すべての人が安心して暮らし続けられる福祉のまちづくりが課題となっています。潮来市の福祉の取り組みについて、あなたはどのように評価しますか。(項目ごと1つずつ○)

回答者総数=787人

	1. 評価する	2. どちらかといえ ば評価する	3. どちらとも いえなし	4. どちらかといえ ば評価しない	5. 評価しない	無回答
ア) 住民の困りごとを幅広く受け止め、丁寧できめ細かな相談支援体制	67 (8.5)	154 (19.6)	420 (53.4)	55 (7.0)	34 (4.3)	57 (7.2)
イ) ひきこもり状態にある人など、多様な社会参加に向けた支援	47 (6.0)	96 (12.2)	466 (59.2)	73 (9.3)	40 (5.1)	65 (8.3)
ウ) 地域の見守り活動など、市民の主体的な活動の支援	63 (8.0)	191 (24.3)	382 (48.5)	58 (7.4)	32 (4.1)	61 (7.8)
エ) 大規模地震や風水害等の災害時の避難行動要支援者対策の充実	72 (9.1)	185 (23.5)	364 (46.3)	60 (7.6)	46 (5.8)	60 (7.6)
オ) 地域で支え合う仕組みやきっかけづくり	40 (5.1)	142 (18.0)	417 (53.0)	87 (11.1)	40 (5.1)	61 (7.8)
カ) 地域住民が交流できる居場所づくりの充実	49 (6.2)	146 (18.6)	388 (49.3)	101 (12.8)	45 (5.7)	58 (7.4)
キ) 学習機会を通じた市民の福祉意識の向上	36 (4.6)	141 (17.9)	427 (54.3)	81 (10.3)	40 (5.1)	62 (7.9)
ク) 制度や福祉サービスの情報提供の充実	59 (7.5)	159 (20.2)	384 (48.8)	89 (11.3)	37 (4.7)	59 (7.5)
ケ) 福祉サービス提供事業者の充実	47 (6.0)	149 (18.9)	410 (52.1)	80 (10.2)	40 (5.1)	61 (7.8)

問27 潮来市の福祉の取り組みについて、今後、力を入れるべき施策はなんですか。

(項目ごと1つずつ)

回答者総数=787人

	1. とても重要	2. 重要 は重要 どちらかといえ	3. いえ ない どちらとも	4. 重要でない は重要でない どちらかといえ	5. 重要でない	無回答
ア) 住民の困りごとを幅広く受け止め、丁寧できめ細かな相談支援体制	340 (43.2)	281 (35.7)	114 (14.5)	3 (0.4)	5 (0.6)	44 (5.6)
イ) ひきこもり状態にある人など、多様な社会参加に向けた支援	202 (25.7)	318 (40.4)	200 (25.4)	12 (1.5)	11 (1.4)	44 (5.6)
ウ) 地域の見守り活動など、市民の主体的な活動の支援	210 (26.7)	340 (43.2)	174 (22.1)	9 (1.1)	7 (0.9)	47 (6.0)
エ) 大規模地震や風水害等の災害時の避難行動要支援者対策の充実	425 (54.0)	215 (27.3)	94 (11.9)	4 (0.5)	3 (0.4)	46 (5.8)
オ) 地域で支え合う仕組みやきっかけづくり	231 (29.4)	314 (39.9)	173 (22.0)	10 (1.3)	11 (1.4)	48 (6.1)
カ) 地域住民が交流できる居場所づくりの充実	164 (20.8)	318 (40.4)	229 (29.1)	15 (1.9)	16 (2.0)	45 (5.7)
キ) 学習機会を通じた市民の福祉意識の向上	140 (17.8)	340 (43.2)	240 (30.5)	11 (1.4)	9 (1.1)	47 (6.0)
ク) 制度や福祉サービスの情報提供の充実	307 (39.0)	296 (37.6)	132 (16.8)	4 (0.5)	5 (0.6)	43 (5.5)
ケ) 福祉サービス提供事業者の充実	289 (36.7)	289 (36.7)	154 (19.6)	4 (0.5)	5 (0.6)	46 (5.8)

最後に、市や社会福祉協議会へのご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、お知らせください。

《一般市民の自由回答》

記述のあった内容は、次のとおりです。（意見は原文のままですが、誤字脱字の訂正、個人名の記述など一部削除しています）。

【地域福祉活動について】

高齢化が進行している実感から、地域とのつながりや地域福祉活動の必要性は理解しているが、具体的に何をすることが大切なのか、地域福祉活動の理解を進める声が聞かれる。

意見	年齢	居住地区
◇ 地域に若い人が少なく、将来も安心して暮らせる見通しが無い。地区の仕事とかやる人は、いつも同じだなと思う。地域活動の限界を感じる。	30～39歳	日の出
◇ 社会福祉法人勤務の為、イベント時のボランティア派遣の際に大変お世話になりました。ボランティアさんの受け入れは、入所している利用者さんにとっても、外部の方と関わる貴重な機会です。コロナ禍で色々な制限がある中ですが、様々な方にボランティア内容を知って頂き、福祉の仕事についても興味を持って頂けるように、広く周知して頂ければと思います。	30～39歳	潮来第二
◇ 市はもっと弱い人たちを守っていただきたい。やはり他人事だと思っているのかな？と、感じる場合があります。心が痛いときもあります。困っている人たちもたくさんいると思います。どうぞお願いいたします。	40～49歳	日の出
◇ いまいちピンときませんでした。地域、住民、市役所が協力して少しでも潮来に住んでよかったと思えるような福祉の充実ができればいいなと思っています。自分たちの心構えも大事だなとアンケートを書いています。	50～59歳	潮来第二
◇ まだ、家族が福祉にはお世話になっていませんが、地域福祉に色々制度や活動があることがわかりました。	50～59歳	牛堀
◇ 住んでいるマンションのどこに誰が住んでいるのかわからず、何かあった時、不安です。困っていることを聞いて、支援のコーディネートをしてもらえると「気にかけてくれる人がいること」「何かあった時の連絡先」がわかって安心します。	50～59歳	潮来第一
◇ 地域の人と助け合っていくのは大変だと思いますが、今は、プライバシーとか、人付き合いも近所より職場の人だったり、人と付き合わない人だったり昔とは時代が変わってきて、個人主義で寂しい気もします。なので、助けてほしくても言えなかったり、方法がわからなかったり、恥ずかしかったりして手遅れになることもあると思います。高齢の人はインターネットやスマホも難しく、がまんしてしまう所もあると思います。助けが必要な時に、良い方法があれば良いなと思います。	50～59歳	日の出
◇ 潮来市は自然豊かで比較的災害の少ない住みやすい町だと思う。しかし、将来を考えると職業の選択肢が少なく、若者、子どもが定住するには課題が多いと思う。文化的・教育的施設が少なく夢や希望を広げる、育てる活力がわからない。現在はコロナ禍の影響を受け経済的に厳しい中で個々の生活維持も大変であり、助け合い精神も難しい。ボランティア活動を例にあげても地域の清掃活動などはいつも同じ人の参加状況である。	60～69歳	潮来第一
◇ 福祉をする側、受ける側と様々な環境のもと、自分が健康でいる時は福祉について考えることはなかった。地区の役職で多くの住民と話をした時、いずれ福祉を受ける側になるのであれば、今出来る福祉の知識を得て、やりがいのある人生にしたいと思う。	60～69歳	潮来第一
◇ 現在まで社会福祉や地域貢献活動について考える機会も無く過ごして来ました。今回少しでも知る事が出来た事は多少の進歩と思われれます。	60～69歳	潮来第二

(地域福祉活動について)

意見	年齢	居住地区
◇ 市民と行政がお互いに助け合いながら市を盛り上げていくことが安心して生活できることかと思えます。アンケートもいいのですが、市民の生の声を聞くことが大事なことかと思えます。潮来市が良くなることを影ながら応援したいと思えます。	70～79歳	日の出
◇ 市に対して、①『できない』ではなく、“どの様にすればいいのか”の姿勢への転換。行政は民間に比べガバナンスができていない。②ボランティア団体について補助金が出ている団体と無償の団体がある。線引きは？有効な使い方またチェック体制を。③ボランティア活動に対し若い人が参加出来る環境をつくってほしい。経験も大事ですが、同じ人が何年も続けてリーダー（会長）になっているのではなく若い人にバトンタッチすべきです。④ボランティア団体の補助金は税金です。役員の食事代やおみやげ代に使われている現状も実際聞いています。補助金の出ない団体は会員自ら会費を払い、さらに工夫しながら活動資金を捻出して活動費にあてています。この差と矛盾は理解できなく危惧しております。市民が互いに思いやりをもって、“まちに住んでいてよかった”“住んでみたい町”へ変わるよう行政がまず見本を示すことを期待します。	70～79歳	潮来第一
◇ 従業員不足。最近、ボランティア不足もあるのではと思う。50～60代が理想だが、この年齢ではまだ働いて収入を得たいだろうし、70代が活躍するときと思うが体力的限界がある。一番、今難しい時期と思うが、自分の天職を生かしたり、興味を持つものに参加してもらったり、ボランティアが少しでも楽しくできるアイデアを出してください。	70～79歳	日の出
◇ 地域福祉の充実は、重要なことでもありますので今後ともよろしく願います。	70～79歳	潮来第一
◇ ボランティア活動に参加することはないが、古新聞や段ボール、雑誌など少しはボランティアに協力しています。活動に参加したことがないので、評価のところは分かりません。	70～79歳	潮来第二
◇ 民生委員・児童委員は厚生労働大臣から委嘱され、地域において住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めなければならないのではないかと思います。現在の民生委員は、民生委員の活動（内容）を理解していないのではないかと思います。活動している様子がありません。指導をお願いします。	70～79歳	潮来第二
◇ 問題点を地域で協議していく体制づくりを求めます。個人でできないことへの意識の開発などを説明していく事業など？	70～79歳	日の出
◇ 地区によって民生委員さんの欠員があります。老人には必要としますので欠員を無くしてほしいです。	80歳以上	潮来第一
◇ 福祉のあり方として、行政と市民が協力しながら理想だと思うが、現状は独居・高齢夫婦世帯が多く、地域で支え合うだけの自力・基盤が弱い。決め細かな温かい包括的援助ができるよう、行政のリーダーシップが必須である。集団にパワーがないときでも、リーダーしだいで思わぬ力が発揮できるように思う。福祉サービスは、心の萎縮→身体能力低下→脳活動低下のように弱い立場（障害者、高齢者、小児等）被援助者の意志不在の関わり方や、援助者の高圧的態度、同調強制などあってはならないと思う。公平平等な施策の基、具体的には千差万別の個別ニーズに合わせる事が大切だと思う。目的達成するためにはマンパワー（教育を含む）の拡充。民間施設の拡充・内容充実が望まれる。	80歳以上	潮来第一
◇ 部落単位の集会。小さい輪を広げ現実的には暇を作る人に集まってもらい、市の福祉の指導でグループの輪を徐々に大きくして、社会福祉協議会が核になり、具体的な小さい問題からそれぞれ各人の周りの輪を大きくし、グループ員が同じ方向を向けるように問題がいい方に向かえばいい。	80歳以上	潮来第二
◇ 民生委員の活動が少ない。	80歳以上	日の出

【福祉の理解について】

いざ支援が必要になった時に、どこにどのような相談して情報を得られるかなど、福祉制度の情報の広報やPRを進めて欲しいとの意見が聞かれる。

意見	年齢	居住地区
◇ 今どんな制度があるか、どんな時に使えるか、分かりやすく表したポスター、チラシなどがあるといい。いざという時、どこに声をあげたらいいのかわからない。	30～39歳	牛堀
◇ こういうことやってるよ、という活動のPRをもっとした方がいいかと思えます。	30～39歳	日の出
◇ アンケートが長い。文書が難しくよくわからない。	40～49歳	潮来第二
◇ 質問が難しかった。	40～49歳	牛堀
◇ 今回のアンケートを受けて、自分が知らないだけで申請・相談すれば受けられるサービスや福祉がたくさんあるのかもしれないと思いました。	40～49歳	日の出
◇ 無知ですみません。全く情報を得ていません。	50～59歳	潮来第二
◇ 市の活動内容がよくわからない。相談をしてもその後につながらない。	50～59歳	牛堀
◇ 市民に活動内容が伝わるよう広報などに掲載していただきたい。	50～59歳	潮来第一
◇ お世話になったことがあるので、とても福祉はありがたいと思っております。	50～59歳	牛堀
◇ 今回、アンケートに協力させていただきました。統計調査、集計等が済んでからで結構ですので、個人にフィードバック願います。ご連絡お待ちしております。	50～59歳	牛堀
◇ 今回、福祉活動で、市と社協の関係や、それぞれの活動内容をほぼ知らずに回答しました。矛盾した回答もあったかもしれません。失礼しました。	50～59歳	日の出
◇ 難しい問題ではありますが、今後、大切だと思っておりますので宜しくお願いいたします。	50～59歳	日の出
◇ まだ、働いているため、私自身情報があっても理解していないかもしれませんが、これから先の人生には大切なことと思っております。	60～69歳	潮来第一
◇ 今の時点で自分があまり福祉に対して、携わっていないためよくわかりません。でも自分なりに考えてみたいと思いました。	60～69歳	潮来第一
◇ アンケートの目的が、ボランティア参加要請なのか、サービスを受ける側とするのか曖昧。	60～69歳	日の出
◇ 潮来市と社会福祉協議会の取り組み内容が不透明だったため、アンケートに回答することができませんでした。毎回、同じようなアンケートを行っても進展が期待できないように感じます。具体的にどのような取り組みが行われているのか、それによってどんな成果や問題点が生じているのか。例えば、相談案件が何件あり、どのような対応がなされたかなどの情報をまとめた一覧表があれば理解しやすくなり、前向きな回答ができると思います。	60～69歳	日の出
◇ 現在、とりあえず、お世話にならない生活をしてはいますが、この先、必ずやってくる道だと思っておりますので、その時は親切にわかりやすくご指導ください。	70～79歳	潮来第二
◇ 福祉全般については、当事者にならないと内容がわからない。私も現在健康で生活は普通にできるので不自由は感じないが、何か起こったときには自分で動けなくなるのに詳しい情報が理解できていないので何もできない状態になりそうだ。高齢者の枠に入った人たちには事例をあげてどのような制度があり、どのように利用するか分かりやすく説明等の入った冊子などがほしい。	70～79歳	潮来第二
◇ 仕事の内容等をもっとアピールしてほしい。	70～79歳	潮来第一
◇ 勉強不足ですみません！	70～79歳	日の出

(地域の理解について)

意見	年齢	居住地区
◇ 福祉に関しての困った事や相談事等の具体例と解決策を細やかに教えて頂きたい	70～79歳	潮来第一
◇ 近い未来に受け手となる福祉について、いまだ真剣に考えておらず勉強不足でした。機会をみて学び、そして生かせるようにしたいです。	70～79歳	牛堀
◇ 広報の方法の改善。現状では情報収集は受け手の責任と受け取られかねない。	70～79歳	日の出
◇ 70歳までは市や社会福祉に関心もなかったのだが80歳以上になると安心できる。	80歳以上	潮来第二
◇ 活動内容の理解が低いと自分自身で思う。	80歳以上	潮来第一
◇ 現在、83歳なので現役で仕事をしておりますので、子どもたちと同居のため、各項目で理解できないところもありました。	80歳以上	潮来第一
◇ 項目が多すぎて質問の終わりの方が答えにくかった。	80歳以上	牛堀
◇ 問26、問27について考えたこともないし、福祉に熟知していないので評価ができない。	80歳以上	牛堀
◇ 福祉に関すること、今までわからないことばかりでした(84歳)。	80歳以上	潮来第一
◇ 制度の充実を図っても、個人的にとっても性格の悪い人がいて困っている。	80歳以上	日の出

【児童福祉・子育て支援について】

若者や次世代を担う子どもたちへの支援に力を入れて欲しいとの声が聞かれる。

意見	年齢	居住地区
◇ 地区ごとに子供を対象とした企画を開催したらいいと思う！そこで、元気な御年寄が中心となって教え合い、子供とのつながりが親との繋がりになり、活性化するのではないかな。レクリエーションインストラクターの資格があるから、地域を対象とした遊びを企画したい！	18～29歳	潮来第一
◇ 全国的にみても思うが若者の出会いがなく、それはお金でもない。場所がない。そのせいで出生率は下がり続けている。このままでは人口が減るぞ！生まれた子供を支援するのも構わないが、まだ未婚の男女も支援しろ！俺からすれば、国・県・市に見捨てられた一生独身のまま死ねというのか？人生は一度しかない。すべての独身(結婚願望のある)の若者を救済せよ！	18～29歳	潮来第一
◇ 社会福祉の中でも保育に関しても力を入れていただきたい。子どもに対しての援助だけでなく保育士へも。保育士がいないと保育園が成り立たないと思うので、家庭だけでなく、保育士が仕事を続けやすいよう環境を整えて頂きたい。	18～29歳	潮来第二
◇ 年寄りの方々も大事だけど、子供達が楽しめるような行事や体験があってもいいと思う。公園の草が凄すぎるし、遊具も大きいものがあってもいいと思う。ジムや習い事(クラブ)みたいなものも色々あると交流がもっと深められそう。	30～39歳	日の出
◇ 次世代への投資！	40～49歳	潮来第一
◇ 私は母子家庭の母親です。息子が高3で大学受験を検討しています。今の私の収入では大学の入学金を貯金する事すら必死です。奨学金を借りても手元に来るのは5月過ぎですので、前期の授業料を払うことも難しい。せめて、18歳の受験生を支援する取り組みがあるととてもありがたいです。ご検討いただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。	40～49歳	日の出

(児童福祉・子育て支援について)

意見	年齢	居住地区
◇ 生活貧弱家庭をピックアップして支援してほしい。子供食堂も月に1回「どなたでもどうぞ」では、支援にはならない。困窮家庭だけに手助けしてほしい。	60～69歳	潮来第二
◇ 若い世代がないので転入者が増えるような地域の魅力を高める工夫がもっと必要だと思う。将来的に後継のいなくなる土地・建物について生前に譲渡の意志を示し、所有者不明土地や空き家を有効活用して移住者を呼び込めるようにしたり、潮来市で新事業を始める人、子育てをする人への補助を充実させていったりしてほしい。	60～69歳	牛堀
◇ ひとり親世帯で子供が経済的に困っていること、教育も恵まれないこと。何とか安心して生きて行けることを切に思っています。貧すれば鈍す。気づかずにいる方々もおるかもしれません。若い、これからの人、年輩、これまでの人それぞれが分相応の福祉に恵まれることを願います。	70～79歳	潮来第一

【高齢者福祉について】

一人暮らし高齢者に対する支援や、移動手段の確保に関する意見が多い。

意見	年齢	居住地区
◇ 介護事業に携わっています。介護職の人材不足が進んでいます。地域介護ヘルパーの取り組みに力をいれている市町村もあります。地域で支え合う体制が構築される事を願います。	40～49歳	潮来第一
◇ 我々は日中働きに出ているため、一人母を残すので、なかなか相手が出来ずにいます。何とかしてあげたいけど…。しかし、本人が外に出ないので難しいかな。	50～59歳	潮来第一
◇ 移動手段のない高齢者のため、ヘルスランドさくらへの送迎を考えてください。利用したい方がたくさんいます！！近所にも80歳を過ぎた一人暮らしの女性がおります。新聞もとっていません。安否確認が必要と思われれます。ヤクルト、牛乳など何かおすすめていただきたい。	50～59歳	牛堀
◇ おひとり様の高齢者の就活（エンディングノート）を管理し、希望を支援する制度があると良いかと思う。その人その人、それぞれ亡くなった後のことまで管理する。先日、テレビで豊島区（東京都）の取り組みが放送されていました。社会人をリタイヤしたら、豊島区住民になりたい！と素直に思いました。潮来市もそうなってほしいです。	60～69歳	潮来第二
◇ オムツ券支給のあり方について、いまどき民生委員の印鑑が必要なのか。理解できない。デリケートなことで当人の事も考慮していただきたい。	60～69歳	潮来第一
◇ ひとり暮らし高齢者が増加する中で、地域の中で集まれるサロンの提案や市民の主体的な活動の支援をお願いしたいです。	60～69歳	牛堀
◇ 60代の低収入のひとり暮らしが生活できるような対策を考えて欲しい。	60～69歳	潮来第一
◇ 自宅で介護しているが、病院代も高いし、訪問看護、介護用品などお金がかかる。年金は親と自分で5万ぐらいなのに税金はたくさん色々できて払いきれない。子どもも介護を手伝い、仕事もついていないし、ローンも借金もあって、税金は否応なく苦し督促も苦し、食べ物も変えないぐらい…。もう死んだ方がいいと思う時もある。	60～69歳	潮来第一
◇ 先日、テレビでとりあげていましたが、北茨城の市内での「有償ボランティアの制度」がとてもいいと思いました。①働きたい高齢者の生きがいになっていること。②人手が足りない施設や事業者が助かること。そのために工夫されていることは①仕事の内容が細かく具体的にわかりやすく書いてある。③週2時間だけやっているなど自分のペースでできる。④時給がいただける。もっと他にも制度のアイデアがあると思いますが、ご検討をお願いします。シルバーさんの組織とは全く違います。	60～69歳	潮来第二

(高齢者福祉について)

意見	年齢	居住地区
◇ 介護施設の入居。30年以上前、父親が病院からの紹介で近くは順番待ちなので、神栖の施設へ見学に行きました。不足はなかったのですが、母親が見舞いするためには遠いのと、交通の便が悪いので諦めました。高齢化の中、今でも順番待ちなのでしょうか。在宅や老々介護、独居に不安はないのでしょうか。	70～79歳	潮来第一
◇ 地域福祉はだれでも口にする甘い優しい言葉ではありますが、一番最初に切り捨てられる問題でもあると思います。私たち夫婦も年を重ね、高齢者や障害者等、声をあげて辛い弱者と呼ばれるに至りましたが周りには私たち以上の高齢者や一人暮らし高齢者がたくさんいる現状です。私たちの住まう所では俗に買い物難民地区と呼ばれ、近くに病院もなく、車を持たない者にとって生活環境は劣悪ですが、タクシー券配布はとても良かったと思います。福祉は大変だとは思いますが、これからも行政と市民の協力体制をしっかりと組み、安心して暮らせるまちづくりを行ってください。	70～79歳	潮来第一
◇ この7月に79歳を迎えることができました。今まではこれといったケガや病気もせずに参りましたが、この先お世話になることがあるかもしれません。その時は宜しくお願いします。	70～79歳	日の出
◇ 毎年同じ行事をするとき、前回の反省をしているのでしょうか。人権を傷つけられたことが2回ありました。高齢者が増えたので参加しなくなって忘れ去れているのでしょうか。悲しいです。ヘルパーさんに個人情報平気で言う人がいて、いやな思いを現在もしています。暑い中、ご活躍している人もいらっしゃるの頭が下がります。	70～79歳	牛堀
◇ 私は79歳後期高齢者です。現在、自分のことは自分でできます。家族も一緒に生活していますので、病気になったときは相談できます。その先は、社会福祉課にお世話になります。認知症にならないように努力します。	70～79歳	牛堀
◇ 今、一番困っているのは高齢者になって運転できない時、交通機関がないので近くにタクシー会社や市営バスがほしいと思うようになりました。	70～79歳	牛堀
◇ 高齢者が多くなっていく中で、行政も人的に多くの高齢者をフォローすることが大変だと思います。特に一人暮らし高齢者への対応が連絡等難しいと思いますが、体力、思考能力の老化など当事者だけでは大変です。本人の努力と自助努力認識が不十分な点を行政にお願いしたいです。	70～79歳	日の出
◇ 高齢のため、これから支援が必要になってきます。家族だけではできないので、市を窓口として指導していただくと安心です。	70～79歳	潮来第二
◇ 高齢者タクシー利用料金助成を頂いております。感謝しております。実際には利用制限があるので不便を感じています。特に、1回に1枚だけの利用ではどこにも行けません。差額料金を払うことは経済的に出来ませんので、券を自由に使えたらと思っています。このことを考えていただけたらと願っています。ご検討いただけたら嬉しく思います。	80歳以上	牛堀
◇ 高齢とはいえ、まだ身近に関係する者もなく、適切な答えとはなっていませんが、よろしく願います。	80歳以上	潮来第一
◇ 一人住まいの方の安否の声かけや手助けなどをしていただけたら安心して生活できます。又、タクシー券などは大変助かっています。	80歳以上	潮来第二

【障がい福祉について】

見た目ではわからない障がい者への理解を求める意見がある。

意見	年齢	居住地区
◇ 見てわかる障害者への支援はもちろん必要ですが、見てわからない障害者（精神的な）への支援がもっとわかりやすく（病院などの提携など）していただけるのなら通院しやすいかと思います。	40～49歳	潮来第一
◇ 市役所の年金か税金の手続きをすところ、うちの娘（軽い知的障害）が何も良く分からないのに親身になって教えてくれなかったそうです。見た目は健常者と変わらないけど中身は知能が低いのですごく荒れて帰ってきました。もう3～4年前の話です。そういうところを話し合っ直していただきたい。	50～59歳	潮来第二

【保健・医療について】

加齢とともに病気や健康への不安が高まり、往診してくれる医療機関や病院等があれば安心との声が聞かれる。

意見	年齢	居住地区
◇ 現在、40代で70代の親がおり、ガンの治療中です。同居はしておらず年間36万円程度の年金では治療費が払えず、子供に負担が来る。医療費の貸付制度は70歳でも利用できますか？千葉まで30日間、毎日通い放射線治療を受けたが交通費が高かった。その時の補助金などはありますか？	40～49歳	潮来第一
◇ ・今、がんの治療を受けており、高額療養費の限度額適用制度に助けられています。感謝ですが、毎月、領収書を持参して市役所での手続きがあります。高額療養を受けているということは、体が思わしくないということなので、何とか郵送で手続きできるようにしていただけたらありがたい。 ・広報などで地域おこし協力隊の方の記事を読み、潮来出身でないのに3人の方が頑張ってくださっている様子に感動しています。私は特に“日本一の水路のまち”を目指してのサップによる試みに興味があります。	60～69歳	潮来第一
◇ 運動、食事、社会活動は元気の源です。目的を個々の毎日に促すことが大事と考えます。例えば食事。外食を気軽にできるよう、各店舗にも対応メニューを考えてもらう。健康保険証に茨城県の地域券（割引）を合体するとか。食事会、観光案内、街並み整備（社会福祉です）。	70～79歳	潮来第一
◇ ・医療体制の構築（優先課題）。医療体制の充実、総合病院誘致が毎回言われるが具体的に何も変わっていない。どのように進めているかも全く情報なし。 ・福祉巡回バスのダイナミックな施策。人が乗っていない状況でなぜ運行？←非効率。乗り合い巡回タクシー、ダイヤ編成、巡回経路、福祉バスの位置が発信できるシステム構築。高齢者のひきこもり策も。情報を開示教えてください。	70～79歳	日の出
◇ 何事でも人に頼ることをしないタイプの自分なので、積極的に参加することは少ないが、年齢とともに福祉の方々の活動、言動を見聞きする機会が多くなってきました。聞く側の立場で理解を深めて、皆様方の足手まといにならないようにしたいと思っています。福祉を受けるということは、皆の負担になることが多いので、ピンコロになれるよう、自身も健康に留意したいと思っています。	70～79歳	潮来第二

(保健・医療について)

意見	年齢	居住地区
◇ 親族の近くに最近引っ越してきて、潮来市の住民になりました。年老いて、今後動けなくなっていく中で、医療機関や福祉事業については、最大の関心事です。町内会に入っていないため、市の情報等、目にする機会が少ないことが少し不安です。	70～79 歳	潮来第一
◇ 潮来市で何科でも診察してもらえる大きな病院があれば一か所でそっちこっち歩かずにすみますが、年齢とともに強く感じるようになりました。住みよい潮来市であってほしいから。	80 歳以上	潮来第二
◇ 高齢者、乳幼児などに往診してくれる病院の先生がいてくれると助かると思います。通院するのに家族に送迎してもらわなければ病院に行けない人が多いと思います。	80 歳以上	牛堀
◇ ボランティアは非常に大切ですが、健康じゃないと…。私自身 30 年前までそう思っていました。今は病魔におかされて、乳がん、膀胱がん、ヘルペス、狭心症、肺気腫と病魔におかされて 85 歳の自分の身体との戦いで精一杯です。いつも皆様ご苦勞様です。感謝しています。	80 歳以上	日の出
◇ 現在、二人暮らし。主人は入院中のため孤立感あり。相談する人なし。病院までタクシー。経済的に厳しい。往復 25,000 円位かかる。このような相談を受けてくれるところがほしい。	80 歳以上	日の出

【社会福祉協議会について】

社会福祉協議会の活動内容が知られておらず、周知が必要との声が聞かれる。

意見	年齢	居住地区
◇ 地域の小中高等学校で社会福祉協議会での活動内容や協議会内にある地域包括支援センターの役割など若者に潮来市がどのように福祉問題に取り組んでいるのかわかるような広報活動の一環として講義のようなものを実施していただけたらと多分若者が潮来市に興味を持つきっかけとなったり、多くの意見があるのではないかと考えます。	18～29 歳	潮来第一
◇ 社会福祉協議会の運営で「住民の会費等によって運営されている」ことを私は知りませんでした。福祉、ボランティア、介護保険、障害福祉などと、特に「成年後見制度」まで私の年ではこれから重要なこととお世話になるかと思しますので頑張ってもらいたい。	60～69 歳	不明
◇ 社会福祉協議会でお世話になった事があります。大変な仕事だと思いました。市民の声に耳をかたむけ、親身になってくれたこと感謝しています。	60～69 歳	潮来第二
◇ 自分に関わりがなければ全く社協の存在や役割等を知りませんでした。その場において、とても親切に指導くださっているので、助かっておりますが、もう少し具体的にこういう場面では〇〇も〇〇もあります！という説明を詳しく教えていただけたら良かったなと思っております。	60～69 歳	牛堀
◇ 市民に寄り添った社会福祉の活動を願います。	60～69 歳	潮来第一
◇ いつ、どんな時にどのように市や社会福祉協議会へ相談したら良いのか、わかりやすく広報してほしいです。	60～69 歳	潮来第二
◇ 社会福祉協議会では母の介護で大変お世話になっています。	70～79 歳	潮来第二
◇ 社会福祉協議会が他ボランティア活動と協力する行動力に期待したい。社協が行動しないと前に進まない。学校の OB は NO サンキューです。民間人をいかに活用するかでしょう。	70～79 歳	潮来第一
◇ 法律相談を利用したことがある。その時対応した弁護士？の横柄な態度に二度と来るか！と思った。質の悪い相談員はいらない。人選はもっと厳しくすること。ただ「やっています」だけではダメ！	70～79 歳	潮来第一

(社会福祉協議会について)

意見	年齢	居住地区
◇ 社会福祉協議会について、どれくらい理解している人がいるか？もっと「社協」について、市民に広報していく必要があると思う。細かい啓発活動をお願いします。	70～79 歳	潮来第二
◇ 今後、社協が重要なところになっていくと思いますが、どういう仕事をしているところか、まだまだ市民に理解されていることが少ないと思います。	70～79 歳	潮来第一
◇ いろいろなイベント等を数多く行えば、隣近所を誘い合い家から出る機会が増えるから、係の人は大変でしょうがやってほしい。	80 歳以上	牛堀
◇ 社会福祉協議会への要望として、レトルトカレーとか、ふりかけとか、カップ袋めんなど、かんぱん、コメも含めて種類は増やすべきだと思います。	不明	不明

【まちづくり全般について】

人口減少の中で、次世代につながる、だれもが安心して暮らせるまちづくりを進めて欲しい。空き地やごみ問題、道路の街灯、公園の整備、移動手段など生活課題の改善を望む声も多い。

意見	年齢	居住地区
◇ どうして潮来市から若者や人がいなくなっているのですか？潮来市に魅力がないから。働く場所がないから。様々な理由があると思います。昨年度もこのようなアンケートを書きましたが何も変わってないと思います。返事まっています。理由を聞かせてください。	18～29 歳	日の出
◇ ・公園など子どもたちが自由に遊べる場所が少ない。公園は整備されていないところが多く、神栖や鹿嶋市の公園にわざわざ行っている。公園の整備、充実をお願いしたい。・空き家が多い。崩れそうなところも多々見受けられる。通学路にもそういった建物があるのは問題ではないか。対策、対応などお願いしたい。	30～39 歳	潮来第二
◇ 色々な人の立場になりお年寄りも子供たちもみんなが暮らしやすい潮来市になって欲しいと思います。地域の中で、もっと気軽にみんなが交流できる場所があれば良いと思います。神栖市にある防災公園のような安全に子供たちが遊べる広い空間が潮来市に最低1つはあっても良いと思います。自然とみんなが集まれる交流できる、そんな場所があれば交流が増え、お年寄り、子育て世代の親や子、孤立してしまう人が1人でも少なくなるような温かい潮来市になってほしいです。	30～39 歳	潮来第二
◇ ゴミ捨て場がなくて困っていると言ったら、近くの住民に聞いてくれと丸投げされた。これ以上、ゴミの収集場所は増やせないと言われとても最悪でした。4月から町内会に入ったが、とても嫌です。デメリットしかない。祭りはやらないと言っているのにやらせようとしたり、祭りはやらなくてもこの地域に住んでいるから 27,000 円集金しますと言われた。子供もいてお金がかかって家計はギリギリでやっているのに理解もしてもらえない。夏休み、子供のために使うはずだったお金を地域の祭りのために使い、子供を悲しませてしまいました。こんなことを許している潮来市はどうかと思います。全然、子どもに優しくない。	30～39 歳	潮来第一
◇ 引越ししてきたばかりであり潮来市についてわかりませんが、車での移動が多い地域かと存じます。道路が狭かったり見通しが悪かったり、ミラーが少ないと感じることが多々あります。通学路付近だけでも、ミラーを増やす等見直しをして頂けたら幸いです。	30～39 歳	潮来第二
◇ 消防団の活動の中の歓迎会は問題だと思う。家族は活動のためと思い送り出しているのに、そのような場で家族を裏切る様な行為をしているのが信じられない。そのような人たちと今後も関わりを続けていけないといけないと思うと、住み続けることに不安がある。子供にも悪影響の環境である。	30～39 歳	潮来第一

(まちづくり全般について)

意見	年齢	居住地区
◇ 観光も与田浦や佐原にとられる町。農家だけの町と化している実情。古い議員に牛耳られている様子では人も町も荒れるのが実情である。	40～49歳	日の出
◇ 空き地が家の前にある。一定のご近所の人が草むしり、自腹で除草剤を買っている。市役所に相談しても知らんぷり。どうかしてください。	40～49歳	潮来第二
◇ 今の世の中、生活が困難な方は非課税世帯以外にも多々あります。非課税世帯、ひとり親世帯以外にも給付金の支給があれば助かると思う。潮来市は水道代が高いと有名で、何かと生活し辛い。	40～49歳	日の出
◇ 医療機関の充実、潮来インター周辺活性化、公共施設（公園、競技場など）の充実、などが全く整備されているとは思えない。 住み難く、都心まで遠くはないが、新規住人が集まれる地区にはほど遠い。 少子化対策や福祉にも充実してほしい。言いたいことが有りすぎる。	40～49歳	潮来第二
◇ 市に要望 福祉、介護、教育は今後とも非常に重要課題である。しかしながら、潮来市の財政も大きな負担になる。先ず潮来市に必要なのは雇用が生まれる産業です。小規模企業をサポートしつつ。	40～49歳	牛堀
◇ 難しいことは言えませんが、潮来市民がより良く暮らせるようお願いしたいと思います。 よろしくお願いします。	40～49歳	潮来第一
◇ 日の出地区の区加入者はどんどんと減る一方。システムを変えるべき。潮来地区の祭費が高すぎる。祭り不参加の負担を減らすべき。 アイモア跡地、大黒天など中国野菜工場ばかり。町に活気なし！	50～59歳	日の出
◇ 広報紙は必ず読んでいるのに福祉の取り組みが全く分かっていませんでした。上戸川のコスモス畑の側に住んでいます。道路わき側溝にコンクリートかアスファルト片が落ちていて水が流れていません。もともとつまってなくてもすぐ水があふれるので大雨が心配です。汚れもどんどんたまっていきます。私ではとれないのでお願いいたします。	50～59歳	牛堀
◇ 転居間もないため、市の活動がまだよくわかりません。高齢者の病院受診のためのバスがあると助かります。	50～59歳	潮来第一
◇ 若年世帯定住促進助成金について。 32歳夫婦が鹿嶋より中古物件を購入して8月に潮来市に引越ししてきます。しかし、築30年だと助成金はいただけないとの事。ずーっと50年以上住み続けるのに線引きは不満。	50～59歳	潮来第一
◇ 色々な面で、お金の支援より無料の方が助かる。市が小さいから無理かもしれないが。	50～59歳	潮来第一
◇ 未成年、高齢者の支援ばかり。中高年でも経済的に困っている。苦しいのに何も考えてくれない。	50～59歳	牛堀
◇ 地域の住民が安心して暮らせる町づくりをお願いしたい。	50～59歳	牛堀
◇ 何か困っても市は予算の関係で言い訳ばかりしている。民間は困ったことを相談したら、その日のうちに次の手を打って行動してくれる。市役所は困っても助けてくれないと感じている。今後も困ったら市ではなく、民間の会社に相談しに行こうと思う。税金は義務で払っているが、市は民間から多くを学ぶべきだと思う。	50～59歳	潮来第一
◇ 来た人の相談に乗るのは当たり前。市から家庭に直接働きかけられなければ問題は見えてこないのでは？	50～59歳	日の出
◇ 潮来市内を巡回するバスを復活させてほしい（以前の道の駅のバス）。タクシー券を配っても人と人の交流がない。で行っている行事や活動など何でもすべてに言えることは中途半端に思えます。	60～69歳	潮来第一
◇ ・地区の組合に無理に加入させるように訪問させないでほしい。 ・祭りなどの寄付を強制しないでほしい。 ・日々の生活をするだけで精一杯である人がいることを理解してほしい。	60～69歳	潮来第一
◇ 市職員の無能さ、怠慢。市職員としての教育の徹底。	60～69歳	潮来第一

(まちづくり全般について)

意見	年齢	居住地区
◇ 市民として貢献したくても、職員さんの意欲と力次第で生かされない現状があります。頑張ってください。	60～69歳	潮来第一
◇ 現在、日の出地区ではゴミ出す場所はまちまちですが、生ごみの日などはカラスに荒らされ道路に散乱し、大きなアミは個人から寄付された物も今は大きな穴があいて大変困っています。アミ等配布いただければ良いのですがお願いします。	60～69歳	日の出
◇ 生活道路際に山林、原野、畑などからはみ出している木などを常に巡回して伐採し通りやすい道路にさせていただきたい。	60～69歳	牛堀
◇ メインの通りからはずれた道路の街灯が少なく、暗いのでその点を考えていただきたいです。	60～69歳	日の出
◇ 若者に働ける機会を。潮来市に住み続けられる仕事を何とかしてほしい。若者（男女）の出会いの機会づくりをしてほしい。	60～69歳	牛堀
◇ 2011年の東日本大震災の被害に合いました。それまでは積極的に地区の活動にも参加していましたが、いざ被災すると地区の助け合いなどは全くなく、すべて自己責任で立て直ししなければならないとわかり、地域のつながりの薄さに失望しました。その経験から市や社協は地域よりも個人個人に対する援助に力を入れてほしいと思います。	60～69歳	日の出
◇ いまだに地域の組合が大事なように思われているが、現在、子どもが少なく老人の社会で人口が減少していく中で、もっと地域を大きく考えることが必要だと思います。ボランティア活動、趣味、スポーツなどを通して全員が参加できる生涯現役な社会づくりが必要だと思います。市の職員の方の力が重要です。	60～69歳	牛堀
◇ 市内に過疎化で限界集落又は後継者がなく、空き家になりつつあるところがあるので、そういう地域を市は管理し、都会からも割と近いので、里山体験ができるような施設をつくり、人を呼び込み、市を活性化し、雇用を増やし盛り上げていってほしいと思います。	60～69歳	潮来第二
◇ 市民が気軽に集まれる場を。公民館など使わせてほしい。廃校になった学校をうまく利用できるように。潮来市は活気のない市。将来不安あり。20年後どうなっているか、福祉など…。医療が充実しておらず現在のクリニック、医院は10年、20年後どうなっているか不安。	60～69歳	潮来第一
◇ 地域ごとの祭りを潮来市で統一し、市をあげて大々的に取り組み、市のアピール、活性化をするべきです。あやめ祭りももっと工夫し観光客を呼び込めるようにするべきです。福祉については、内容を知っている人のみが利用しているように感じます。もっとサービスを受けられる内容を分かりやすく知らせ、幅広く色々な人々に利用してもらうようにしてほしい。	60～69歳	潮来第一
◇ 交通手段の充実をお願いしたいです。無料のコミュニティバスがあれば良いと思う。	70～79歳	潮来第一
◇ 今は運転できているので、不自由さは感じていないが、運転できなくなった時の交通機関が充実していないので病院、買い物に不安を感じる。	70～79歳	潮来第一
◇ 日本全体としてもこれから人口減になってくるので、市としても何か対策をしていかないと取り残されてしまいますね…。	70～79歳	潮来第一
◇ 潮来市内を巡回するバスを復活させてほしい（以前の道の駅のバス）。タクシー券を配っても人と人の交流がない。	70～79歳	日の出
◇ 住宅地にある空き地について、猛暑のため、今年もミミズ、時にはヘビが出てきた。草を刈ってもらうか、消毒してもらいたい。子どもたちの通学の道になっているので環境に良くない。	70～79歳	日の出
◇ 自治会加入世帯を増やす努力をしてください！！何もしていないように思えます。	70～79歳	日の出

(まちづくり全般について)

意見	年齢	居住地区
◇ 種々活動を自治会に任せるのではなく市で積極的に行ってほしい。少子化でもあり、今までの習慣、祭りなど改革して新しく小規模なものに変えていく必要があると思う。	70～79歳	日の出
◇ 一人暮らしをしています。区を脱会し広報紙が入りません。新聞折込をお願いしたいです。(各機関にあるのは知っています)	70～79歳	潮来第二
◇ 行政の事務事業評価を行うことが必要。	70～79歳	潮来第二
◇ 職員の知識不足を感じます。教育が必要と思います。	70～79歳	日の出
◇ すぐ対応してほしい時、市役所の対応が遅れ気味。即実行でお願いしたい。相談する時は急ぎで困っている時だから。	70～79歳	潮来第二
◇ 何かと遅れている。行政としてイマイチ。隣の市町村と比較して悪いが職員の見識が足りない。これでは、潮来市は住みたい街にならない。	70～79歳	潮来第一
◇ 一人暮らしなので、福祉の方お世話になっています。たよりにしています。よろしくお願いします。	70～79歳	日の出
◇ 福祉に力を入れてがんばってください。	70～79歳	潮来第一
◇ 市で行っているバスの運行。乗車している方が、いつも少なく感じます。せっかく走っているバスなのにもったいない。利用者も高齢の方も多と思うので、距離に関係なく一律にして(200円～300円程度)できればと思います。ちなみにJRで潮来駅から鹿島神宮駅までの料金は210円です。	80歳以上	潮来第一
◇ 市へ。耕作者の高齢化により放置されている田畑が多くあります。食糧難に備え、これらの土地を活かしていくような組織づくりができませんか？ 社協へ。日々、市民の福祉のために苦勞しておられることに心より感謝申し上げます。	80歳以上	潮来第二
◇ 松戸市のような、すぐやる課があればうれしい。市道なのに草だらけ。又、何十年も市道も出来ていない。回覧板も廻せない。	80歳以上	潮来第二
◇ 私の住んでいる徳島は交通の便が悪く、買い物に行くのにタクシーを利用しなくてはならなくてとても不便です。できれば、コミュニティバスを1日2回ぐらい運行していただくと助かります。よろしく申し上げます。	80歳以上	潮来第二

(2) 地域役員アンケート

I あなた自身のことについて

問1 担当している地区は。(1つに○) ※区長と民生委員・児童委員を兼ねている方は、調査票ごとにそれぞれの立場でご回答ください。 回答者総数=109人

1. 区長	50 (45.9)	2. 民生委員・児童委員	59 (54.1)
			無回答
			0 (0.0)

問2 主に担当している地区のある中学校区は。(1つに○) 回答者総数=109人

1. 潮来第一中学校区	35 (32.1)	3. 日の出中学校区	20 (18.3)
2. 潮来第二中学校区	31 (28.4)	4. 牛堀中学校区	23 (21.1)
			無回答
			0 (0.0)

問3 現在、担当している地域役員の経験年数は。(1つに○) 回答者総数=109人

1. 1年未満	73 (67.0)	4. 6年以上9年未満	4 (3.7)
2. 1年以上3年未満	10 (9.2)	5. 9年以上12年未満	1 (0.9)
3. 3年以上6年未満	19 (17.4)	6. 12年以上	2 (1.8)
			無回答
			0 (0.0)

II 地域役員の活動について

問4 民生委員活動にやりがいを感じますか。(1つに○) 回答者総数=109人

1. とてもやりがいがある	13 (11.9)	3. どちらかといえば、やりがいがない	24 (22.0)
2. どちらかといえば、やりがいはある	71 (65.1)	4. まったくやりがいがない	0 (0.0)
			無回答
			1 (0.9)

問5 現在の地域役員の活動に負担を感じていますか。(1つに○) 回答者総数=109人

1. まったく負担を感じない	1 (0.9)	3. やや負担を感じる	74 (67.9)
2. あまり負担を感じない	15 (13.8)	4. とても負担を感じる	18 (16.5)
			無回答
			1 (0.9)

問6 お住まいの地域をみて、気になること、問題と感ずることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=109人

1. お祭りや行事の衰退	48 (44.0)	11. 施設や道路のバリアフリーの問題	15 (13.8)
2. 住民同士の交流機会の減少	56 (51.4)	12. 災害など非常時の協力体制に不安がある	42 (38.5)
3. 新旧住民の交流が少ない	37 (33.9)	13. 福祉に対する住民の理解が低い	28 (25.7)
4. 地域に子ども・若者が少ない	82 (75.2)	14. 高齢者の一人暮らしや母子家庭などが地域で孤立するケースがみられる	29 (26.6)
5. 地区の役員のなり手が不足	81 (74.3)	15. 子どもや高齢者等への虐待を懸念するケースがみられる	2 (1.8)
6. 地域組織のつながりが減少	36 (33.0)	16. 障がい者への支援が必要と思われるケースがみられる	4 (3.7)
7. 交通など移動手段の問題	31 (28.4)	17. その他 ()	13 (11.9)
8. 日常の買い物のしやすさ	20 (18.3)	18. とくにない	3 (2.8)
9. 防犯・治安・風紀の問題	11 (10.1)		
10. 地域の医療体制の問題	60 (55.0)		
		無回答	0 (0.0)

Ⅲ 安心して暮らせる福祉のまちづくりについて

問7 あなたは「地域共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

回答者総数=109人

1. 理解している	26 (23.9)	3. 知らなかった	24 (22.0)
2. 聞いたことはある	58 (53.2)		
		無回答	1 (0.9)

問8 あなたは、「潮来市社会福祉協議会(社協)」をご存じですか。(1つに○) 回答者総数=109人

1. 名称も事務所の場所も知っている	93 (85.3)	3. 名称も場所も知らない	3 (2.8)
2. 名前は知っているが、場所は知らない	13 (11.9)		
		無回答	0 (0.0)

問9 地域福祉を推進するうえで、「社会福祉協議会」は重要な役割を担っています。あなたは、潮来市社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。(5つまで○) 回答者総数=109人

1. 様々な困りごとに対して、専門性の高い相談援助活動の充実	75 (68.8)
2. 地域の様々な関係機関と連携した福祉ネットワークの強化	70 (64.2)
3. 精神障がい者、発達障がい者、ひきこもりの方等への支援活動の充実	44 (40.4)
4. 権利擁護活動の充実	17 (15.6)
5. 「フードバンク活動」など生活困窮世帯への支援活動の充実	41 (37.6)
6. ボランティアセンターの環境整備や情報発信の強化	42 (38.5)
7. 市民との協働による福祉意識の向上や、ボランティア・コミュニティ活動の充実	43 (39.4)
8. 支え合い活動の充実	35 (32.1)
9. 災害ボランティアの受け入れ体制の整備	21 (19.3)
10. 学校や企業への福祉教育支援による福祉意識の土壌づくり	30 (27.5)
11. 時代のニーズに即応できる社協の組織体制の強化	43 (39.4)
12. その他 ()	3 (2.8)
13. とくにない	3 (2.8)
無回答	0 (0.0)

問10 福祉のニーズが多様化・複雑化しており、すべての人が安心して暮らし続けられる福祉のまちづくりが課題となっています。潮来市の福祉の取り組みについて、あなたはどのように評価しますか。(項目ごと1つずつ○)

回答者総数=109人

	1. 評価する	2. どちらかといえ ば評価する	3. どちらとも いえない	4. どちらかといえ ば評価しない	5. 評価しない	無回答
ア) 住民の困りごとを幅広く受け止め、丁寧できめ細かな相談支援体制	7 (6.4)	35 (32.1)	48 (44.0)	12 (11.0)	4 (3.7)	3 (2.8)
イ) ひきこもり状態にある人など、多様な社会参加に向けた支援	4 (3.7)	11 (10.1)	69 (63.3)	16 (14.7)	4 (3.7)	5 (4.6)
ウ) 地域の見守り活動など、市民の主体的な活動の支援	6 (5.5)	32 (29.4)	54 (49.5)	13 (11.9)	0 (0.0)	4 (3.7)
エ) 大規模地震や風水害等の災害時の避難行動要支援者対策の充実	6 (5.5)	26 (23.9)	52 (47.7)	21 (19.3)	1 (0.9)	3 (2.8)
オ) 地域で支え合う仕組みやきっかけづくり	1 (0.9)	17 (15.6)	69 (63.3)	16 (14.7)	2 (1.8)	4 (3.7)
カ) 地域住民が交流できる居場所づくりの充実	3 (2.8)	17 (15.6)	61 (56.0)	22 (20.2)	2 (1.8)	4 (3.7)
キ) 学習機会を通じた市民の福祉意識の向上	3 (2.8)	16 (14.7)	68 (62.4)	13 (11.9)	5 (4.6)	4 (3.7)
ク) 制度や福祉サービスの情報提供の充実	6 (5.5)	23 (21.1)	60 (55.0)	14 (12.8)	2 (1.8)	4 (3.7)
ケ) 福祉サービス提供事業者の充実	4 (3.7)	24 (22.0)	59 (54.1)	15 (13.8)	2 (1.8)	5 (4.6)

問11 潮来市の福祉の取り組みについて、今後、力を入れるべき施策はなんですか。

(項目ごと1つずつ)

回答者総数=109人

	1. とても重要	2. 重要 は重要 どちらかといえ	3. いえ ない どちらとも	4. 重要でない は重要でない どちらかといえ	5. 重要でない	無回答
ア) 住民の困りごとを幅広く受け止め、丁寧できめ細かな相談支援体制	43 (39.4)	49 (45.0)	15 (13.8)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)
イ) ひきこもり状態にある人など、多様な社会参加に向けた支援	28 (25.7)	51 (46.8)	27 (24.8)	2 (1.8)	0 (0.0)	1 (0.9)
ウ) 地域の見守り活動など、市民の主体的な活動の支援	38 (34.9)	50 (45.9)	19 (17.4)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)
エ) 大規模地震や風水害等の災害時の避難行動要支援者対策の充実	61 (56.0)	36 (33.0)	12 (11.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
オ) 地域で支え合う仕組みやきっかけづくり	38 (34.9)	47 (43.1)	22 (20.2)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)
カ) 地域住民が交流できる居場所づくりの充実	25 (22.9)	47 (43.1)	34 (31.2)	2 (1.8)	0 (0.0)	1 (0.9)
キ) 学習機会を通じた市民の福祉意識の向上	24 (22.0)	42 (38.5)	42 (38.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.9)
ク) 制度や福祉サービスの情報提供の充実	40 (36.7)	45 (41.3)	22 (20.2)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)
ケ) 福祉サービス提供事業者の充実	40 (36.7)	39 (35.8)	29 (26.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.9)

《区長の自由回答》

意見

- ◇ 会社勤めをしている人では、委員は無理がある。区長や民生委員を受けてくれる人がいない。
- ◇ あまりにもやるが多すぎます。また、仕事を持っている人に区長職はとてできない。
- ◇ 市役所とのやりとりが多い中、窓口業務が平日のみなので仕事をしながら区長をしていくのに苦労している。福祉に関しては多くの市民に活動の内容を知ってもらう工夫が必要だと思う。鹿嶋市、神栖市と比べると充実しているとは思えない。市民の血税を大切に使用してもらいたい。
- ◇ 仕事をもちながら役員としての活動の両立に、場合により負担となることがある。
- ◇ 区長としては、福祉関係の資料はみましたが、福祉担当課、社協、民生委員がどのような流れで民生委員が調査、補助金、オムツ券配布をしているのか分かりません。
- ◇ 次期、区長、民生委員を受けていただける人がいない。今後の区の運営が心配です。
- ◇ 従来からのやり方、手法にこだわり、新しい手法や効率化、簡略化をしようとする姿勢が見られない。本当にやるべきこと、潮来市がどのような形を目指すのかを考え、地域のリーダーは何を求められているかを明確にすべき。
- ◇ 今後ますます地域に密着した相互理解を持った活動を期待するものであります。
- ◇ 空き家が見られる。空き家対策が必要だと思います。また、ひとり暮らしの老人が増えつつあり、今後の支援体制づくりが重要であると考えます。宜しくお願いします。
- ◇ 少子高齢化対策「地域行事の改善、改革」はたして、うまくいくかどうか。年金生活者は区の付き合い（金銭的に）が難しくなっている。区に加入するメリットが感じられない。区離れに拍車？
- ◇ 市役所に用事があっても平日に対処することが難しい。
- ◇ 区長として参加を求められる行事が多いと思う。もう少し精査して見直しをしていただくと助かります。
- ◇ 地域住民の交流の場がほしいと思います。
- ◇ 非区民に対する対応をどのようにすればベストなのか判断ができない。
- ◇ 区役員のなり手がいない（役員の負担感が強い）。
区加入することによるメリット感がない。
- ◇ （地域によってずいぶん違ってくるとは思いますが…）他県から集まった人で構成されている「日の出」では、自治会の活動が他の地区より難しい部分が多いです。
[課題は]
・自治会（区）に入らなくても良いと思っている人が80%もいること。
・都会の人と同じように、集団化することを望まない人が多いという点。
・他地区では3世代の家族が多いが、日の出には少ない。歴史が浅いので何ともいえません。これから歴史が作られるのでしょうか。
- ◇ 巣立っていく子供達が、またふるさとへ戻ってきてくれるような環境づくりが課題であると感じています。

《民生委員の自由回答》

意見

- ◇ 市役所内の問題ではないと思うが、情報が縦割りになっており共有化されていない。個人情報、コンプライアンス保護も大切だと思うが役所内で情報共有すればもっと効率的な組織運営が出来ると思う（国からの指導があることをも理解できるが）。
- ◇ なり手不足ということは負担が大きいからと考えることができる。70歳まで働く人が多い中、活動日も多くそれらが改善できればと思う。私は忙しい中、民生委員を引き受けているので地域内の活動外の研修や出張、遠足、旅行は遠慮したいほどです。口には出せませんが…。活動しやすい工夫をお願いします。
- ◇ なり手がいない。委員の高齢化が甚だしい。
- ◇ ①民生委員のなり手がいない為、委員の居ない地区があること。
②民生委員と高齢対象者に年齢の相違がなく、同じまたは年長者である場合が多いこと→若年層が労働者になっているため、しかたないとも言えるがこれで良いのでしょうか？
③民生委員の研修、会合がほぼ平日の為、リタイヤ後でないとい委員をやるのが難しい現実はあると思います。個人としては土日希望していませんが、上記の理由はここにもあると思います。
- ◇ ひとり暮らし高齢者への支援、緊急時のネットワークが無い。安否確認ができない。
- ◇ 定例の民生委員会にて、潮来市福祉課、高齢福祉、社協からの福祉の話がありますが、民生委員との役割分担が線引きなく全て民生委員に渡す気ですか？
7月25日のゲートキーパー研修ですが、民生委員には負担が大きい。話し合いの結果、自殺した時、民生委員は自信を無くす。社会福祉課も専門担当へ廻すのでは。民生委員は一般人です。
- ◇ これから子供の数が少なくなり、学校の統合が進んでくると思います。大切な市の財産である学校を高齢者や子供たちの居場所づくりに利用出来たらいいですね。
校庭では野菜や果物を育ててみんなの生きがいがいづくりの環境ができたらいいと思います。ボランティアも農業の方の支援も必要と思いますが…。
- ◇ 大規模災害時において、要支援者に対しての手順を考えなければと思っています。
- ◇ 引き継ぐなり手がいないこと。社会福祉課、高齢福祉課、社会福祉協議会の連携がなっていない、何かあったとき、あっちへ行ったりこっちへ行ったりと手間がかかり時間がかかるので何とかならないか。一人暮らし高齢者について心配事があって尋ねに行っても個人情報だから教えられないと言われてしまう。個人情報を調べて提出しているのは民生委員にもかかわらず。守秘義務を守りながら役目を果たしているにもかかわらず。民生委員・児童委員がやりがいを感じるような役所の方々の対応の改善を望みます。誠意をもってきちんとやってくれる職員の方もいるので、こんなことを書いて申し訳ないのですが…。
- ◇ 民生委員になってまだ日が浅いので、課題が見えていません。
- ◇ 余りにも役員に頼り過ぎと感じる。以上の事から、仕事をしながらの活動に大きな負担を感じている。
- ◇ 引き受けてくれる人がいない事が課題。
- ◇ 区長及び民生委員は日頃頑張っているが、住民に理解されていないと思う。社協として更なるPRが必要と思われる。
- ◇ 認識も経験も不足しているため、潮来市の福祉についてよくわかっていない。長い間、市外で働いていたことと特別な問題もなく今まで生活できてきたので、これから勉強していかなくてはならないと感じています。
- ◇ 民生委員・児童委員の仕事内容をよく理解しないまま活動し、これでいいのかと思い悩んでいる。
- ◇ 少子高齢化に伴い、若い人の跡継ぎ不足の解消。地元に戻ってきてもいい環境づくり。

(民生委員の自由回答)

意見

- ◇ 区長よりも民生委員のなり手不足が深刻です！どちらの役職もボランティアの意味合いがあるのに報酬はケタ違いです！民生委員は国の制度だということなので、なり手不足を解消する為にも年間≒9万円の収入を上げるべきだと思います。それだけで解決には至らないが安すぎです！（国への要望は個人ではできない。市県単位でやっていただきたい）今後、民生委員が対応する見回り対象者は増える一方です。せめて道路を挟んだ向かいの地番に家族がいる高齢者は対象から外すべきと思いますが何とかありませんか？地区内で多いです。
- ◇ ・ひとり暮らし高齢者が年々増加している。民生委員ひとりではコンタクトをとって見守る活動が大変である。そういう方に関わっている組織との横のつながり（情報交換など）があるとよい。
・区長、民生委員のなり手がおらず、選出するのに苦労する。区民どうしの横のつながりを持って情報発信することが大切だと感じる。
- ◇ 児童委員活動を行う上で情報の共有が必要不可欠だと思います。市役所、学校を通じて情報が入ってくる仕組みができればと感じます。
- ◇ 安否確認等、訪問時に対応、会うことが出来ないことが多い。また、玄関呼び出しチャイムの不備も目立つ。何度も足を運ぶことがある。
- ◇ 民生委員が訪ねてくることに不快感を持たれてしまうことに寂しさを感じている。
- ◇ 超高齢の二人暮らしの見守り等の福祉サービスについて、80代で体が不自由、ヘルパーさんなどのサービスをお願いしたいが娘夫婦と同居しているため受けられない。（娘は精神障害があり家事などは出来ない）
- ◇ 潮来市役所の職員の数が少ない。福祉に力を入れたくても担当する人数が少ないとうまくいかない。社会福祉課、社会福祉協議会の情報が古い。調査物のデータが古い。何年も変わっていない。
- ◇ 1、区長を会合に出るようにしてください。
1、一人暮らしの家がちらかし放題、くもの巣だらけの家があり何とかならないでしょうか。
1、腰が痛く、足が痛く動けない人がいました。その人の担当の民生委員が来てくれましたが、役場に連絡をとりましたら事故があったら責任をとらなければならないから自分の車では行かない方がいいと言われ役場でもその人の為に何もしてくれませんでした。結局、次の日にタクシーで牛堀から白十字病院まで行きました。その人は生活保護です。そんなことがあっていいのでしょうか？役場でも車に乗せる前に「一切何があっても責任は負いません」の誓約書を作って名前を書いてもらって病院まで連れて行ってあげたらどうでしょうか。
- ◇ 1. ケアマネジャーを交えた勉強会。
・介護保険サービスの利用について ・介護保険の仕組みについて ・ケアプランについて
民生委員として、上記内容を理解した上で訪問すると良いのではないかと考える。
2. 一人暮らし高齢者を取り巻く、ケアマネ、社会福祉課、民生委員と役場と連携を図り、高齢者一人一人が安全かつ安心した生活が送れるような体制づくりが図れないかなと考える。
- ◇ 私が訪問した中で親族の付き合いがないため、緊急の場合に連絡する人がいないと相談があったが、私には判断ができないので社協に相談したら？と伝えた。仕事量のわりには手当てが少ない。金額を上げないと後任を探すのは難しいと他の人も言っている。
- ◇ 今年度、民生委員・児童委員を受け、その重要性を重く感じています。地域のひとのかかわりを大切に思うのと同時に、個人情報の扱い方に不安も感じています。
- ◇ 広報いたご情報版（新聞折込）、広報ITAKO（区費支払者のみ）、生活困窮者や高齢者に福祉対応策、市民活動等の情報が全くと言っていいほど分かっていない人が多数います。また、防災無線の聞きづらさを訴えていますので、今後は市役所（防災関係、福祉関係部署、区長さん）と連携をとり、問題解決に取り組んで行きたい。
- ◇ 災害時の要援護者の対応について。避難等の時は手伝ってほしいと言われているが、家も離れているしできるかどうかかわからないので不安。（滅多におこることではないが自分一人で動くのではなく、地区の消防団、区長さん等との連携をシミュレーションしてもいいのではと思う）
- ◇ 区長さんがとても協力的なのでとても助かっています。
- ◇ 最近では70歳位まで仕事に従事してる方が多いので民生委員を引き継いでくれる人がいません。なので委員の方が高齢者で現実は大変です。

(民生委員の自由回答)

意見

- ◇ 社協の会費は区長会かの収入になっています。市民の半数の世帯が未納になっている。会費を納めているのが損する感じがします。広く集める方法と、もっと身近に感じる社協にすることが大切です。広報誌きずなの配布方法、福祉大会のあり方、困りごと相談方法の検討等たくさんあります。頑張って市民を守ってください。
- ◇ ひと昔前なら「おせっかいおばさん」的な人が近所にたくさんいて、そのような人が地域住民をつなぐ役割をしていたと思うが、今はそれが必ずしも正解とは言えない時代である。適度な距離をキープしつつ視野を広く持ち、困っている方の助けになれるように行動する事が大切だと感じている。(難しいですが…)
- ◇ 地域社会の中で各世代での意見が噛み合わない。高齢者と中堅層では意識の違いが感じられる。
- ◇ ・訪問するのを嫌がる方も多く、憂うつになってしまうこともある。
・自治会に加入していない人が多く、近くに住んでいても顔も名前も分からない人がいる。災害時、情報がなく、協力できるのか心配である。
- ◇ 民生委員になって1年未満です。ひとり暮らし対象者が年々増加し、一人、二人でみている対象者が多すぎるのでは、だんだん民生委員になる人が少なくなるのではと心配しています。一人暮らしの少ない地区もあるでしょうが、多い地区では民生委員を増やしてもらいたいと思います。一人で見守りは10人前後ではないかと。
- ◇ ①一人暮らしを主にたずねるが、民生委員とはどんな仕事、役割をしているか知らず、コミュニケーションがとりづらい。
②行政とのつながりが薄いように感じる。行政のすること。民生委員がすることの役割が少々あいまいかな。
③月の定例会は有意義です。市とのつながり、役割を感じます。
- ◇ これからますます高齢化が進み、民生委員の担当が増える一方です。65歳以上のひとり暮らしですが、60代はまだまだ元気に仕事をしている方も多く自立しています。民生委員の見廻りは70歳以上のひとり暮らしに基準をあげてもよいのではないかと思います。
- ◇ 職を持ちながら効率的な活動をされる委員は多い。一方、活動中の困難性に悩みを持つ方も多い。組織として、個々の評価をしながら、困難性の緩和の為の対応も必要。行政においても、理解と支援を120%お願いします。
- ◇ 行動範囲が狭く、地域の様子があまり分からないので、これからは色々な行事に参加して見聞を広めたい。
- ◇ 牛堀地区は過疎地域に指定され、若者が減少しています。高齢者世帯が増加し、老々介護が懸念されます。支える側の人材をどうするか心配です。

(3) ボランティアアンケート

I ボランティア活動について

問1 あなたが行っているボランティア活動について教えてください。

回答者総数=18人

1. 高齢者等	10 (55.6)	3. 児童	10 (55.6)
2. 障がい者(児)	4 (22.2)	4. その他()	5 (27.8)
		無回答	0 (0.0)

主な活動内容	<p>[簡単で結構です]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援 ・施設訪問、地域コミュニティ活動 ・延方駅前の花壇の整備、放課後子ども教室、金融の勉強会、子ども食堂、各種イベントへの協力、県生活学校の活動の協力参加（食品ロス、コンポストづくり） ・薬物乱用防止の啓発について、若者を中心に行っている ・社会を明るくする運動、防犯パトロール、子育て広場支援 ・1. 防犯パトロール 2. 公園の美化 3. 街路樹の管理 ・学校福祉の授業、車イス疑似体験、高齢者への関わり ・（4名の）役員で、区の行事等をこなすこと。区民をリードする。・公園の美化活動、こどもを守る安全パトロール。・回覧物の管理、区民への促し。・親睦活動などの企画など。 ・週一回、区内をパトロールしている。・年3回、立哨交通誘導している。 ・小学校高学年を対象に車イス体験、疑似体験 ・子ども食堂 ・あやめまつりや風の音しらべ、イベントのお手伝い。花嫁人形箸袋のワークショップ。・男の料理教室（1回/年）。・リサイクル改修で環境改善。 ・①高齢者施設で入所者の衣服の繕い、お直し、介護グッズづくりなど（コロナで休止状態）②社協の依頼により新小学生の給食袋繕い。 ・月1回、市役所から発行された“広報いたこ”を“声の広報いたこ”として目の不自由な人等にテープを吹き込み聞いていただいています。 ・食を通して、健康を考える。 ・1. 高齢者、障がい者の付き添い介助（遠足やスポーツ等）2. 手話の勉強、福祉に対する勉強や研修 ・防犯パトロール ・美化推進活動 ・赤ちゃんふれあい体験授業の実施、冒険遊び場の開催など
--------	---

問2 ボランティア活動にやりがいを感じますか。（1つに○）

回答者総数=18人

1. とてもやりがいがある	11 (61.1)	3. どちらかといえば、やりがいがない	0 (0.0)
2. どちらかといえば、やりがいはある	7 (38.9)	4. まったくやりがいがない	0 (0.0)
		無回答	0 (0.0)

問3 ボランティア活動上の課題や問題点がありますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=18人

1. とくにない	0 (0.0)
2. ボランティア活動の大切さが理解されていない	2 (11.1)
3. 活動のPR方法がわからない	2 (11.1)
4. ニーズが把握できない	3 (16.7)
5. 活動場所の確保が難しい	2 (11.1)
6. 活動に経費がかかる	5 (27.8)
7. 他の団体や関係機関と連携がとれない	4 (22.2)
8. 新しい会員が入ってこない	13 (72.2)
9. 会員が高齢化している	13 (72.2)
10. リーダーが不足している	5 (27.8)
11. その他 ()	2 (11.1)
無回答	0 (0.0)

問4 今後、活動内容を広げたい点や強化したい点などがありますか。(1つに○) 回答者総数=18人

1. ある	12 (66.7)	2. ない	6 (33.3)
		無回答	0 (0.0)

【その内容をご記入ください。】

- ・施設慰問等、PRの方法があると良い。
- ・他の団体等との連携ができるといいと思います。
- ・学生を中心にイベント等を行い、啓発を行う。
- ・子育て中の方々にアプローチして悩みや苦労を共にしたい。
- ・学校の実習時間が短すぎる。30分増す。
- ・市まつり時に協力、物づくりに人材不足、不安を感じています。
- ・体験活動に協力いただける人の情報を知りたい。マンネリしないような企画を心がけたい。
- ・地域に高齢者が集まれる場を増やしたい(サロンなど)。健康寿命を延ばすことが目的で高齢者が雑談や運動も楽しむ場の運営や手伝いが出来れば…。eスポーツなどの取り組みも良いと思う。
- ・会員が高齢化して続けるのが難しくなっていますが、以前より集まりが良く細々と続けています。目も悪くなって続けていくのが大変なのですが、という状況です。
- ・会員を増やしたい。
- ・ニーズが把握できてないので、関係機関と連携し、必要な事を活動していきたい。
- ・助成金に頼らず事業継続できるようにしていきたい。

Ⅱ 安心して暮らせる福祉のまちづくりについて

問5 あなたは「地域共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

回答者総数=18人

1. 理解している	9 (50.0)	3. 知らなかった	2 (11.1)
2. 聞いたことはある	6 (33.3)		

無回答

1 (5.6)

問6 お住まいの地域をみて、気になること、問題と覚えることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=18人

1. お祭りや行事の衰退	7 (38.9)	11. 施設や道路のバリアフリーの問題	4 (22.2)
2. 住民同士の交流機会の減少	10 (55.6)	12. 災害など非常時の協力体制に不安がある	6 (33.3)
3. 新旧住民の交流が少ない	7 (38.9)	13. 福祉に対する住民の理解が低い	3 (16.7)
4. 地域に子ども・若者が少ない	8 (44.4)	14. 高齢者の一人暮らしや母子家庭などが地域で孤立するケースがみられる	4 (22.2)
5. 地区の役員のなり手が不足	10 (55.6)	15. 子どもや高齢者等への虐待を懸念するケースがみられる	0 (0.0)
6. 地域組織のつながりが減少	7 (38.9)	16. 障がい者への支援が必要と思われるケースがみられる	0 (0.0)
7. 交通など移動手段の問題	9 (50.0)	17. その他 ()	1 (5.6)
8. 日常の買い物のしやすさ	1 (5.6)	18. とくにない	0 (0.0)
9. 防犯・治安・風紀の問題	2 (11.1)		
10. 地域の医療体制の問題	8 (44.4)		

無回答

1 (5.6)

問7 地域福祉を推進するうえで、「社会福祉協議会」は重要な役割を担っています。あなたは、潮来市社会福祉協議会にどのようなことを期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=18人

1. 様々な困りごとに対して、専門性の高い相談援助活動の充実	5 (27.8)
2. 地域の様々な関係機関と連携した福祉ネットワークの強化	10 (55.6)
3. 精神障がい者、発達障がい者、ひきこもりの方等への支援活動の充実	8 (44.4)
4. 権利擁護活動の充実	3 (16.7)
5. 「フードバンク活動」など生活困窮世帯への支援活動の充実	2 (11.1)
6. ボランティアセンターの環境整備や情報発信の強化	4 (22.2)
7. 市民との協働による福祉意識の向上や、ボランティア・コミュニティ活動の充実	6 (33.3)
8. 支え合い活動の充実	4 (22.2)
9. 災害ボランティアの受け入れ体制の整備	5 (27.8)
10. 学校や企業への福祉教育支援による福祉意識の土壌づくり	4 (22.2)
11. 時代のニーズに即応できる社協の組織体制の強化	9 (50.0)
12. その他 ()	0 (0.0)
13. とくにない	0 (0.0)
無回答	1 (5.6)

問8 福祉のニーズが多様化・複雑化しており、すべての人が安心して暮らし続けられる福祉のまちづくりが課題となっています。潮来市の福祉の取り組みについて、あなたはどのように評価しますか。(項目ごと1つずつ○)

回答者総数=18人

	1. 評価する	2. どちらかといえ ば評価する	3. どちらとも いえない	4. どちらかといえ ば評価しない	5. 評価しない	無回答
ア) 住民の困りごとを幅広く受け止め、丁寧できめ細かな相談支援体制	3 (16.7)	5 (27.8)	8 (44.4)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)
イ) ひきこもり状態にある人など、多様な社会参加に向けた支援	0 (0.0)	5 (27.8)	9 (50.0)	2 (11.1)	1 (5.6)	1 (5.6)
ウ) 地域の見守り活動など、市民の主体的な活動の支援	5 (27.8)	1 (5.6)	10 (55.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)
エ) 大規模地震や風水害等の災害時の避難行動要支援者対策の充実	1 (5.6)	4 (22.2)	10 (55.6)	2 (11.1)	0 (0.0)	1 (5.6)
オ) 地域で支え合う仕組みやきっかけづくり	1 (5.6)	3 (16.7)	12 (66.7)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)
カ) 地域住民が交流できる居場所づくりの充実	1 (5.6)	4 (22.2)	9 (50.0)	3 (16.7)	0 (0.0)	1 (5.6)
キ) 学習機会を通じた市民の福祉意識の向上	0 (0.0)	5 (27.8)	11 (61.1)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)
ク) 制度や福祉サービスの情報提供の充実	1 (5.6)	5 (27.8)	10 (55.6)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)
ケ) 福祉サービス提供事業者の充実	1 (5.6)	4 (22.2)	11 (61.1)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)

問9 潮来市の福祉の取り組みについて、今後、力を入れるべき施策はなんですか。

(項目ごと1つずつ)

回答者総数=18人

	1. とても重要	2. 重要な 施策だと いえ	3. いえ ない どちら とも	4. 重要な 施策 でない と いえ	5. 重要 でない	無 回 答
ア) 住民の困りごとを幅広く受け止め、丁寧できめ細かな相談支援体制	8 (44.4)	5 (27.8)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)
イ) ひきこもり状態にある人など、多様な社会参加に向けた支援	6 (33.3)	7 (38.9)	1 (5.6)	1 (5.6)	0 (0.0)	3 (16.7)
ウ) 地域の見守り活動など、市民の主体的な活動の支援	10 (55.6)	4 (22.2)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)
エ) 大規模地震や風水害等の災害時の避難行動要支援者対策の充実	10 (55.6)	4 (22.2)	2 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)
オ) 地域で支え合う仕組みやきっかけづくり	8 (44.4)	9 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)
カ) 地域住民が交流できる居場所づくりの充実	6 (33.3)	11 (61.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)
キ) 学習機会を通じた市民の福祉意識の向上	2 (11.1)	11 (61.1)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)
ク) 制度や福祉サービスの情報提供の充実	5 (27.8)	8 (44.4)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)
ケ) 福祉サービス提供事業者の充実	7 (38.9)	5 (27.8)	3 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (16.7)

最後に、ボランティア活動を行う上で、課題と感じていることがありましたら教えてください。

《ボランティア団体の自由回答》

意見

- ◇ 市内、各ボランティア団体の代表者とそれぞれの今を語り合い、相互に協力体制をしていたボランティア協議会の開催により連携も無くなり、地域の情報交換も無くなりました。民生委員さんの担当は65歳以上一人暮らしと限られる中、一人、ひきこもり世帯の若者も増えています。
- ◇ ・ボランティア活動を行っている会員が高齢化していることと、(若い)新しい会員が入ってこないことです。
・廃品回収を毎月実施していますが、実施者が高齢者になってきている為、軽トラで廃品を積んで運んだり、おろしたりすることが大変負担になってきています。何かいい方法があれば教えていただきたいです。
- ◇ 各関連団体との連携等。コロナ明けで各団体がイベント等に慣れていないため、どう通常どおりに行事を行うか。
- ◇ 高齢化が進み、次世代育成が難しい状況の中で、自分ができることは自分で…。みんなで協力する所はみんなで…。行政に支えて頂くところは行政で…。自助、共助、公助の精神でボランティアをすることの意義が伝わっていないかな…。
※かすみ保健センターの駐車場の車止めに色をつけたらどうか？先日、それにつまづき転んだ高齢者がいらっしまったので。
- ◇ 会員の高齢化。
- ◇ 高齢化となり、ボランティア活動への参加者が減少となっている。ボランティア参加者の見返り等はどのようにでしょうか？
- ◇ ボランティア活動をやっているのですが、まず、ボランティアには向き、不向きがあるように思います。生まれつきの「性格」でしょうか。誰にでも笑顔で接し、場を明るくしようと努力している人、それができる人、そういった人が地域にほどよくいたら、この活動は何をやっても成功すると思います。(そこにそういう人がいてくれたら…。と思うところです)
☆課題としては、人的な課題ってこと？かな。
- ◇ 高齢者でも体力の個人差が大きいので、中々参加してもらうのが難しい。
- ◇ 社協ボランティア、高齢化になり若い人が入ってこない。これが心配です。
- ◇ ①ボランティア同士が良い関係で活動をしてもらえること。
②仕事もしていますので、ボランティアは多い方がいいです。しかし、色々な人がいて、人選も必要となりますので難しい面が課題です。
- ◇ 超高齢化になりつつある昨今、ボランティア活動には公共交通の充実が望まれる。80歳以上の人が車の免許を返納するには、乗り合いデマンドタクシーなど使い勝手の良い交通手段の整備が急がれます。団塊世代の人が80歳になる前に実現してほしい。
- ◇ 活動を始めて20年以上過ぎ、会員の年齢もほぼ80歳半ば。活動の足として大事な車の免許返納する人も出て、他人を乗せて万一のことを考え乗せるのも乗せてもらう方も気安く声かけられなくなっている。ここ3年コロナのため活動休止の間に体力も落ち、そろそろ世代交代かとも。若い人が入会してくれるとよいのだが。
- ◇ 会員の不足、高齢化。
- ◇ 障がい者、高齢者な方が、私たちのほんの少しの手助けで、生き生きと生活が出来たらいいと思います。ニーズが把握できていないので、社協や関係機関より、連絡又は情報の提供をお願いします。
- ◇ ボランティア及び地域の参加者が少なく、活動する人が限られています。活動する人も高齢者がメインとなっているのが現状です。区加入者が減少しているのも原因と思います。

(4) -① 中学生アンケート

問1 あなたの学年は。(1つに○)

回答者総数=357人

1. 中学1年生	109 (30.5)	3. 中学3年生	142 (39.8)
2. 中学2年生	106 (29.7)		

無回答 0 (0.0)

問2 あなたは、「福祉のまちづくり」が大切だと思いますか。(1つに○)

回答者総数=357人

1. はい	310 (86.8)	3. わからない	42 (11.8)
2. いいえ	2 (0.6)		

無回答 3 (0.8)

問3 あなたは、今までに学校以外の活動で、ボランティアに参加したことがありますか。(1つに○)

回答者総数=357人

1. 参加している	49 (13.7)	3. 参加したことがない	172 (48.2)
2. 参加したことがある	133 (37.3)		

無回答 3 (0.8)

問4 あなたが今後、参加してみたいボランティア活動は。(1つに○)

回答者総数=357人

1. お年寄りの手助け	76 (21.3)	6. 交通安全、防犯活動	52 (14.6)
2. 障がいのある方の手助け	54 (15.1)	7. 自然環境保全、リサイクル活動	98 (27.5)
3. 乳幼児や子どもの遊び相手	110 (30.8)	8. 学習やスポーツ活動	102 (28.6)
4. 地域のゴミ拾い、美化活動	197 (55.2)	9. その他	3 (0.8)
5. 消防 防災 災害ボランティア活動	54 (15.1)	10. とくにない	51 (14.3)

無回答 2 (0.6)

問5 あなたがボランティア活動を活発にしていくために大切だと思うこと。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=357人

1. ボランティア活動の大切さを学校で教える	188 (52.7)
2. ボランティア活動の大切さを広報紙などで知らせる	90 (25.2)
3. どのようなボランティア活動があるか情報を発信する	152 (42.6)
4. ボランティア活動について相談できる場所を充実する	61 (17.1)
5. 初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う	225 (63.0)
6. ボランティア活動をする場所を確保し整備する	59 (16.5)
7. 頑張っている活動している仲間にお金を援助する	38 (10.6)
8. ボランティア活動でも、ある程度のお金をもらえるようにする	60 (16.8)
9. リーダーとなる人材を育てる	25 (7.0)
10. その他	3 (0.8)
11. わからない	31 (8.7)

無回答 2 (0.6)

問6 あなたは、自分の悩みや困ったとき、誰に（どこに）相談しますか。

（あてはまるものすべてに○）

回答者総数=357人

1. 家族	236 (66.1)	6. SNS (インターネットなどで相談)	19 (5.3)
2. 友だち	256 (71.7)	7. その他	5 (1.4)
3. 地域の知り合い	6 (1.7)	8. 相談できる人はいない	12 (3.4)
4. 学校の先生	89 (24.9)	9. 誰にも相談したくない	42 (11.8)
5. 病院、カウンセラー	13 (3.6)		

無回答 2 (0.6)

問7 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。（1つに○）

回答者総数=357人

1. いる	50 (14.0)	2. いない → (問8に進む)	301 (84.3)
-------	-----------	------------------	------------

無回答 6 (1.7)

問7-1 あなたのお世話を必要としているのは、誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

回答者総数=50人

1. お母さん	10 (20.0)	4. おばあちゃん	6 (12.0)
2. お父さん	0 (0.0)	5. きょうだい	16 (32.0)
3. おじいちゃん	4 (8.0)	6. その他	5 (10.0)

無回答 9 (18.0)

問7-2 あなたがお世話をするのは、どのくらいですか。（1つに○） 回答者総数=50人

1. ほぼ毎日	14 (28.0)	4. 1か月に数日くらい	8 (16.0)
2. 週に3~5日くらい	7 (14.0)	5. その他	4 (8.0)
3. 週に1~2日くらい	10 (20.0)		

無回答 7 (14.0)

問7-3 あなたがお世話をしていることで、次のようなことがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

回答者総数=50人

1. 学校に行きたくても行けないことがある	3 (6.0)	6. 部活や習い事ができない、やめた	0 (0.0)
2. どうしても学校を遅刻、早退してしまう	1 (2.0)	7. 自分の自由な時間がとれない	8 (16.0)
3. 宿題や勉強の時間がとれない	4 (8.0)	8. その他	1 (2.0)
4. 睡眠が十分にとれない	5 (10.0)	9. とくにない	31 (62.0)
5. 友だちと遊ぶ時間がとれない	1 (2.0)		

無回答 4 (8.0)

問7-4 問7-4 あなたのお世話を必要とする家族がいることを、誰かに相談したことがありますか。（1つに○）

回答者総数=50人

1. ある	5 (10.0)	2. ない	42 (84.0)
-------	----------	-------	-----------

無回答 3 (6.0)

【全員にうかがいます。】

問8 あなたは、将来、福祉関係の仕事をしたと思いますか。(1つに○)

回答者総数=357人

1. はい	38 (10.6)	3. わからない	210 (58.8)
2. いいえ	102 (28.6)		

無回答 7 (2.0)

問9 「福祉のまちづくり」を進めるために、どのような取り組みが重要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=357人

1. しっかり悩みを聞いてくれる人や相談できる場所を増やす	224 (62.7)
2. 困っている人が、誰かと関われるきっかけをつくる	164 (45.9)
3. ボランティア活動など、自分の意思で積極的に行動する	127 (35.6)
4. 災害が発生したときに避難できない人を助ける仕組みをつくる	129 (36.1)
5. 生活の中でお互いに助けたり、助けられたりする仕組みをつくる	141 (39.5)
6. 地域の住民と一緒に交流できる場所をつくる	103 (28.9)
7. 福祉の関心が高まるような学習を行う	94 (26.3)
8. 福祉に関するいろいろな情報をお知らせする	88 (24.6)
9. 福祉の仕事を行う会社をたくさん増やす	53 (14.8)
10. その他	1 (0.3)
11. わからない	46 (12.9)

無回答 6 (1.7)

(4) -② 高校生等アンケート

問1 あなたの学年は。(1つに○)

回答者総数=383人

1. 高校1年生	100 (26.1)	3. 高校3年生	115 (30.0)
2. 高校2年生	159 (41.5)	4. その他	9 (2.3)
無回答			0 (0.0)

問1-1 あなたのお住まいの地域は。(1つに○)

回答者総数=383人

1. 市内	231 (60.3)	2. 市外	152 (39.7)
無回答			0 (0.0)

問2 あなたは、「福祉のまちづくり」が大切だと思いますか。(1つに○)

回答者総数=383人

1. はい	324 (84.6)	3. わからない	56 (14.6)
2. いいえ	3 (0.8)		
無回答			0 (0.0)

問3 あなたは、今までに学校以外の活動で、ボランティアに参加したことがありますか。(1つに○)

回答者総数=383人

1. 参加している	34 (8.9)	3. 参加したことがない	241 (62.9)
2. 参加したことがある	108 (28.2)		
無回答			0 (0.0)

問4 あなたが今後、参加してみたいボランティア活動は。(1つに○)

回答者総数=383人

1. お年寄りの手助け	97 (25.3)	6. 交通安全、防犯活動	53 (13.8)
2. 障がいのある方の手助け	54 (14.1)	7. 自然環境保全、リサイクル活動	80 (20.9)
3. 乳幼児や子どもの遊び相手	129 (33.7)	8. 学習やスポーツ活動	118 (30.8)
4. 地域のゴミ拾い、美化活動	161 (42.0)	9. その他	2 (0.5)
5. 消防 防災 災害ボランティア活動	50 (13.1)	10. とくにない	71 (18.5)
無回答			1 (0.3)

問5 あなたがボランティア活動を活発にしていくために大切だと思うこと。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=383人

1. ボランティア活動の大切さを学校で教える	160 (41.8)
2. ボランティア活動の大切さを広報紙などで知らせる	56 (14.6)
3. どのようなボランティア活動があるか情報を発信する	164 (42.8)
4. ボランティア活動について相談できる場所を充実する	44 (11.5)
5. 初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う	248 (64.8)
6. ボランティア活動をする場所を確保し整備する	82 (21.4)
7. 頑張っている仲間にお金を援助する	53 (13.8)
8. ボランティア活動でも、ある程度のお金をもらえるようにする	94 (24.5)
9. リーダーとなる人材を育てる	36 (9.4)
10. その他	6 (1.6)
11. わからない	43 (11.2)
無回答	1 (0.3)

問6 あなたは、自分の悩みや困ったとき、誰に(どこに)相談しますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=383人

1. 家族	250 (65.3)	6. SNS (インターネットなどで相談)	30 (7.8)
2. 友だち	278 (72.6)	7. その他	3 (0.8)
3. 地域の知り合い	13 (3.4)	8. 相談できる人はいない	13 (3.4)
4. 学校の先生	93 (24.3)	9. 誰にも相談したくない	42 (11.0)
5. 病院、カウンセラー	19 (5.0)		
無回答	1 (0.3)		

問7 家族の中に、あなたがお世話をしている人はいますか。(1つに○)

回答者総数=383人

1. いる	38 (9.9)	2. いない → (問8に進む)	339 (88.5)
無回答	6 (1.6)		

問7-1 あなたのお世話を必要としているのは、誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=38人

1. お母さん	11 (28.9)	4. おばあちゃん	4 (10.5)
2. お父さん	1 (2.6)	5. きょうだい	16 (42.1)
3. おじいちゃん	4 (10.5)	6. その他	1 (2.6)
無回答	1 (2.6)		

問7-2 あなたがお世話をするのは、どのくらいですか。(1つに○) 回答者総数=38人

1. ほぼ毎日	20 (52.6)	4. 1か月に数日くらい	4 (10.5)
2. 週に3~5日くらい	3 (7.9)	5. その他	0 (0.0)
3. 週に1~2日くらい	9 (23.7)		

無回答 2 (5.3)

問7-3 あなたがお世話をしていることで、次のようなことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=38人

1. 学校に行きたくても行けないことがある	5 (13.2)	6. 部活や習い事ができない、やめた	3 (7.9)
2. どうしても学校を遅刻、早退してしまう	3 (7.9)	7. 自分の自由な時間がとれない	7 (18.4)
3. 宿題や勉強の時間がとれない	8 (21.1)	8. その他	0 (0.0)
4. 睡眠が十分にとれない	5 (13.2)	9. とくにない	22 (57.9)
5. 友だちと遊ぶ時間がとれない	6 (15.8)		

無回答 2 (5.3)

問7-4 問7-4 あなたのお世話を必要とする家族がいることを、誰かに相談したことがありますか。(1つに○)

回答者総数=38人

1. ある	8 (21.1)	2. ない	28 (73.7)
-------	----------	-------	-----------

無回答 2 (5.3)

【全員にうかがいます。】

問 8 あなたは、将来、福祉関係の仕事をしたと思いますか。(1つに○)

回答者総数=383人

1. はい	40 (10.4)	3. わからない	144 (37.6)
2. いいえ	189 (49.3)		

無回答 10 (2.6)

問 9 「福祉のまちづくり」を進めるために、どのような取り組みが重要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

回答者総数=383人

1. しっかり悩みを聞いてくれる人や相談できる場所を増やす	210 (54.8)
2. 困っている人が、誰かと関われるきっかけをつくる	168 (43.9)
3. ボランティア活動など、自分の意思で積極的に行動する	94 (24.5)
4. 災害が発生したときに避難できない人を助ける仕組みをつくる	108 (28.2)
5. 生活の中でお互いに助けたり、助けられたりする仕組みをつくる	125 (32.6)
6. 地域の住民と一緒に交流できる場所をつくる	103 (26.9)
7. 福祉の関心が高まるような学習を行う	103 (26.9)
8. 福祉に関するいろいろな情報をお知らせする	81 (21.1)
9. 福祉の仕事を行う会社をたくさん増やす	56 (14.6)
10. その他	6 (1.6)
11. わからない	59 (15.4)

無回答 7 (1.8)

潮来市
地域福祉に関するアンケート
結果報告書
令和5年10月発行

〔発行〕 潮来市
〔編集〕 潮来市 市民福祉部 社会福祉課
Tel 0299 (63) 1111 (代) / Fax 0299 (80) 1410
〔調査・分析〕 ㈱まち研
